

平成 27 年度
老人保健事業推進費等補助金
(老人保健健康増進等事業分)

介護保険における福祉用具サービスを
シームレスに提供するために必要な方策に関する
調査研究事業

報 告 書

平成 28 年 3 月

一般社団法人日本作業療法士協会

はじめに

本調査は平成 27 年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)の補助を得て、一般社団法人日本作業療法士協会が実施したものです。

要介護高齢者の一定割合を占めている障害(麻痺、関節性疾患、進行性疾患、神経性疾患など)対応の福祉用具利用者については、適切な用具の適用・利用のためには医学的な知識・経験が必要です。生活期リハビリテーションにおいては多職種の協働・連携により対応することになりますが、その場合においても医学的な知識・経験を有するリハ専門職が主体的に参加することが重要です。

こうした問題意識に基づき日本作業療法士協会では、自立支援に資する福祉用具の利用に向けたリハ専門職関与のモデルを提案してきました。具体的には医療機関内では看護師をはじめとする他職種との連携と福祉用具貸与の利用を前提として、リハ専門職が福祉用具の導入・利用とその運用管理を主導します。さらに退院に際しては居宅の介護支援専門員、福祉用具貸与事業者と連携し、福祉用具を用いた自立支援の環境と生活行動の継続確保を図るモデルを提案し、実証事業を行いました。その成果から、平成 25 年度に回復期リハ(医療)から生活期リハ(介護)への連携モデルを提示し、リハ専門職と居宅の介護支援専門員、福祉用具事業者との連携マニュアルを作成し、推奨してきました。

本調査では、これまでの実態調査、実証事業、生活行為向上マネジメント普及活動などの成果を踏まえつつ、環境が変化しても適切な福祉用具を継続して(シームレスな)利用することの効果を示すことをねらいとして、シームレスな利用の事例集を作成しました。

継続的な福祉用具利用を実践する医療機関、高齢者施設にご協力いただき、利用者の状態に適応する福祉用具をシームレスに活用することによって得られる有効性を種々の指標で把握しました。こうした情報が関係者間で広く共有されて、さらに有効で効率的な福祉用具の利用が普及することを期待します。

平成 28 年 3 月

一般社団法人日本作業療法士協会

目次

1. 調査の背景とねらい.....	1
2. 事例調査の概要.....	6
2-1. 本年度調査の設計	6
2-2. 調査実施要領.....	10
2-3. 事例収集の実施体制と収集概要.....	17
3. 効果的なシームレス利用の事例集.....	20
3-1. 事例の概要と整理の体系.....	20
3-2. 収集事例の紹介	23
4. シームレス利用モデルをより効果的なものとする方策の検討.....	60
4-1. 収集事例のまとめ	60
4-2. シームレス利用モデルに関する検討	61
参考資料.....	63

1. 調査の背景とねらい

(1) これまでの経過

要介護高齢者に適切な介護サービスを提供するためには、病院・介護施設・居宅等いずれの介護環境に移動しても、利用者の状況に適応する福祉用具を継続して利用することが重要である。

居宅においては福祉用具貸与サービスを用いることで状態変化が生じてもそれまでの療養、介護の経過を踏まえた適切な福祉用具を用いることが可能となっているが、居宅から医療機関あるいは介護施設へ入院・入所した際には福祉用具は備品での対応となり適切な福祉用具利用の継続性が中断することが指摘されており、継続性を確保する方策の検討が課題となっている。

こうした問題意識に基づき日本作業療法士協会では、自立支援に資する福祉用具の利用に向けたリハ専門職関与のモデルを提案した。具体的には医療機関内では看護師をはじめとする他職種との連携と福祉用具貸与の利用を前提として、リハ専門職が福祉用具の導入・利用とその運用管理を主導し、さらに退院に際しては居宅の介護支援専門員、福祉用具貸与事業者と連携し、福祉用具を用いた自立支援の環境と生活行動の継続確保を図るモデルを提案している。

平成 25 年度に回復期リハ（医療）から生活期リハ（介護）への連携モデルを提示し、リハ専門職と居宅の介護支援専門員、福祉用具事業者との連携マニュアルを作成した。平成 26 年度は全国の医療機関、老健施設を対象とした実態調査を行い、連携モデルお普及に向けた課題を整理した。

また作業療法の立場から、医療、介護、予防、住まいおよび生活支援サービスが生活の場で切れ目なく適用できる地域での体制作りをねらいとした生活行為向上マネジメントの普及にも平成 20 年から取り組んできている。

これまでの検討経過は以下のとおりである。

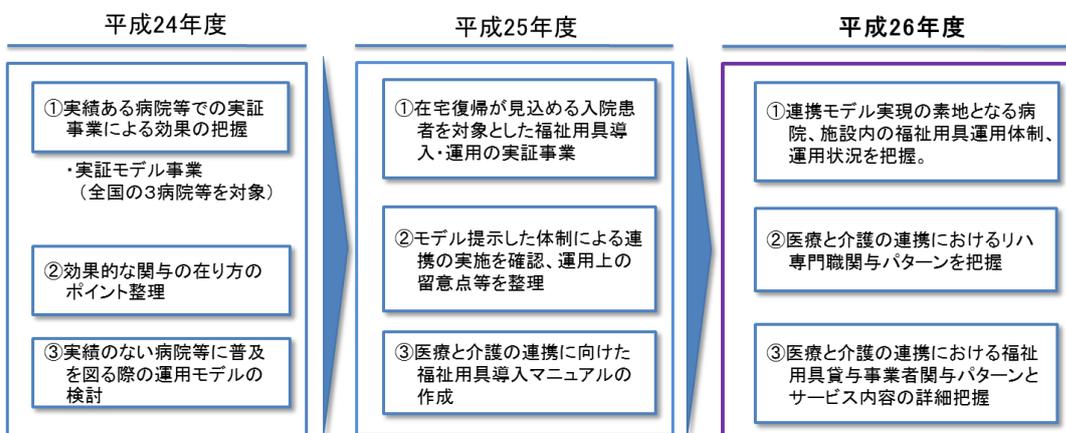
【H25年度事業の成果】

- ・医療機関、リハビリテーション施設における福祉用具利用に際して、リハ専門職(OT、PT、ST 等) が適切に関与できる運営体制の実証
- ・退院後の居宅生活における生活環境維持の観点から、医療機関と居宅介護チームとの連携体制の実証
- ・医療と介護の連携体制構築を想定した福祉用具導入手順のマニュアル作成

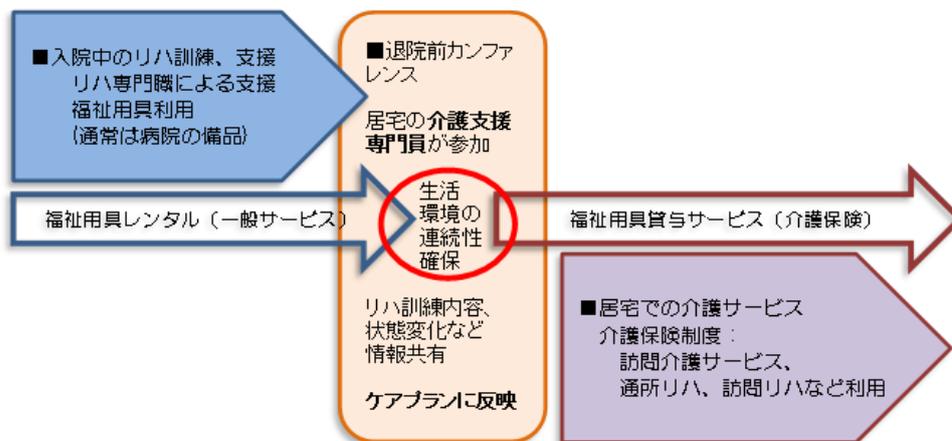
【H26年度事業の成果】

- ・医療機関、リハビリテーション施設における福祉用具利用に際しての、リハ専門職 (OT、PT、ST 等) と福祉用具貸与事業者関与の詳細パターン、福祉用具サービスの実態を把握
⇒ 連携モデル普及の素地を把握
- ・備品よりも良い福祉用具が安価で貸与される条件を整理 ⇒ 連携促進のための環境整備方策を検討

図表 1 これまでの検討経過



図表 2 福祉用具利用による医療と介護の連携モデル

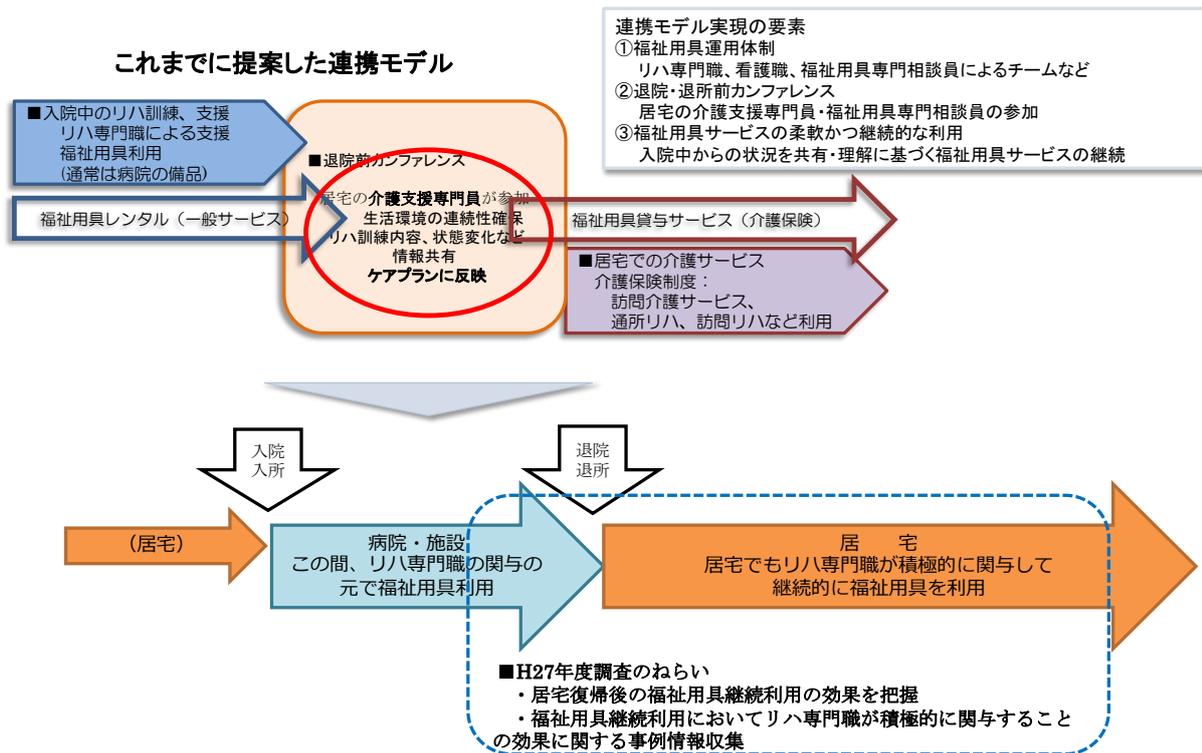


(2) 調査の目的

本調査は、これまでに提唱してきた福祉用具利用の連携モデルに関する実態調査、実証事業、さらに生活行為向上マネジメント普及活動などの成果を踏まえつつ、環境が変化しても適切な福祉用具を継続して（シームレスな）利用することで身体機能が維持・向上した、あるいは生活や活動が活発になったといった事例情報を収集し、その情報を提供することを目的とした。

そのために、継続的な福祉用具利用を実践する医療機関、高齢者施設にご協力いただき、利用者の状態に適応する福祉用具をシームレスに活用することによって得られる有効性を種々の指標で把握した。さらにシームレスな福祉用具利用を実現するための専門職の関与や関係機関での情報共有システムの整備など、有効で効率的な運用方策について検討した。

図表 3 平成 27 年度事業のねらい



(3) 検討体制

本調査における全体構成、実証事業実施のモデル地域の選定、実証すべき項目、実証データ収集の方法、収集したデータの分析方法、分析結果に基づいた介護支援専門員、福祉用具貸与事業者（福祉用具専門相談員）なども含めた関係機関との連携・情報共有のあり方などを検討するために委員会を設置した。

また、具体的な実証方法を検討するため、実証モデル事業実施地域の専門職と検討委員会メンバーから構成される作業部会を設置した。

検討委員名簿

(50音順・敬称略)

	氏 名	所 属
1	石 橋 進 一	一般社団法人 シルバーサービス振興会 参与
2	伊 藤 隆 夫	医療法人社団輝生会船橋市立リハビリテーション病院
3	岩 元 文 雄	一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 理事長
4	栗 原 正 紀	一般社団法人日本リハビリテーション病院・施設協会 会長
5	近 藤 国 嗣	一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会 理事
6	土 井 勝 幸	公益社団法人全国老人保健施設協会委員
7	中 林 弘 明	一般社団法人 日本介護支援専門員協会 副会長
8	中 村 春 基	一般社団法人日本作業療法士協会 会長
9	野 尻 晋 一	医療法人社団 寿量会 介護老人保健施設清雅園 福祉施設長
10	半 田 一 登	公益社団法人日本理学療法士協会 会長
11	深 浦 順 一	一般社団法人日本言語聴覚士協会 会長
○12	渡 邊 慎 一	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 医療部担当部長

○は委員長

[オブザーバー]

厚生労働省老健局振興課

東 祐二 福祉用具・住宅改修指導官 介護支援専門官

[事務局]

一般社団法人	日本作業療法士協会	福祉用具対策委員	北島	栄二
一般社団法人	日本作業療法士協会	福祉用具対策委員	河口	青児
一般社団法人	日本作業療法士協会	事務局	谷津	光宏
(株)三菱総合研究所	人間・生活研究本部	主席研究員	橋本	政彦
(株)三菱総合研究所	人間・生活研究本部	主任研究員	江崎	郁子

2. 事例調査の概要

2-1. 本年度調査の設計

(1) 調査仮説

事例調査を実施するに際して以下の調査仮説を設定した。

【調査仮説】

病院・施設から居宅に環境が変化しても、リハ専門職が適切に関与することにより、福祉用具が有効に活用される。

⇒利用者の身体機能、生活行動機能などが維持される、あるいは向上する。

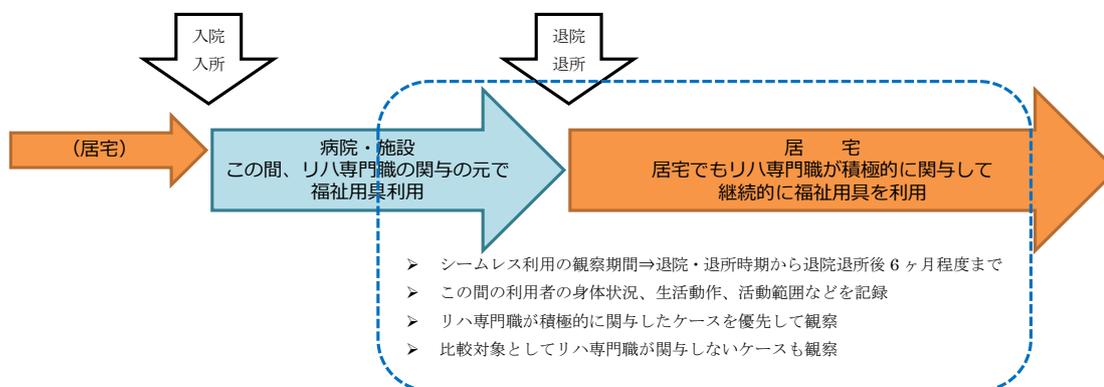
(2) シームレス利用モデル（調査対象モデル）

調査仮説を踏まえて、事例収集の対象とするシームレス利用のモデルを以下のように設定した。

【シームレス利用モデル】

- ・ 現在、あるいは過去に入院（入所）経験があり、その後に退院（退所）している（退院（退所）する予定である）など、1回以上の環境変化を経験。
- ・ 入院・入所中に福祉用具を利用し、退院・退所など、環境変化後も福祉用具を利用している。
- ・ 入院・入所中から退院・退所後まで、積極的かつ継続的にリハ専門職が関与し福祉用具の選定／利用指導を適切に実施している。
- ・ 環境変化の前後で、福祉用具の利用状況と身体状況を把握できる。

図表 4 シームレス利用モデルのイメージ

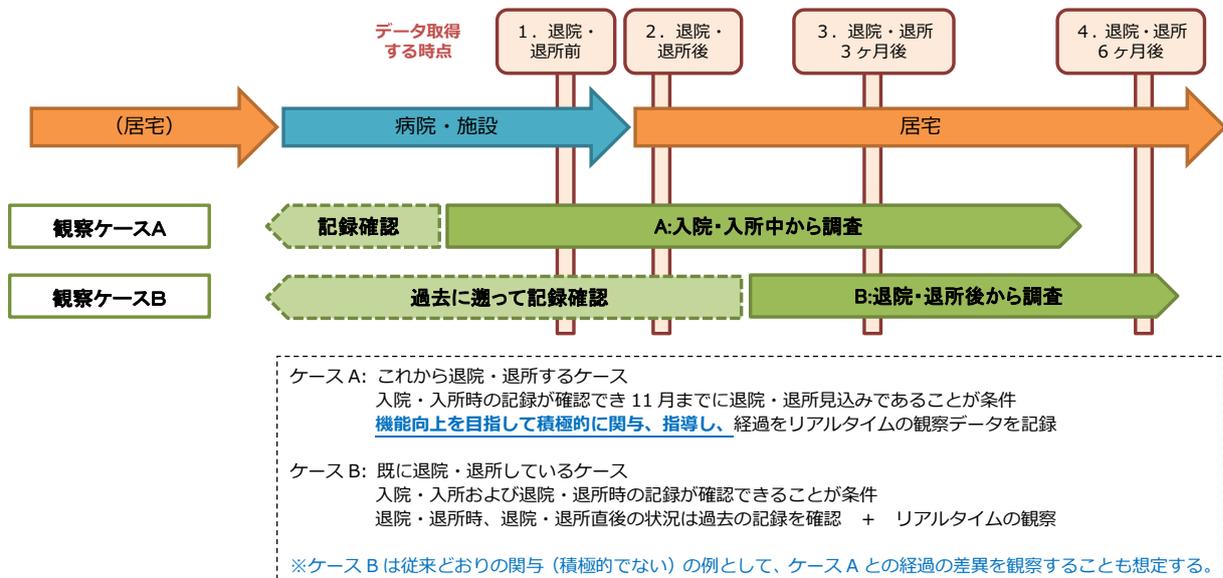


(3) 調査方法

環境変化の前後（4時点）で下記項目の状況を把握することとした。

- 利用者の状態を把握し、評価指標で記録する（身体状況、生活動作（指標は別紙）、活動範囲、社会参加）。
- 併せて利用者への関わり、用具への関わり、関係者との連携の経過を把握し、記録する。
 - ◇ リハ専門職の関与状況の確認項目（利用福祉用具、適合・調整の状況、利用指導の状況、用具の変更などの内容、頻度、回数等）
- 調査時点は①退院・退所前、②退院・退所直後、③退院退所 3 ヶ月後（能力が安定するまでの期間）～6 ヶ月後くらいまで。

図表 5 調査のスキーム



(4) 事例収集方法

事例収集の対象、各事例における調査項目、事例収集の手順を以下のように設定した。

1) 調査対象

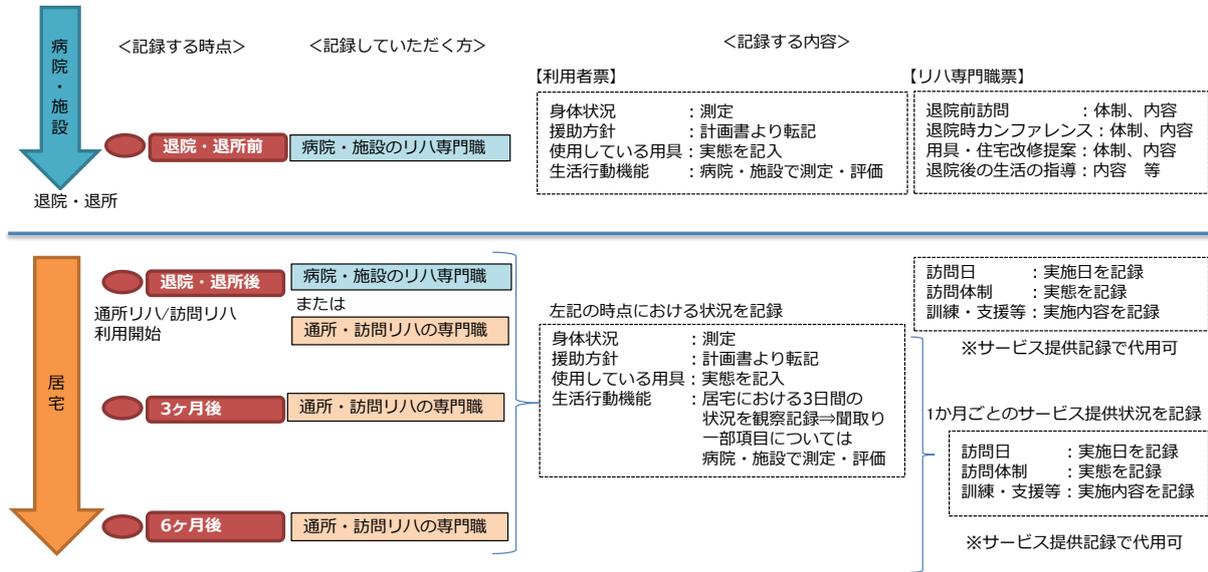
対象者抽出の考え方	用具別小分類	ケース数目安
福祉用具を利用する患者・入所者から右の用具分類ごとに5名程度、全体で25名程度を想定	多点つえ・歩行器・手すり	5名
	車いす・付属品	5名
	特殊寝台・付属品	5名
	入浴関連(すのこ、いす、手すりなど)	5名
	排泄(ポータブルトイレ、補高・昇降便座、手すりなど)	5名
上記対象者についてケースA/ケースBの内訳想定 (各医療機関、施設の状況に応じて配分)	ケースA:入院・入所中の方 (退院後リハビリ職が機能向上に向け積極的に関与)	
	ケースB:退院・退所後で追跡記録可能な方 (5ヶ月程度以内を目安とする)	

2) 調査項目

用具種類	動作	評価の視点	評価項目・方法
杖・歩行器・手すり	歩行	介助の必要性	FIM(移動)、CS-30
		時間(速度) 動作の安全性、正確さ	TUG(Timed Up to Go)転倒リスク基準とクロス分析も想定 10m歩行
		移動による生活空間の広がり	LSA(life-space assessment:PT協会版の利用を想定)
		頻度	用具の利用頻度(回数、合計時間)
車いす・付属品	移動	同上	同上
(リフト・移乗支援機器、段差解消機)	(車いすと併用)		同上
特殊寝台・付属品	起き上がり・立ち上がり・移乗	介助の必要性	FIM(移乗)
		動作の安全性、正確さ	
		頻度	操作頻度、離床回数、ベッド上にいた時間(1週間平均)
入浴関連(すのこ、いす、手すり)	移動・移乗、洗体、浴槽の出入り	介助の必要性	FIM(浴槽移乗)
		動作の安全性、正確さ	
		頻度	入浴形態別の回数、時間
排泄(ポータブルトイレ、歩行便座、昇降便座、手すり)	移動・移乗、排泄	介助の必要性	FIM(トイレ移乗)(排泄)
		動作の安全性、正確さ	
		頻度	場所別の回数

3) 事例収集の手順

図表 6 事例収集の手順



2-2. 調査実施要領

事例収集調査の実施に際して以下に示す実施要領を作成し、実施した。

1) 概要

【課題】

要介護高齢者に適切な介護サービスを提供するためには、病院・介護施設・居宅等いずれの介護環境に移動しても、利用者の状況に適応する福祉用具を継続して利用することが重要です。

医療機関あるいは高齢者施設へ入院・入所した際には、福祉用具利用は医療機関あるいは施設のリハ専門職の指導が得られますが、退院、退所して居宅に移られた際に福祉用具利用指導の継続性を確保する方策の検討が課題となっています。

【目的】

本調査は、これまでの実態調査、実証事業、生活行為向上マネジメント普及活動などの成果を踏まえつつ、環境が変化しても適切な福祉用具を継続して（シームレスな）利用する方策を検討することを目的としています。

そのために、本調査では福祉用具のシームレスな利用の有効性を示すデータを収集します。

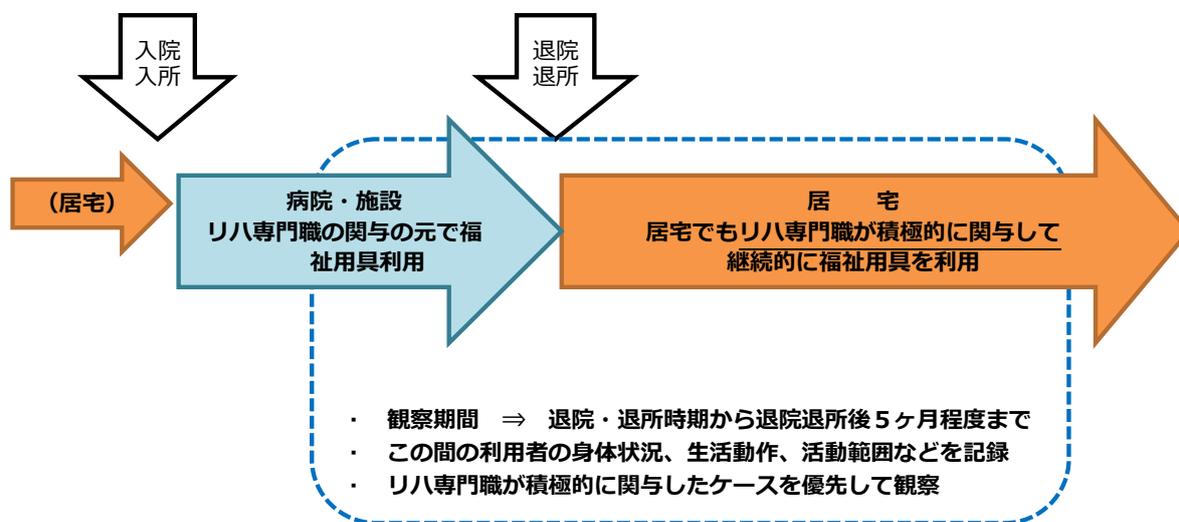
【調査仮説】

- ・ 病院・施設から居宅に環境が変化しても、リハ専門職が適切に関与することにより、福祉用具が有効に活用される。
- ・ その結果、利用者の身体機能、生活行動機能などが維持される、あるいは向上する。

【シームレス利用モデル（調査対象とする利用パターン）】

以下の条件を満たす事例を調査対象とします。

- ・ 現在、あるいは過去に入院（入所）経験があり、その後に退院（退所）している（退院（退所）する予定である）など、1回以上の環境変化を経験している。
- ・ 入院・入所中に福祉用具を利用し、退院・退所など、環境変化後も福祉用具を利用している。
- ・ 入院・入所中から退院・退所後まで、積極的かつ継続的にリハ専門職が関与し福祉用具の選定／利用指導を適切に実施している。
- ・ 環境変化の前後で、福祉用具の利用状況と身体状況を把握できる。

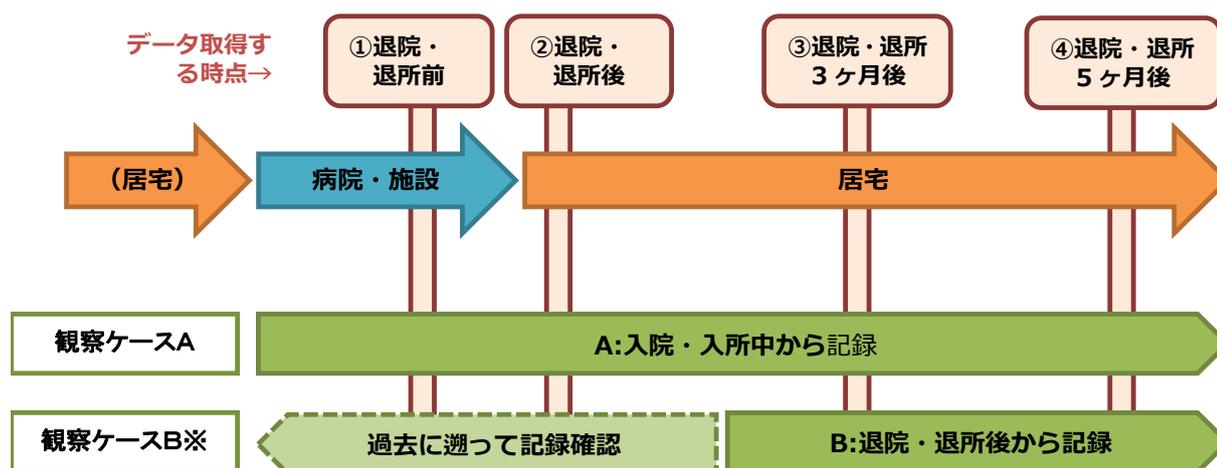


2) 事例収集の手順

【事例収集の概要】

- ・ 調査時点は①退院・退所前、②退院・退所直後、③退院・退所3ヶ月後（能力が安定するまでの期間）、④退院・退所5ヶ月後くらいまでの4時点（ケースによっては③までの3時点でも可）とする。
- ・ それぞれの時点で、利用者の状態を把握し、評価指標で記録する（身体状況、生活動作（指標は別紙）、活動範囲、社会参加 ⇒詳細は利用者調査票(別紙)を参照）。
- ・ 併せてリハ専門職の利用者への関わりの状況、用具への関わり状況などを記録する（利用福祉用具、適合・調整の状況、利用指導の状況、用具の変更などの内容、頻度、回数等 ⇒詳細はリハ専門職票(別紙)参照）。

【データ取得の時点と2種類の観察ケース】



ケース A: これから退院・退所するケース
 入院・入所時の記録が確認でき 11 月までに退院・退所見込みであることが条件
機能向上を目指して積極的に関与、指導し、経過をリアルタイムの観察データを記録

ケース B: ※下記の条件を満たすケース B についても積極的に調査対象としてください。
 既に退院・退所しているケース
 入院・入所および退院・退所時の記録が確認できることが条件
 退院・退所時、退院・退所直後の状況は過去の記録を確認 + リアルタイムの観察

【データ収集について】

(1) 調査対象者の選定

対象者抽出の考え方	用具別小分類	ケース数目安
福祉用具を利用する患者・入所者から右の用具分類ごとに5名程度、全体で25名程度を想定	多点つえ・歩行器・手すり	5名
	車いす・付属品	5名
	特殊寝台・付属品	5名
	入浴関連（すのこ、いす、手すりなど）	5名
	排泄（ポータブルトイレ、補高・昇降便座、手すりなど）	5名
上記対象者についてケースA／ケースBの内訳想定 （各医療機関、施設の状況に応じて配分）	ケースA：入院・入所中の方 （退院後リハ職が機能向上に向け積極的に関与）	
	ケースB：退院・退所後で追跡記録可能な方 （5ヶ月程度以内を目安とする）	

※調査対象者がケース数の目安に届かない場合は、事務局へご相談ください。

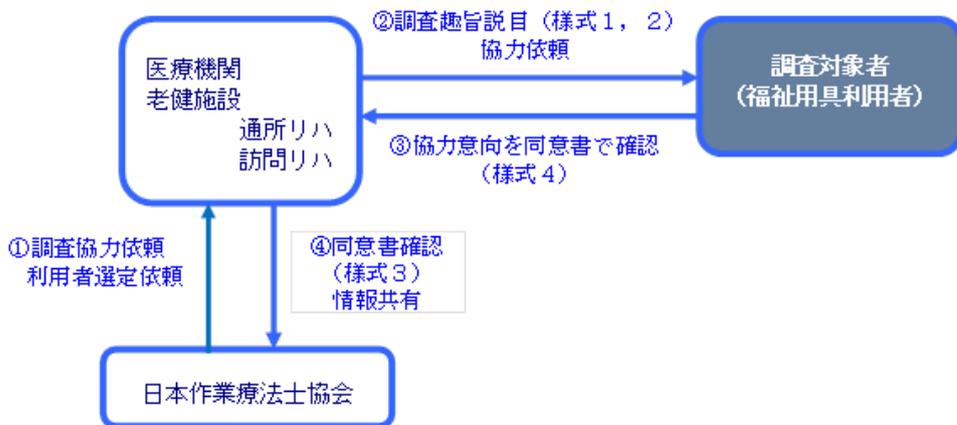
(2) 調査対象抽出時の確認事項

- ・これから退院・退所する患者に対して、積極的に関与できるリハ専門職の体制が確保できるか。
（訪問リハ、通所リハとの連携が確保できるか、など）
- ・退院・退所後の居宅での状況について把握することが可能か。
- ・その際、リハ専門職が訪問して観察・測定、聞き取りなどをすることが可能か。
- ・ケースBについては遡った記録確認が可能か。

(3) 利用者の協力意向の確認

本事例調査に関与する主体とその相互関係は以下の図に示すような関係になります。

調査開始に際しては、別紙「福祉用具サービスをシームレスに提供するために必要な方策に関する調査の概要（様式1）」「個人情報のお取り扱いについて（様式2）」を用いて調査対象者へ調査趣旨を説明した上で協力依頼し、同意書（「福祉用具サービスをシームレスに提供するために必要な方策に関する調査協力同意書」（様式4））で協力意向を確認してください。

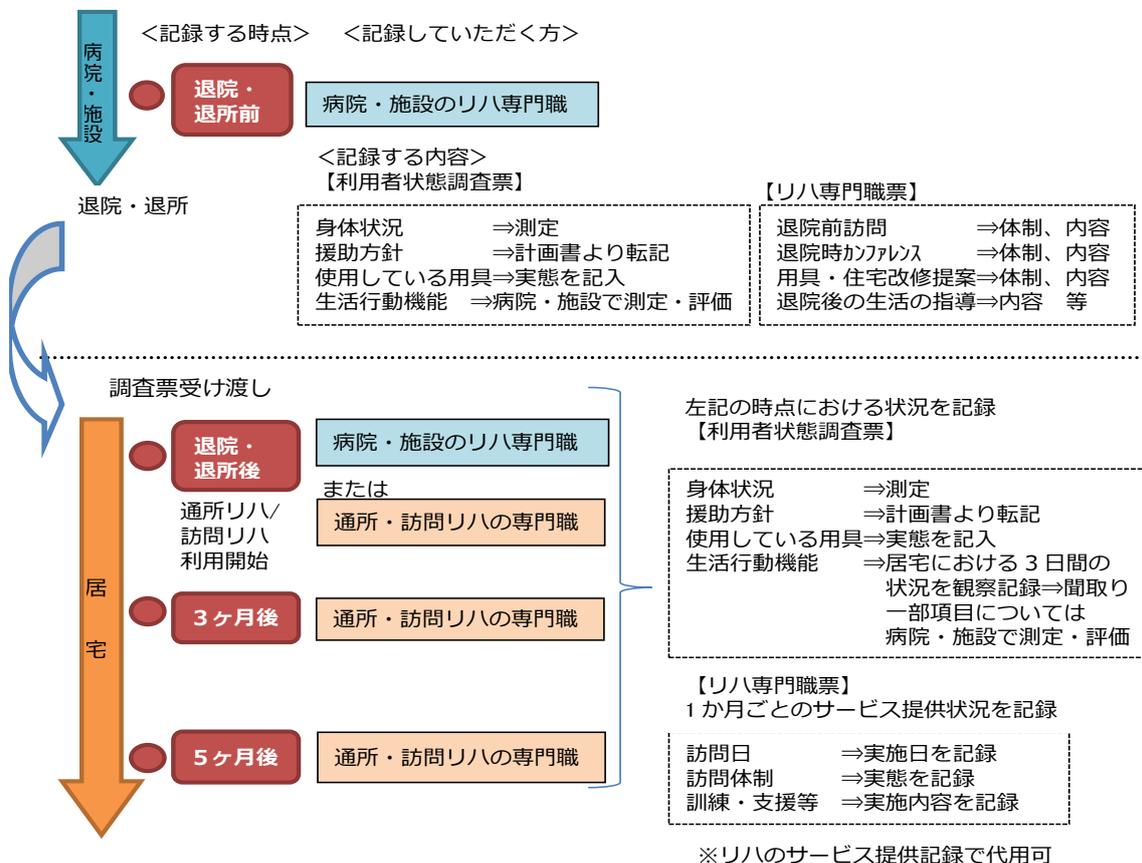


3) 調査票記入要領

以下では、調査票(記録用紙)の取り扱いと記入要領を説明します。

① 調査票(記録用紙)の記入と受け渡し

- ・ 調査票(記録用紙)は 2種類 (「利用者状態調査票」と「リハ専門職調査票」) あります。
- ・ 利用者票は4時点分の記録ができるように、同様の調査様式が4回分綴られています。
- ・ リハ専門職票は毎月のサービス時に記録できるように、6回分の様式が綴られています。
- ・ 調査票はいずれも当該の福祉用具利用者を担当するリハ専門職が記入してください。
- ・ 1回目の記録(病院・施設での記録)は病院・施設のリハ専門職が記入してください。
- ・ 2回目以降の記録(居宅へ移ってからの記録)は在宅でのサービスを担当するリハ専門職が記入してください。
- ・ 調査票は1回目の記録を担当するリハ専門職から2回目以降の記録を担当するリハ専門職へ受け渡ししてください。
- ・ 調査票は、電子ファイル上での入力、または紙に印刷して記入してください。いずれかご都合の良い方法で記入、受け渡しを行って下さい。
- ・ 「実施状況管理表」を使用して、利用者ごとに、調査の実施状況を把握、管理してください(実施状況管理表はご提出いただく必要はありません)



② 利用者状態調査票の記入要領

共通：

- ・ 選択肢のある設問では該当する選択肢に○をつけてください。選択肢のない設問では自由記入で回答してください。
- ・ 退院・退所後の 1 回目の記録は、居宅での生活が安定した時期に実施してください。その時期は退院・退所後 2 週間以内を目安としてください。

利用者基本情報 P1

- ・ 医療機関、施設ごとに調査対象者に ID 番号をつけ、その番号を ID 欄に記入してください。
- ・ 「疾病名」、「障害の状態」は、福祉用具利用との関係がわかる情報を簡単に記入してください。

1. 身体状況 P2 P7 P12 P17

- ・ 身体状況の各項目は退院前カンファレンスや、直近のモニタリングなどで確認された情報を記入してください。

2. 援助方針 P2 P7 P12 P17

- ・ 援助方針の各項目は、総合リハビリテーション計画あるいはケアプランなどの該当項目から転記してください。
- ・ 「留意すべき変化のポイント」は退院・退所後や、今後の生活において想定される状態変化で、特に福祉用具利用との関係で留意すべきポイントについて記入してください。

3. 利用している福祉用具 P3 P8 P13 P18

- ・ 利用している福祉用具は、それぞれの時点で利用している福祉用具を全て記入してください。
- ・ 選定理由は、選択肢（いくつでも）を選んだ上で、自由記入で状況を簡単に補足してください。
- ・ 「3-1 利用指導のポイント」は、3. で記入した用具それぞれについて、それをを用いることで実現しようとする生活動作の目標を記入してください。
- ・ 「適合・利用指導のポイント」は、まずその用具利用で重視した適合判断のポイントを選択し、その理由などを自由記入欄に簡単に補足してください。
- ・ 適合判断ポイントの各選択肢の趣旨は下記を参考にしてください。
 - 身体的適合 ⇒ 利用者の身体状況、身体特性への適合
 - 環境的適合 ⇒ 利用者の居住環境、生活環境への適合
 - 目的的適合 ⇒ 利用者の生活目的への適合
 - 社会的適合 ⇒ 利用者の社会的活動への適合

4. 生活行動機能の状況 P4 P9 P14 P19

- ・ これらの項目については、退院前カンファレンスに向けて状況確認を行った時期や、訪問リハあるいは通所リハを行った日の状況を記入してください。
- ・ 退院・退所後の生活において、訪問リハ、通所リハも含めて、日によって異なる生活行動パターンがある利用者の中には、比較的活動的なパターンについて記録してください。
- ・ また、その後の記録も同じ条件(生活行動パターン)で記録してください。

- ・ 「総合的な身体能力」は、TUG (Time up to go)、10m歩行、FRT(Functional reach test)、LSA(Life Space Assessment)のいずれかの指標を測定してください。できれば複数の指標について測定してください。
- ・ 測定する指標は、退院・退所後も継続して測定可能な指標を含めてください。
- ・ 各指標の測定方法は日本理学療法士協会のHPなどを参照してください。
- ・ 測定時に使用した福祉用具があれば、使用した用具欄に記入してください。

福祉用具種類別のFIM、動作の質の評価、頻度、変化の把握

P4~5P9~10P14~15P19~29

- ・ 使用している福祉用具に該当する欄にのみご記入ください。
- ・ 動作の質の評価は、選択肢を選んだ上で、その状況を簡単に補足してください。
- ・ 利用頻度は、車いすについては乗車回数をカウントしてください。合計時間は乗車していた時間の合計時間を記入してください。
- ・ 「変化の把握」については、選択肢を選んだ上で、その状況を簡単に補足してください。

心理的な評価 P6 P11 P16 P21

- ・ この項目は、可能であれば調査票を渡して利用者ご本人に回答を記入してもらってください。
- ・ 記入が難しい場合には、利用者から聞き取ってご記入ください。
- ・ 福祉用具の利用に際しての心理状態ではなく、福祉用具を用いて維持している生活全体についての心理状態を回答してもらってください。
- ・ 設問について補足が必要な場合は、適宜、説明を補足してください。
- ・ 26項目すべてにご回答ください。ただし、どうしてもわからない場合は「0」に印をつけて下さい。

③ リハ専門職票の記入要領

共通：

- ・ リハ専門職票は利用者状態調査票とセットで保管、受け渡ししてください。
- ・ 各項目とも選択肢が用意されていますので、まず選択肢に○をつけてください。
- ・ その上で補足すべき情報があれば特記事項欄に補足してください。
- ・ 調査項目は訪問リハビリテーションの訪問記録に準じています。訪問記録で代替できる場合は訪問記録のコピーを提出していただいても結構です。

利用者基本情報 記入経過の記録 P1

- ・ 医療機関、施設ごとに調査対象者にID番号をつけ、その番号をID欄に記入してください。
- ・ 基本情報では、セットで受け渡している利用者状態調査票と同じ利用者であることを確認してください。
- ・ 記入経過の記録では、各記録時点で誰が記録したかわかるように、記録時点ごとに記入日および記入者のお名前と資格、所属を記入してください。

退院・対象前の記録 P2

- ・ 各設問項目ごとに、(実施した、実施していない)いずれかを選択してください。
- ・ その上で、実施した場合にその訪問日を記入、訪問した職員の専門職種を選択し、各項目での実施内容・検討内容を簡潔に記入してください。
- ・ その他欄には、今後の経過を記録するうえで留意すべき、あるいは共有しておくべき情報があれば記入してください。

退院・退所後の記録 P3～P8

- ・ 退院・退所後の1回目の記録は、居宅での生活が安定した時期に実施してください。その時期は退院・退所後2週間以内を目安としてください。
- ・ 選択肢が設定されている項目については、選択肢の中から実施した内容を選んで○をつけてください。複数選択可能です。
- ・ 「その他」を選択した場合は、その具体的内容を記入してください。
- ・ 状況変化など補足説明が必要なことがあれば特記事項欄に記入してください。
- ・ 福祉用具に関する関与については、福祉用具利用の指導時間に関する項目と、それ以外の関与に関する項目に分かれています。
- ・ 「福祉用具利用の指導時間」については、1か月後以降の記録では、前回の記録後の訪問・通所指導の回数、指導時間について記入してください。利用指導に必要であれば訓練の時間、見守りの時間も含めてください。それらについては担当されるリハ専門職の方が判断してください。

2-3. 事例収集の実施体制と収集概要

(1) 実施体制

今回の調査では、通常に対応として入院・入所時から居宅復帰時の生活を想定して、リハ専門職が関与したシームレスな福祉用具利用を実践している医療機関、高齢者施設の協力を得て事例収集を行った。協力いただいた6つの施設の基本情報を以下に示す。

図表 7 協力施設の基本情報

	施設1	施設2	施設3	施設4	施設5	施設6
所在地域	東京圏	東日本	西日本	西日本	関西圏	西日本
中核施設の種別	リハビリテーション病院	介護老人保健施設	介護老人保健施設	介護老人保健施設	リハビリテーションセンター・病院	総合病院
開設年(西暦)	2007年	2000年		1988年	1969年	1979年
病床数・入所定員	160	100	143	80	330	311
調査担当者・施設の種別	居宅サービスセンター	リハビリテーション担当	テクノエイド部	訪問リハビリテーションセンター	家庭介護・リハビリ研修センター	在宅サービスセンター
シームレス利用実施の体制	病院と居宅サービスセンターとの連携	併設の在宅サービス事業所との連携	病院と地域の在宅サービス事業所との連携	関連の病院、老健施設、在宅サービスとの連携	リハセンター・病院と地域の在宅サービス事業所との連携	病院と在宅サービスセンターとの連携
事例収集担当者	リハ専門職	リハ専門職	リハ専門職	リハ専門職	リハ専門職	リハ専門職

(2) 事例収集の状況

事例収集は平成27年10月から平成28年2月までの期間で実施した。収集した事例の施設別一覧を以下に示す。なお、各施設では一覧に整理したよりも多くの事例を収集されたが、経過記録が退院・退所直後までの事例などもあり、シームレス利用モデルの条件を満たす事例のみを検討対象として掲載した。

収集事例一覧（施設ID 1～3）

施設ID	ID	性別	年齢	疾患	障害	要介護度	主な福祉用具
1	1	女性	74	アテローム血栓性脳梗塞	右片麻痺	要介護1	浴槽台、シャワーチェア、
1	2	男性	76	胃癌術後、糖尿病、骨粗鬆症、パーキンソン症候群	歩行不安定	要介護4	浴槽台、シャワーチェア、バスボード、手すり
1	5	女性	61	右大腿骨頸部骨折	右下肢筋力低下	要介護2	T字杖、手すり、シャワーチェア
1	6	女性	66	左大腿骨転子部骨折、脳梗塞(H27.3発症)	左片麻痺	要介護1	シャワーチェア、手すり、特殊寝台
1	7	女性	64	右大腿骨頸部骨折	右片麻痺、四肢体幹筋力低下、高次脳機能障害(失語)	要介護2	杖、特殊寝台、車いす、シャワーチェア
2	1	男性	80	多発性関節炎、頸椎後縦靭帯骨化症、前立腺肥大、緑内障	四肢痙性麻痺(下肢>上肢)、上下肢しびれ、痛み、筋力低下、膀胱直腸障害(フォールシット、便秘)	要介護4	特殊寝台ベッド用手すり、据置型手すり、杖
2	2	女性	65	高血圧性左小脳出血(Ope)、閉塞性水頭症(Ope)	高次脳機能障害(病識低下・注意障害)、左不全片麻痺	要介護5 →要介護3	車いす、歩行器、特殊寝台、ベッド用手すり
3	1	女性	83	腰椎椎間板ヘルニア	右下肢外側にしびれ出現し、L3/4椎弓切除・L5椎体形成・L4/5椎間後方固定術施行	要介護1	歩行車、T字つえ、
3	5	男性	70	右大腿骨頸部骨折	元々、左被殻出血で右片麻痺であり、歩行は4点杖を使用し見守りレベル	要介護2	多点つえ
3	6	女性	87	脳出血	S62.9月脳出血発症し、病院入院しリハビリを行い、退院後通所リハビリを利用中	要介護2	車いす
3	9	女性	86	脳梗塞	既往で脳梗塞があり、左片麻痺である。移動は車いす自走可能。	要介護2	車いす
3	11	女性	92	洞機能不全症候群、アルツハイマー型認知症	歩行障害(平行棒内での歩行訓練のみ可能)、移動は車いす。	要介護2	特殊寝台
3	12	男性	86	第6胸椎圧迫骨折、頸椎症	自宅で転倒し、背部を打撲。歩行は見守りにて、杖歩行が可能だが不安定。頸椎症による両手運動の拙劣性あり	要介護2	歩行車、
3	13	男性	69	左被殻出血	右不全麻痺・右感覚障害	要介護4	特殊寝台
3	14	女性	67	心原性脳塞栓	左片麻痺・感覚障害(左)あり	要介護4	特殊寝台
3	15	女性	81	パーキンソンズム	すくみ足頻繁にみられ、転倒も月に1回はある。入浴後が特にすくみ足が見られるため車いすを使用している	要介護2	手すり(洋式トイレ用フレーム)
3	16	男性	88	脳幹梗塞	後方へのバランス不良。膝折れがみられていたが軽減	要介護4	補高便座
3	17	男性	56	脳皮質下出血、もやもや病、脳出血	H14.11.12 脳出血にて開頭血腫除去術施行。H23.4.9 脳出血診断にて保存的治療	要介護5	ポータブルトイレ
3	18	男性	82	パーキンソン病	姿勢のバランス障害・四肢の拘縮・著明なジスキネジア	要介護5	ポータブルトイレ

収集事例一覧（施設 ID 4～6）

施設ID	ID	性別	年齢	疾患	障害	要介護度	主な福祉用具
4	2	女性	65	脳出血	右片麻痺、失語症、高次脳機能障害	要介護3	車いす、便座、浴槽マット、杖
4	3	女性	49	脳梗塞	右片麻痺、高次脳機能障害、失語症	要介護3	4点杖、特殊寝台、シャワーチェア
4	4	男性	68	脳梗塞	右片麻痺、高次脳機能障害、構音障害	要介護3	車いす、特殊寝台、4点杖、シャワーチェア、留置型手すり
4	5	女性	96	くも膜下出血	歩行障害、高次脳機能障害	要介護3	特殊寝台、移乗バー、ポータブルトイレ
4	6	女性	84	左大腿骨転子部骨折	歩行障害	要支援1	シャワーチェア、歩行器、T字杖
4	7	女性	87	頭部外傷	歩行障害、高次脳機能障害	要介護3	シャワーチェア、歩行器、T字杖、特殊寝台、据置型手すり
4	8	女性	82	胸椎圧迫骨折	歩行障害	要支援1 →要介護1	ポータブルトイレ、据置型手すり、浴槽台、手すり
4	10	男性	73	脳出血	左片麻痺、失語症、高次脳機能障害	要介護5	車いす、リフト、昇降機、リハビリプール、特殊寝台
4	11	女性	59	脳梗塞	右片麻痺、構音障害、失語症	要介護3	T字杖、シャワーチェア
4	13	男性	64	脳梗塞	右片麻痺、失語症、摂食機能障害、高次脳機能障害	要介護4	特殊寝台、移乗バー、車いす、4点杖
4	14	男性	73	頭部外傷	左肩麻痺、高温障害、高次脳機能障害、	要介護5	車いす、留置型手すり
4	15	女性	66	脳梗塞、大腿骨頸部骨折、廃用症候群	左肩麻痺、高次脳機能障害、歩行障害、	要介護3	据置型手すり、歩行器、4点杖、車いす
4	16	男性	78	脳梗塞、	左肩麻痺、構音障害	要介護2	据置型手すり、バスマット、バスマット、シャワーチェア、T字杖
4	17	女性	67	脳出血	左片麻痺、構音障害、摂食機能障害、高次脳機能障害	要介護5	車いす、留置型手すり、ポータブルトイレ
5	1	女性		脳梗塞、右大腿骨転子部骨折、骨接合術後	右片麻痺、右下肢筋力低下、荷重困難	要支援2	留置型手すり、車いす、歩行器
6	1	女性	84	陳旧性脳梗塞、痙攣重積発作、頸脈（ペースメーカー埋め込み）	左片麻痺	要介護5	車いす、エアマット、スロープ、スライディングボード、特殊寝台
6	2	男性	83	右慢性硬膜下血腫 肺癌	下肢筋力低下、歩行障害	要介護4	車いす、スロープ、特殊寝台
6	3	女性	76	H21 多系統萎縮症 H25 胃瘻増設、褥瘡	拘縮、筋力低下、失調、摂食機能障害、排尿障害	要介護5	特殊寝台、設置型リフト、車いす、エアマット

3. 効果的なシームレス利用の事例集

3-1. 事例の概要と整理の体系

(1) 整理の考え方

事例集として整理するに際して、以下の観点から事例を整理した。

■事例のタイプ：

リハ専門職の関与の頻度とともに福祉用具適用の目的が異なると考えられることから、急性発症に対応したタイプか、廃用症候群を予防するタイプかを分けて整理した。

■効果の分類：

福祉用具の利用の効果も支援のねらいにより異なると考えられることから、下記の観点に着目して事例を整理した。

- ・機能の維持・向上
- ・活動性の維持・向上（参加・QOLの維持・向上を含む）
- ・介護負担軽減

(2) 事例の概要

(1) で検討した観点から整理した事例の概要を以下に示す。

【急性対応の事例】

施設ID	ID	性別	年齢	疾患	障害	要介護度	急性発症/医 用症候群	主な福祉用具	急性/障 害	機能向上	生活や活 動の自 立・活動 範囲の拡 大	介護負 担・不安 の軽減
1	1	女性	74	アテローム血栓性脳梗塞	右片麻痺	要介護1	急性	浴槽台、シャワーチェア、	1	1		1
1	2	男性	76	胃癌術後、糖尿病、骨粗鬆症、パーキンソン症候群	歩行不安定	要介護4	急性	浴槽台、シャワーチェア、バスボード、手すり	1	1		
4	2	女性	65	脳出血	右片麻痺、失語症、高次脳機能障害	要介護3	急性	車いす、便座、浴槽マット、杖	1	1	1	
4	3	女性	49	脳梗塞	右片麻痺、高次脳機能障害、失語症	要介護3	急性	4点杖、特殊寝台、シャワーチェア	1	1	1	
4	4	男性	68	脳梗塞	右片麻痺、高次脳機能障害、構音障害	要介護3	急性	車いす、特殊寝台、4点杖、シャワーチェア、留置型手すり	1	1	1	
4	6	女性	84	左大腿骨転子部骨折	歩行障害	要支援1	急性	シャワーチェア、歩行器、T字杖	1	1	1	
4	7	女性	87	頭部外傷	歩行障害、高次脳機能障害	要介護3	急性	シャワーチェア、歩行器、T字杖、特殊寝台、据置型手すり	1	1	1	
4	10	男性	73	脳出血	左片麻痺、失語症、高次脳機能障害	要介護5	急性	車いす、リフト、昇降機、リハテーブル、特殊寝台	1	1		
4	16	男性	78	脳梗塞、	左肩麻痺、構音障害	要介護2	急性	据置型手すり、バスマット、バズグリップ、シャワーチェア、T字杖	1	1	1	
5	1	女性		脳梗塞、右大腿骨転子部骨折、骨接合術後	右片麻痺、右下肢筋力低下、荷重困難	要支援2	急性	留置型手すり、車いす、歩行器	1	1	1	
2	1	男性	80	多発性関節炎、頸椎後縦靭帯骨化症、前立腺肥大、線内障	四肢痙性麻痺(下肢>上肢)、上下肢しびれ、痛み、筋力低下、膀胱直腸障害(フォール留置、便秘)	要介護4	急性	特殊寝台ベッド用手すり、据置型手すり、杖	1		1	
2	2	女性	65	高血圧性左小脳出血(Ope)、閉塞性水頭症(Ope)	高次脳機能障害(病識低下・注意障害)、左不全片麻痺	要介護5 →要介護3	急性	車いす、歩行器、特殊寝台、ベッド用手すり	1		1	
3	1	女性	83	腰椎椎間板ヘルニア	右下肢外側にしびれ出現し、L3/4椎弓切除・L5椎体形成・L4/5椎間後方固定術施行	要介護1	急性	歩行車、T字つえ、	1		1	
4	5	女性	96	くも膜下出血	歩行障害、高次脳機能障害	要介護3	急性	特殊寝台、移乗バー、ポータブルトイレ	1		1	0
4	8	女性	82	胸椎圧迫骨折	歩行障害	要支援1 →要介護1	急性	ポータブルトイレ、据置型手すり、浴槽台、手すり	1		1	0
4	13	男性	64	脳梗塞	右片麻痺、失語症、摂食機能障害、高次脳機能障害	要介護4	急性	特殊寝台、移乗バー、車いす、4点杖	1		1	0
4	14	男性	73	頭部外傷	左肩麻痺、高温障害、高次脳機能障害、	要介護5	急性	車いす、留置型手すり	1		1	0
3	12	男性	86	第6胸椎圧迫骨折、頸椎症	自宅で転倒し、背部を打撲。歩行は見守りにて、杖歩行が可能だが不安定。頸椎症による両手運動の拙劣性あり	要介護2	急性	歩行車、	1		1	1
4	11	女性	59	脳梗塞	右片麻痺、構音障害、失語症	要介護3	急性	T字杖、シャワーチェア	1			1
4	17	女性	67	脳出血	左片麻痺、構音障害、摂食機能障害、高次脳機能障害	要介護5	急性	車いす、留置型手すり、ポータブルトイレ	1			0

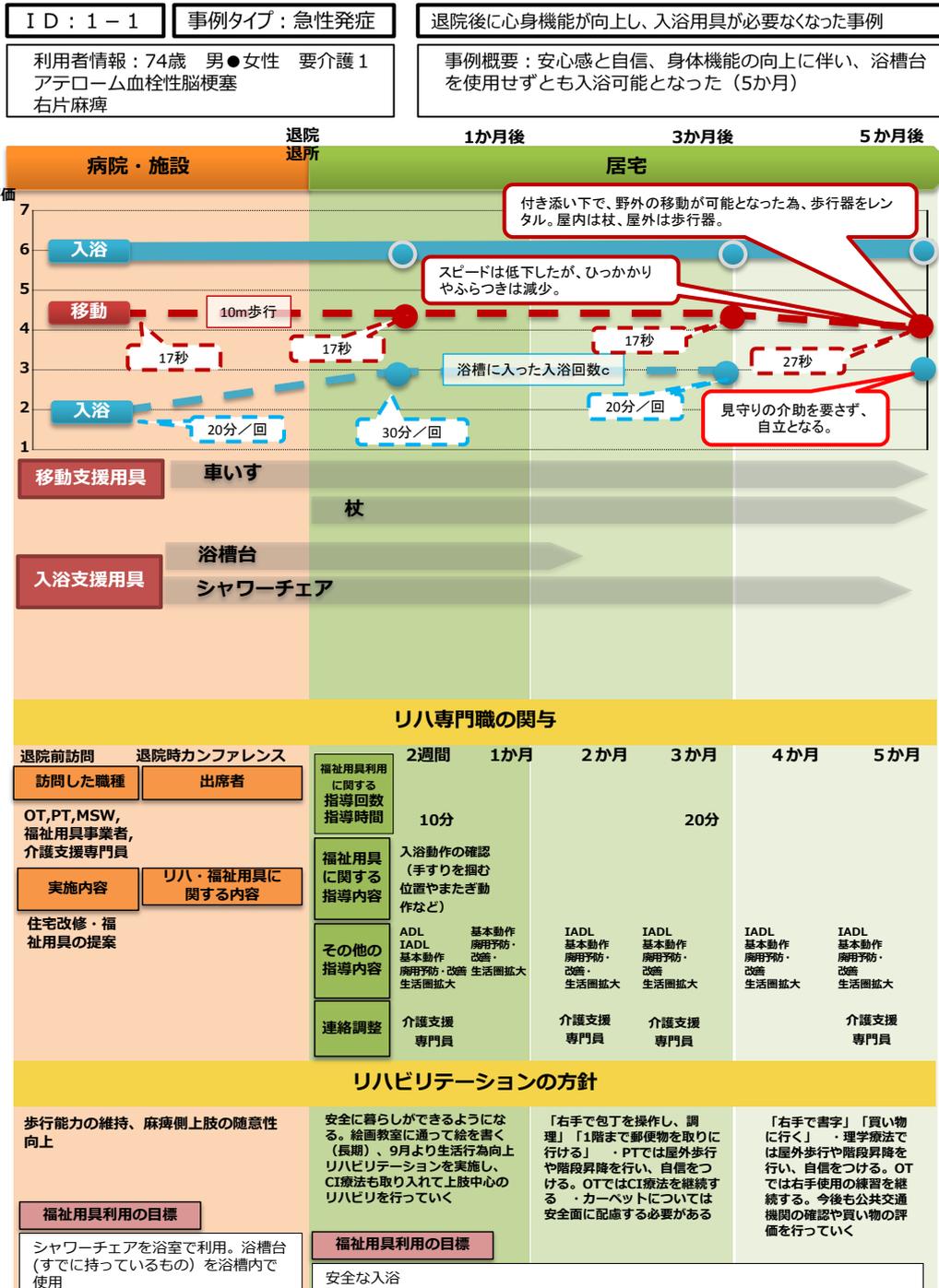
【廃用症候群予防の事例】

施設ID	ID	性別	年齢	疾患	障害	要介護度	急性発症/廃用症候群	主な福祉用具	急性/廃用	機能向上	生活や活動の自立・活動範囲の拡大	介護負担・不安の軽減
1	6	女性	66	左大腿骨転子部骨折、脳梗塞(H27.3発症)	左片麻痺	要介護1	廃用	シャワーチェア、手すり、特殊寝台	2	1		
3	5	男性	70	右大腿骨頭部骨折	元々、左膝股出血で右片麻痺であり、歩行は4点杖を使用し見守りレベル	要介護2	廃用	多点つえ	2	1		1
3	13	男性	69	左膝股出血	右不全麻痺・右感覚障害	要介護4	廃用	特殊寝台	2	1		1
3	16	男性	88	脳幹梗塞	後方へのバランス不良。膝折れがみられていたが軽減	要介護4	廃用	補高便座	2	1	1	
1	7	女性	64	右大腿骨頭部骨折	右片麻痺、四肢体幹筋力低下、高次脳機能障害(失語)	要介護2	廃用	杖、特殊寝台、車いす、シャワーチェア	2			1
3	6	女性	87	脳出血	S62.9月脳出血発症し、病院入院しリハビリを行い、退院後通所リハビリを利用中	要介護2	廃用	車いす	2			1
3	9	女性	86	脳梗塞	既往で脳梗塞があり、左片麻痺である。移動は車いす自走可能。	要介護2	廃用	車いす	2			1
3	11	女性	92	洞機能不全症候群、アルツハイマー型認知症	歩行障害(平行棒内での歩行訓練のみ可能)、移動は車いす。	要介護2	廃用	特殊寝台	2			1
33	14	女性	67	心原性脳塞栓	左片麻痺・感覚障害(左)あり	要介護4	廃用	特殊寝台	2			1
3	15	女性	81	パーキンソニズム	すくみ足頻繁にみられ、転倒も月に1回はある。入浴後が特にすくみ足が見られるため車いすを使用している	要介護2	廃用	手すり(洋式トイレ用フレーム)	2			1
3	17	男性	56	脳皮質下出血、もやもや病、脳出血	H14.11.12 脳出血にて開頭血腫除去術施行。 H23.4.9 脳出血診断にて保存的治療	要介護5	廃用	ポータブルトイレ	2			1
4	15	女性	66	脳梗塞、大腿骨頭部骨折、廃用症候群	左肩麻痺、高次脳機能障害、歩行障害、	要介護3	廃用	据置型手すり、歩行器、4点杖、車いす	2			1
6	1	女性	84	陳旧性脳梗塞、症巣重複発作、頸脈(ペースメーカー埋め込み)	左片麻痺	要介護5	廃用	車いす、エアマット、スロープ、スライディングボード、特殊寝台	2			1
6	2	男性	83	右慢性硬膜下血腫 肺癌	下肢筋力低下、歩行障害	要介護4	廃用	車いす、スロープ、特殊寝台	2			1
6	3	女性	76	H21 多系統萎縮症 H25 胃腸増設、褥瘡	拘縮、筋力低下、失調、摂食機能障害、排尿障害	要介護5	廃用	特殊寝台、設置型リフト、車いす、エアマット	2			1
1	5	女性	61	右大腿骨頭部骨折	右下肢筋力低下	要介護2	廃用	T字杖、手すり、シャワーチェア	2			
3	18	男性	82	パーキンソン病	姿勢のバランス障害・四肢の拘縮・著明なジスキネジア	要介護5	廃用	ポータブルトイレ	2			1

3-2. 収集事例の紹介

(1) 急性期対応

1) 機能向上が見られた事例



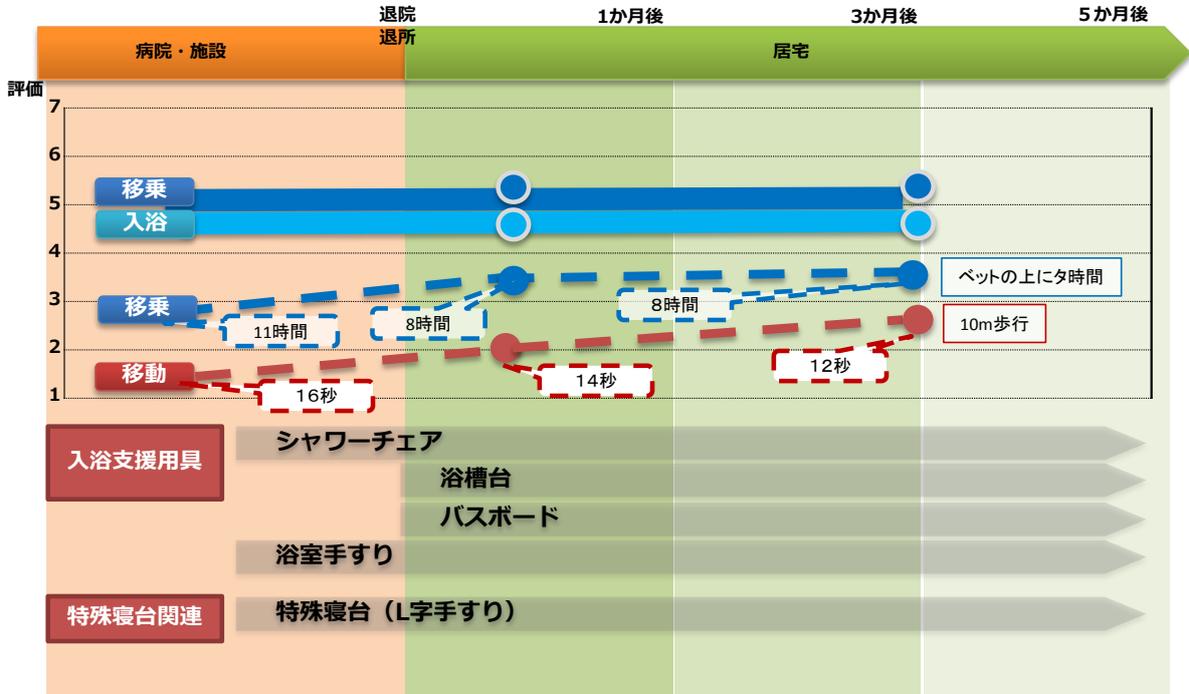
リハ専門職の関与

リハビリテーションの方針

ID : 1 - 2 事例タイプ : 急性発症 慢性進行性疾患の方の安全で自立的な生活を支援した事例

利用者情報 : 76歳 男性 要介護4
胃癌術後、糖尿病、骨粗鬆症、パーキンソン症候群

事例概要 : 歩行スピードは向上しており、デイケアも休まず通所している。パーキンソン症状の悪化も見られず、転倒なくADLも維持できている。



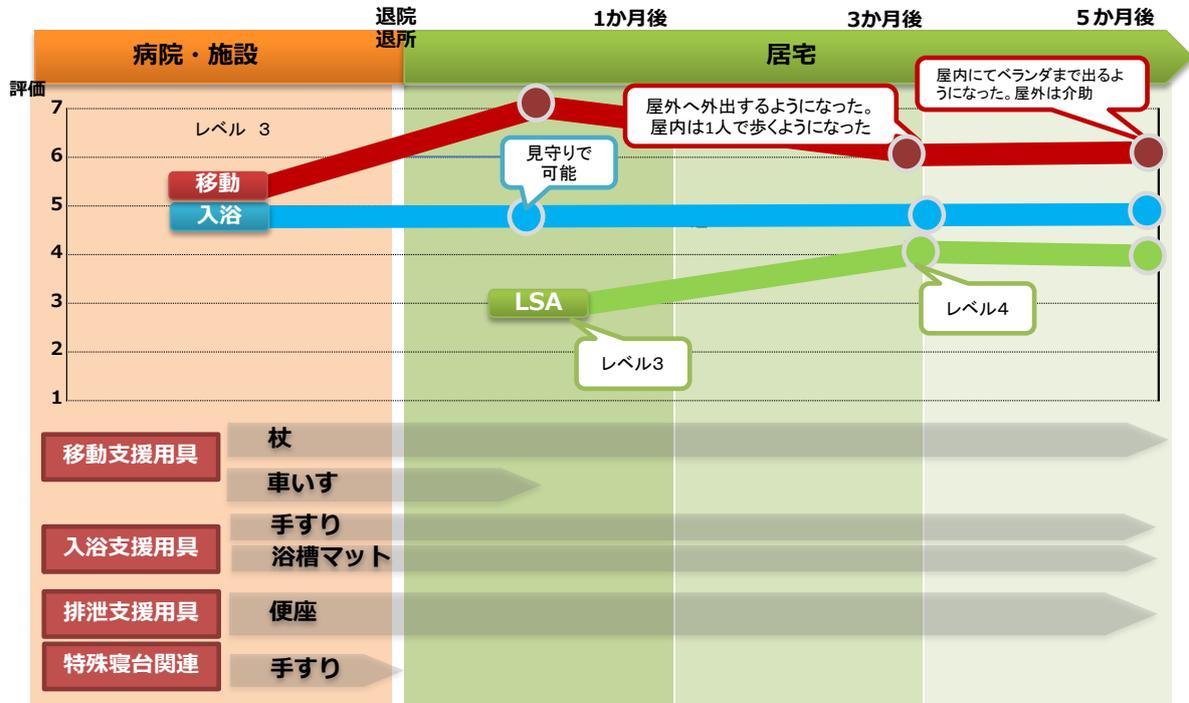
退院前訪問		退院時カンファレンス		リハ専門職の関与					
訪問した職種	出席者	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月		
	医師、OT、PT、看護師、MSW	福祉用具利用に関する指導回数 20分	8回 10分	8回	8回	8回	8回 20分		
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容	その他の指導内容	連絡調整					
	・浴室環境設定 ・屋内屋外移動介助量 ・夜間の排泄 ・ADL介助量	ADL 基本動作 廃用予防・改善 生活圏拡大	ADL 基本動作 廃用予防・改善 生活圏拡大	基本動作 廃用予防・改善 生活圏拡大	ADL 基本動作 廃用予防・改善 生活圏拡大	基本動作 廃用予防・改善 生活圏拡大	基本動作 廃用予防・改善 生活圏拡大		
		介護支援 専門員, 家族	介護支援 専門員, 家族		介護支援 専門員, 家族		介護支援 専門員, 家族		

リハビリテーションの方針	
<p>自宅退院を目標に、屋内歩行の修正自立獲得</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>福祉用具を利用して、生活の自立度を向上する</p>	<p>身体状況や日差変動に留意しながら加入する。以前は自分史の執筆に取り組んでいたため目標として毎日日記をつけることを勧めている</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>福祉用具の利用を継続して自立度を高め、家族の介護負担を軽減する</p>

ID: 4-2 事例タイプ: 急性発症 介護力の少ない家族の不安を段階的に軽減することで活動性の向上に至った事例

利用者情報: 65歳 女性 要介護3
脳出血
右片麻痺、失語症、高次脳機能障害

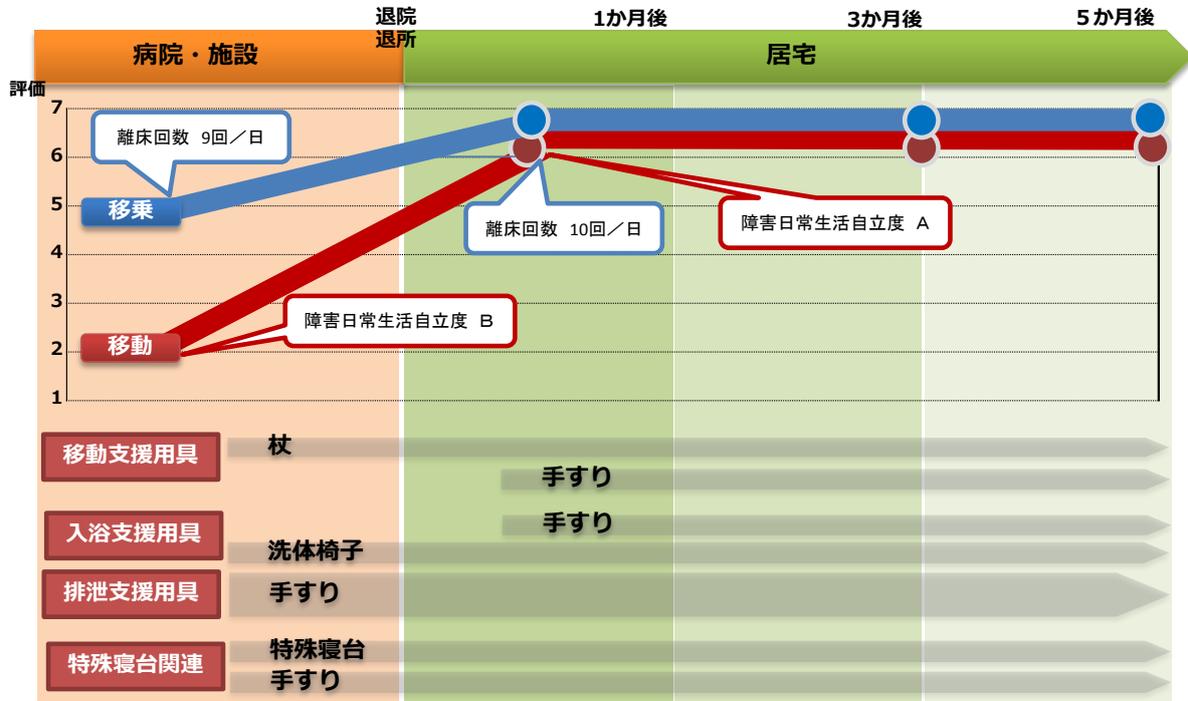
事例概要: LSAレベル3⇒4へ向上。
FIM向上、杖利用回数大幅減少し、外出するようになった。



退院前訪問		退院時カンファレンス		リハ専門職の関与						
訪問した職種	出席者	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月			
OT・PT、看護師、福祉用具事業者・介護支援専門員		福祉用具利用に関する指導回数 1回 40分	4回 20分	8回 20分	12回 20分	16回 20分	20回 20分	T字杖歩行		
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	その他の指導内容		連絡調整						
<ul style="list-style-type: none"> 玄関、トイレ、浴室の改修案や必要物品の検討 動線の確認 情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問リハ (週1回) 福祉用具貸与 (車いす、特殊補助具) デイケア (週2回) 訪問介護 (週3回) 	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、IADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	IADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	IADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大			
		介護支援専門員、他のサービス事業所、家族		介護支援専門員、福祉用具相談員、他のサービス事業所、家族		介護支援専門員、他のサービス事業所、家族				

リハビリテーションの方針	
<p>夫の見守りのもと、屋外歩行及び階段昇降が行なえる。屋内歩行が安全に行える</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>夫と一緒に屋外の移動が安全にできる (屋外歩行は距離が長くなると転倒リスクが高くなるため車いすの選定、介助指導を実施)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自宅から200m先にある息子の店まで夫の介助のもとと外出できる 自宅階段を見守りで行える ベランダの段差も1人で昇降できる 入浴が見守り程度で行える

ID : 4 - 3	事例タイプ : 急性発症	高次脳機能障害による転倒に配慮して環境整備を行った事例
利用者情報 : 49歳 女性 要介護3 脳梗塞 右片麻痺、高次脳機能障害、失語症		事例概要 : "4点を使用し移動能力は高まるが、高次脳機能障害の影響で転倒の可能性が高い。自宅での入浴欲求が高まり、入浴の用具導入



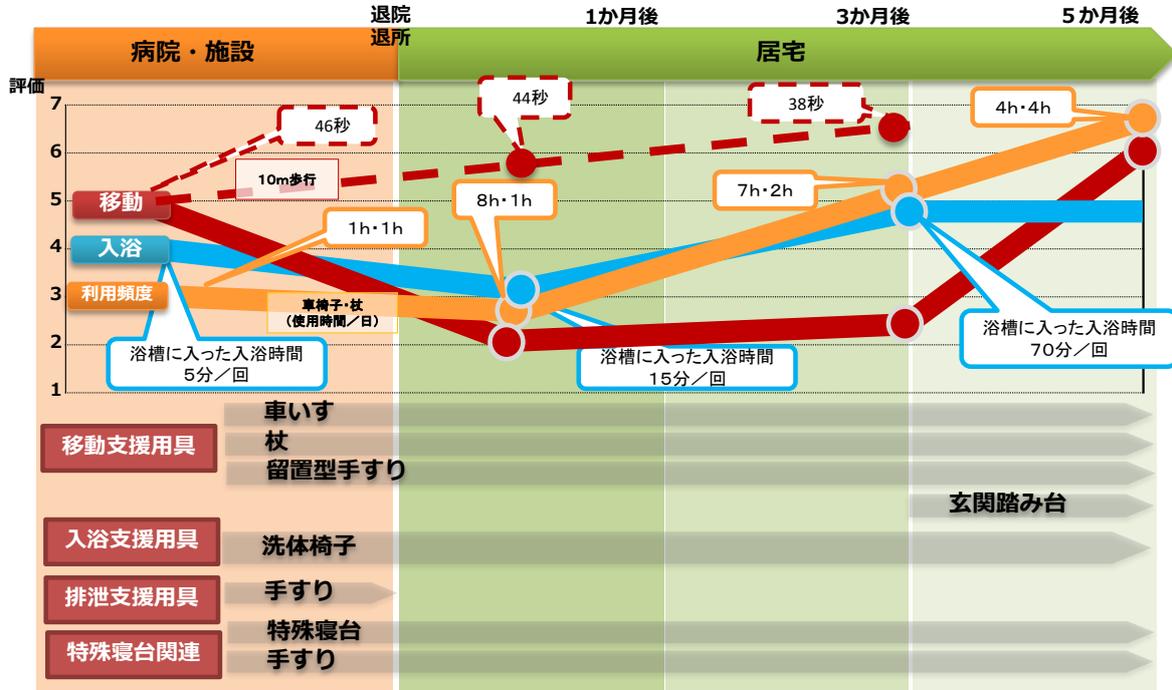
退院前訪問		退院時カンファレンス	リハ専門職の関与						
訪問した職種	出席者	出席者	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	
OT・ST、看護師、福祉用具事業者・介護支援専門員	医師、OT・PT、ST、看護師、MSW、介護福祉士・介護スタッフ	医師、OT・PT、ST、看護師、MSW、介護福祉士・介護スタッフ	福祉用具利用に関する指導回数 指導時間	4回 25分	8回 24分	8回 25分	8回 25分	8回 25分	
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容						
車から玄関までの坂道の歩行、階段昇降、自宅内での歩行は出来るかの確認と手すり設置も含めた環境調整	自宅での生活に備えて手すり設置の確認、外泊時の状況を含めて課題を整理して報告(対応を含めて)、退院後の生活をする上で必要なサービスの決定	自宅での生活に備えて手すり設置の確認、外泊時の状況を含めて課題を整理して報告(対応を含めて)、退院後の生活をする上で必要なサービスの決定	その他の指導内容	ADL、服用予防・改善、生活圏拡大	ADL、基本動作、生活圏拡大	ADL、基本動作、生活圏拡大	ADL、IADL、基本動作指導、服用予防・改善、生活圏拡大、	ADL、IADL、基本動作指導、服用予防・改善、生活圏拡大、	IADL、基本動作指導、服用予防・改善、生活圏拡大
			連絡調整	介護支援専門員、他のサービス事業所	介護支援専門員、他のサービス事業所	介護支援専門員、他のサービス事業所	介護支援専門員、福祉専門相談員、他のサービス事業所	介護支援専門員、他のサービス事業所	

リハビリテーションの方針	
杖、短下肢装具を使用して自宅内の移動(歩行)ができる。入浴以外のADLが自立できる	・1人で屋内で安全に移乗ができるよう歩行練習と必要に応じて環境調整を行います
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
歩行の獲得	屋内を1人で安全に移動ができるよう、福祉用具でサポートする

ID : 4 - 4 **事例タイプ : 急性発症** **脳卒中による入院加療後の生活機能の変化に対応して福祉用具を活用した事例**

利用者情報 : 68歳 男性 要介護3
 脳梗塞
 右片麻痺、高次脳機能障害、構音障害

事例概要 : FIM移動も退院直後は低下したがその後回復、自宅内短距離移動は自立。浴槽移乗FIM向上。軽減移乗バーを導入することで自室環境での更衣(下衣)が自立となった。



リハ専門職の関与

退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
訪問した職種	出席者	福祉用具利用に関する指導回数 6回 70分	16回 160分	16回 160分	16回 100分	12回 90分	12回 90分
P T、MSW、福祉用具事業者、介護支援専門員	医師、OT、看護師、MSW、福祉用具事業者、介護支援専門員	福祉用具に関する指導内容	福祉用具に関する指導内容	階段手すりの入れ替え	玄関の簡易手すりの撤去(バストポジショニングバー)		
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	その他の指導内容	その他の指導内容	その他の指導内容	その他の指導内容	その他の指導内容	その他の指導内容
・ケアマネジャーとの情報交換 ・動作確認 ・福祉用具の検討	・自宅内動作、高次脳機能障害の説明 ・退院後のサービス利用の説明	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大 介護支援専門員、福祉用具専門相談員	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大 他のサービス事業所、家族、福祉用具専門相談員	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大 介護支援専門員、福祉用具専門相談員、各種サービス紹介	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大 介護支援専門員	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大 介護支援専門員、他のサービス事業所、家族	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大 介護支援専門員、他のサービス事業所、家族

リハビリテーションの方針

<ul style="list-style-type: none"> 移動: 昼、夕食後後に部屋から食事席までの歩行が軽介助にて行える 入浴: 妻の介助でシャワー浴が行なえる <p>福祉用具利用の目標</p> <p>福祉用具を使用することで妻の介助量軽減、また安全に自己で操作が行なえる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医療管理にて状態の安定と身体機能向上を図る 通所介護にて入浴や昼食の確保を行う <p>福祉用具利用の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動の手段が自立する 玄関の段差昇降が安全に出来る 	<ul style="list-style-type: none"> 通所介護にて入浴や昼食の確保 <p>福祉用具利用の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 車いす: 転倒しない生活、移動することができる 杖: 杖歩行の自立 ベッド: 安静と安全に移乗できる 洗体椅子: 入浴が安全にできる
--	---	--

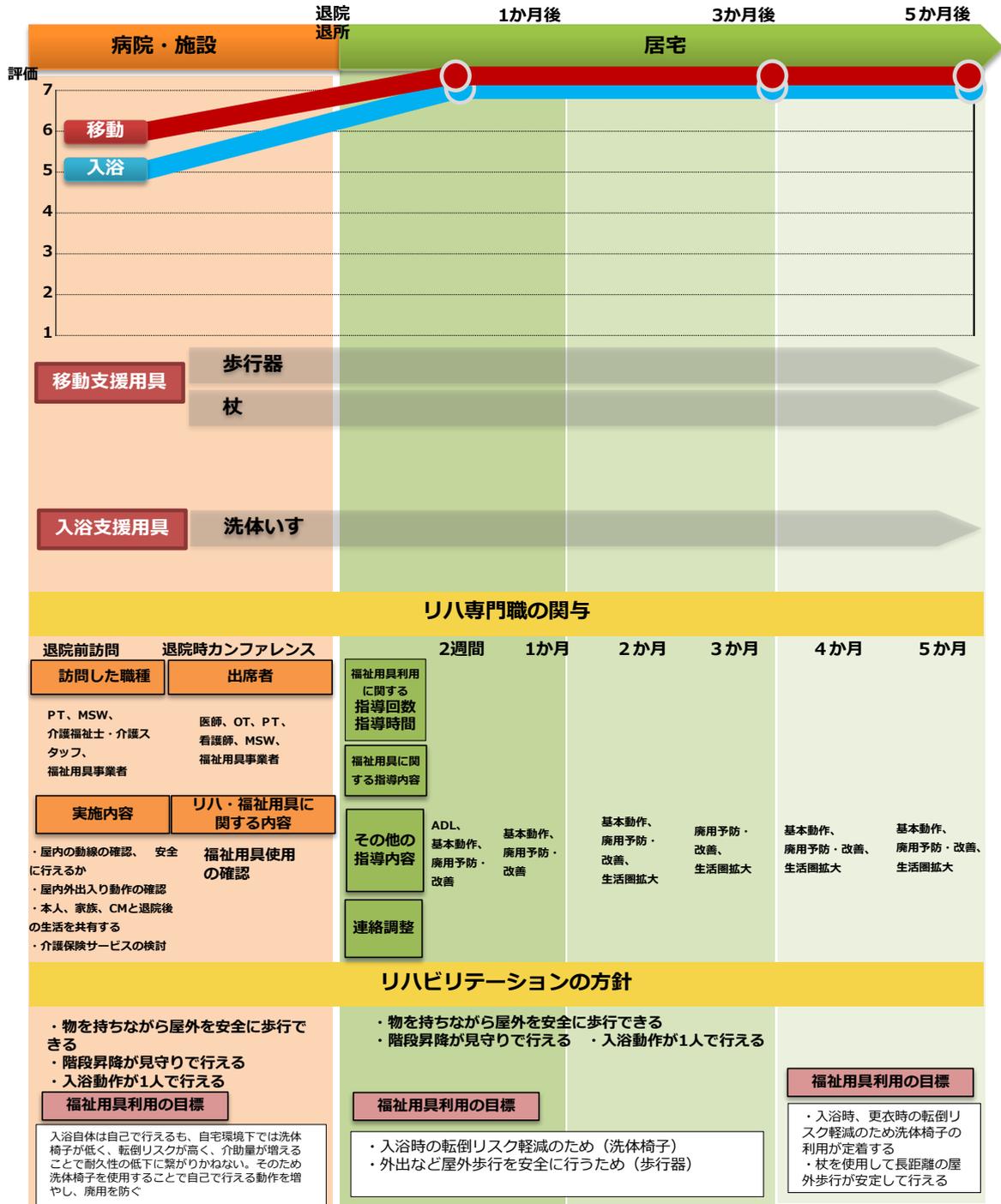
ID : 4-6

事例タイプ : 急性発症

大腿骨骨折による入院加療後に徐々に生活範囲を拡大できるように支援した事例

利用者情報 : 84歳 女性 要支援1
左大腿骨転子部骨折
歩行障害

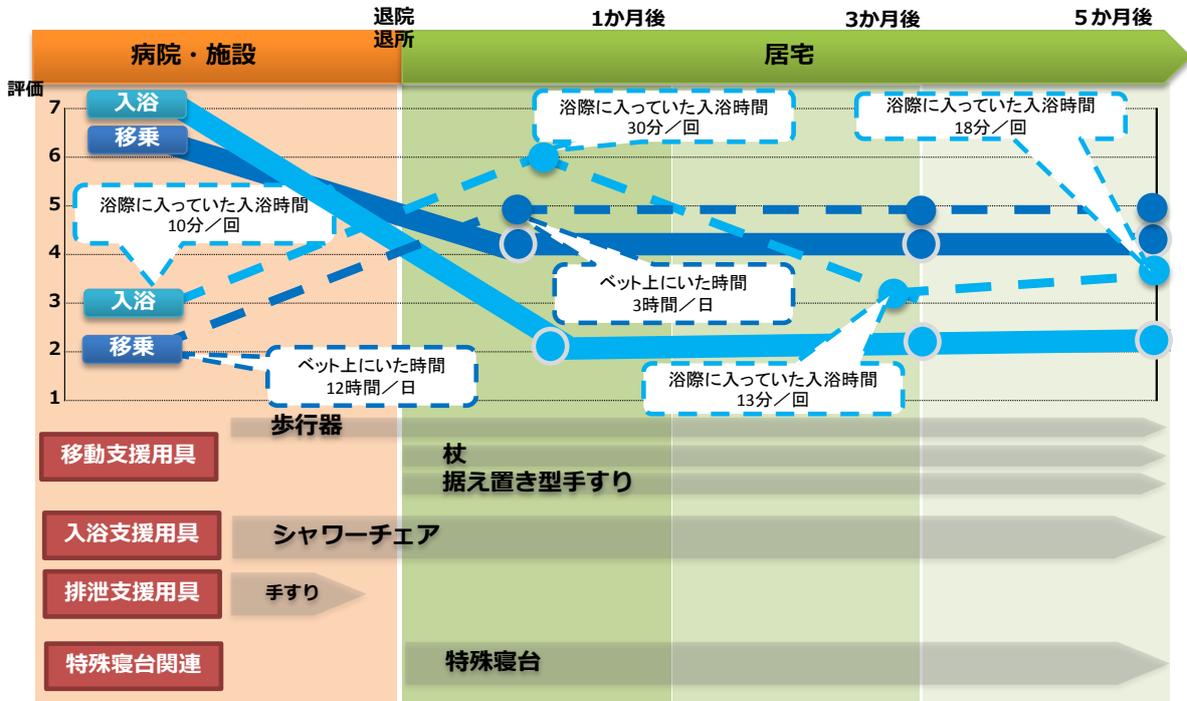
事例概要 : 退院後、外出に繋げるために導入した歩行器は適しなかったが本人の能力の改善もあり、T字杖で一人散歩が行えるようになった。洗体イスを導入することで一人で入浴ができるようになった。



ID: 4-7 事例タイプ: 急性発症 高次脳機能障害により自己管理が困難な方に対し、自宅内の移動・入浴を支援した事例

利用者情報: 87歳 女性 要介護3
 頭部外傷
 歩行障害、高次脳機能障害

事例概要: 自己にてスケジュール管理を行い自主的に生活できるようになった。自宅での入浴。洗体イスを購入し安全な浴槽の跨ぎ動作を獲得した。



退院前訪問		退院時カンファレンス		リハ専門職の関与					
訪問した職種	出席者	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月		
OT、PT、介護支援専門員	医師、OT、ST、看護師、MSW、介護支援専門員	福祉用具利用に関する指導回数 10分	3回 30分	1回 10分	3回 30分		3回 20分		
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容	ADL、基本動作、廃用予防・改善	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善		
・自宅内動線の確認 ・屋外環境の確認 ・CMとの意見交換、住宅改修検討	・移動は杖なしで可能であるが、突進様歩行となる時があるため注意が必要 ・認知度は口頭より紙面提示が良い	その他の指導内容	介護支援専門員、福祉用具専門相談員、他のサービス事業所						
		連絡調整							

リハビリテーションの方針

3月1日介護保険申請、要介護3となる。退院後としては、ヘルパーによる入浴サービス、デイケア、住宅改修サービスを利用し、外出機会を増やし、体力向上を図りながら、転倒なく安全に過ごす事が出来る

福祉用具利用の目標

- 入浴については、手すり、シャワーチェアを使用し、さらにヘルパーを利用する事で、自宅で安全に入浴が行える
- 移動は、シルバーカーを使用し、通所を利用しながら体力向上しながら家族と外出機会を増やすことが出来る

福祉用具利用の目標

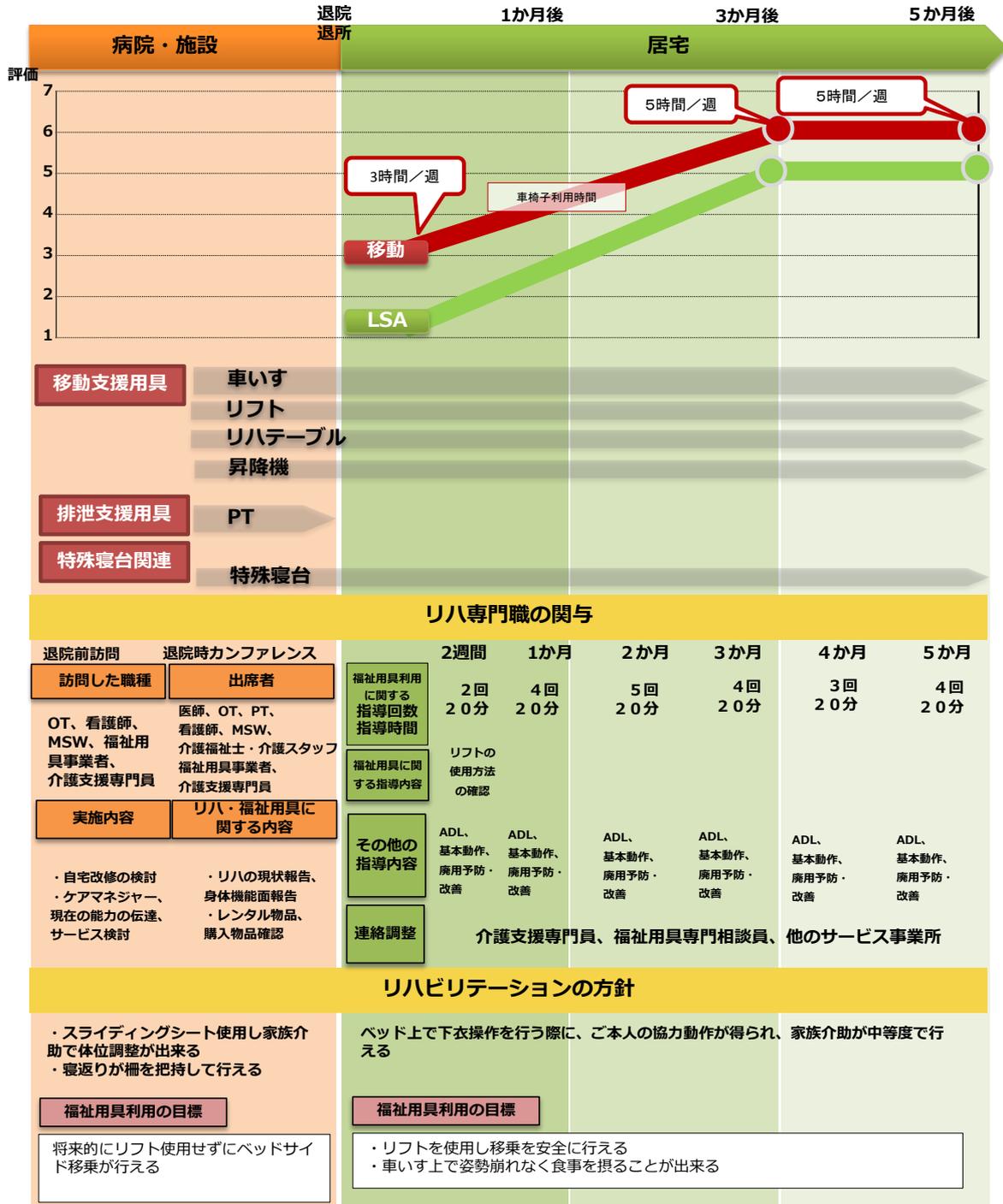
- 自宅内を安全に転倒なく移動できる
- 安全に入浴できる

・福祉用具（前輪型歩行器）を利用しながら、転倒なく自宅生活を送ることが出来る
 ・家族指導を行いながら、家族の介助負担を軽減させる

ID : 4-10 事例タイプ : 急性発症 日常生活が全介助な方に、家族の精神的な負担に配慮して離床用のリフトを導入した事例

利用者情報 : 73歳 男性 要介護5
脳出血
左片麻痺、失語症、高次脳機能障害

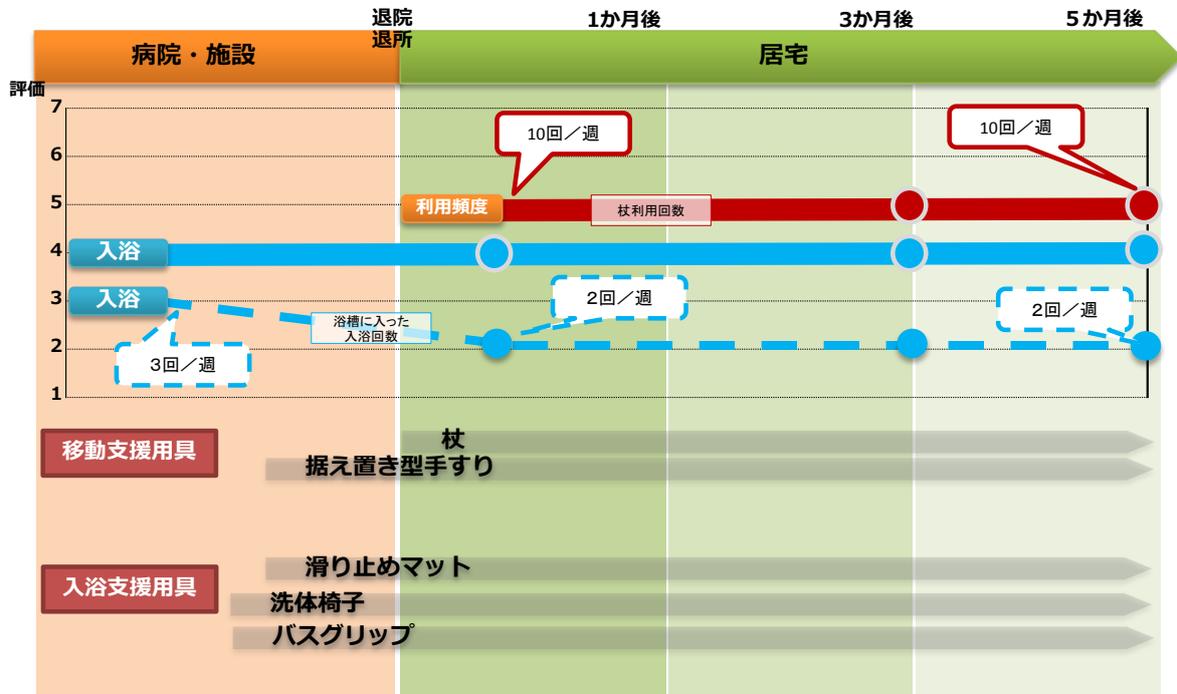
事例概要 : 安全な食事環境設定の為の車椅子環境設定。
訪問リハでの移乗練習を継続したことで、妻の精神的介護負担が減少し、離床機会が増加したことで、座位耐久性が向上。



ID : 4-16 **事例タイプ : 急性発症** **抗がん治療を行いながらリハビリサービスを受け、早期退院、自宅生活を実現した事例**

利用者情報 : 78歳 男性 要介護2
脳梗塞
右片麻痺、構音障害

事例概要 : "抗がん剤治療を行いながら、リハを続け福祉用具の使用と訪問通所リハに繋げ、早期退院を実現した。福祉用具と在宅サービスを利用し身体機能を維持し、入浴と家族との外出を楽しめている。

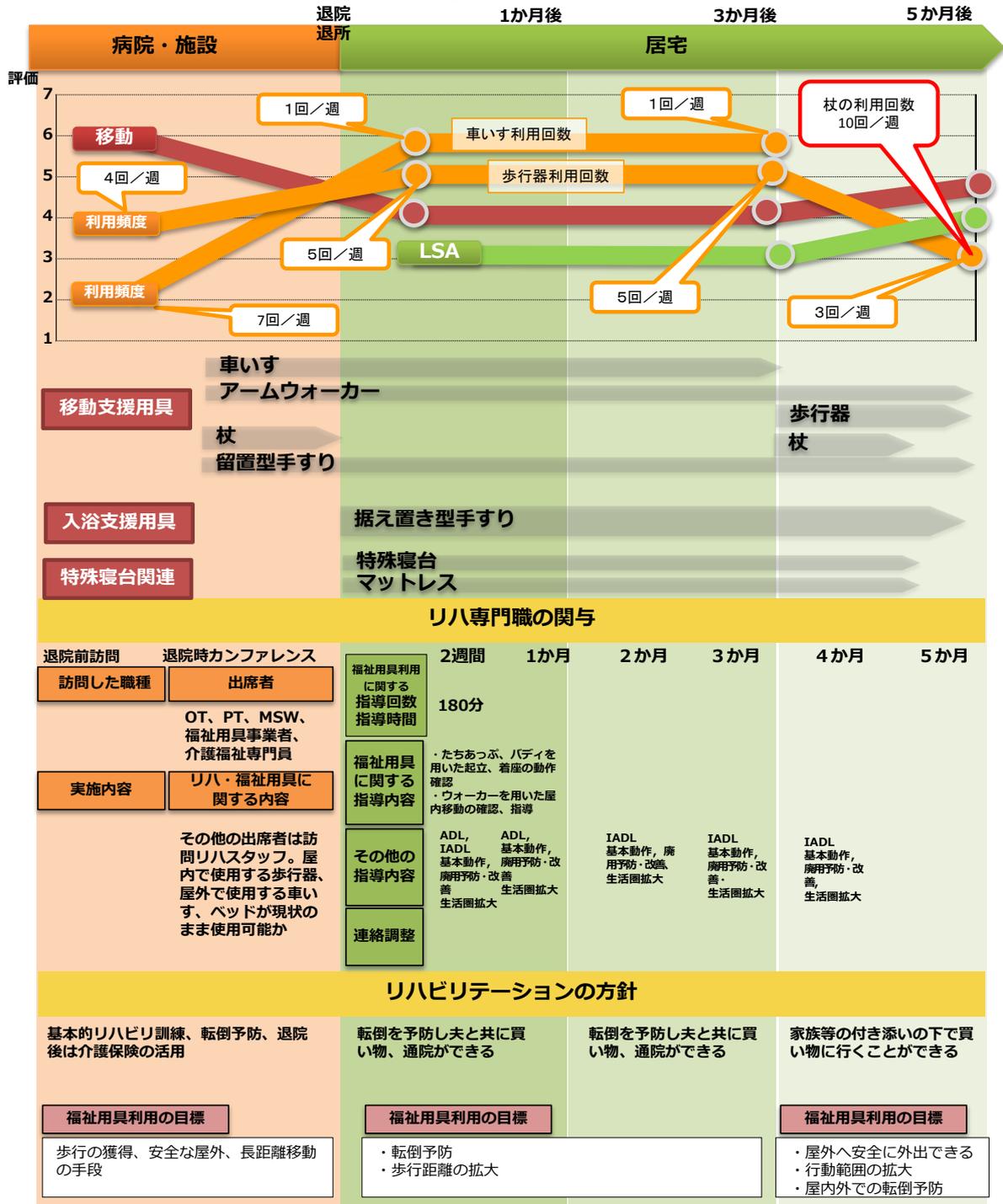


		リハ専門職の関与					
退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
訪問した職種	出席者	福祉用具利用に関する指導回数 4回 40分					
P T、MSW、福祉用具事業者、介護支援専門員	医師、OT、P T、看護師、福祉用具事業者、介護支援専門員	福祉用具に関する指導内容	玄関の框昇降				
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	その他の指導内容	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大
・ 自宅内動作確認 ・ 福祉用具選定 ・ 介護保険サービスの検討	・ 訪問リハ、訪問看護、通所リハ利用となる	連絡調整	介護支援専門員	介護支援専門員	介護支援専門員	介護支援相談員	

リハビリテーションの方針	
自宅内ADLが自立できるよう、身体機能面の向上を図る	転倒無く安全に自宅生活を継続することができる。家族とウォーキングを行うことが安全にできる
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
手すりの設置	・ 安全な框昇降や入浴動作の確保

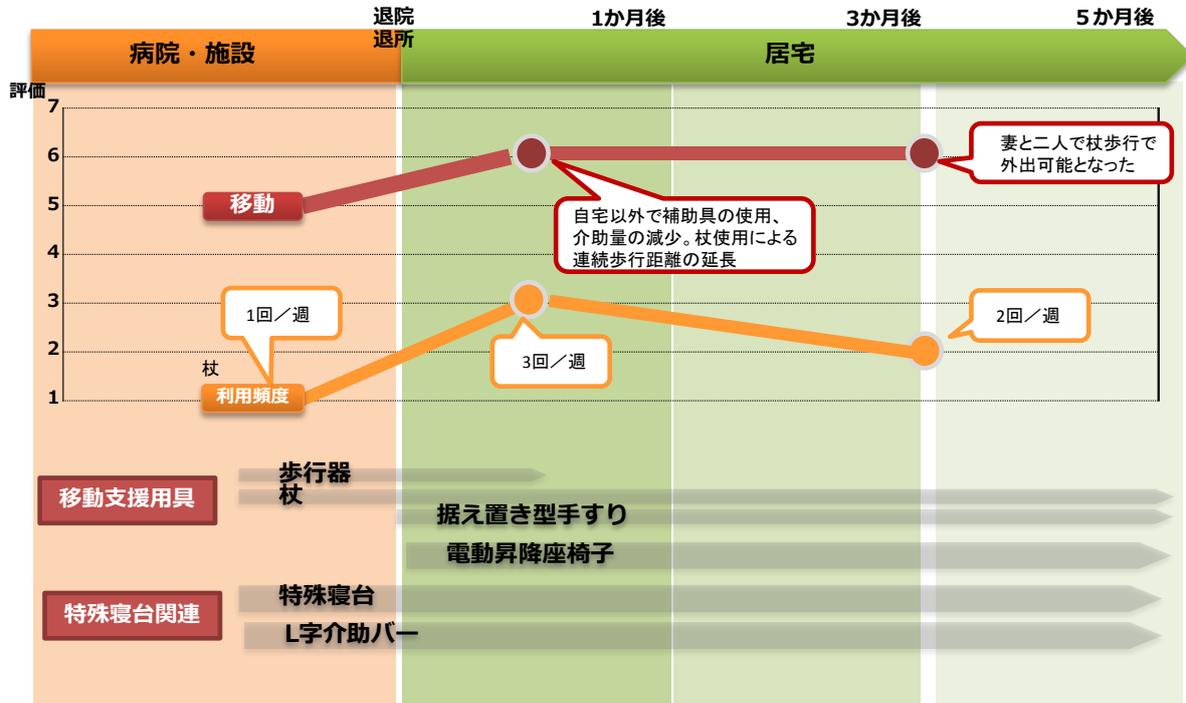
ID : 5 - 1	事例タイプ：廃用症候群	退院後2か月で歩行安定し車いすを返却した事例
------------	-------------	------------------------

利用者情報：年齢不明 女性 要支援2 脳梗塞、右大腿骨転子部骨折、骨接合術後 右片麻痺、右下肢筋力低下、荷重困難	事例概要：退院時は屋内は歩行器と杖の併用。屋外は、車いす移動であったが、居宅生活で役割を持つよう関わった結果、退院後2か月で歩行が安定し、車いすを返却した。
--	--



2) 生活や活動が向上した事例

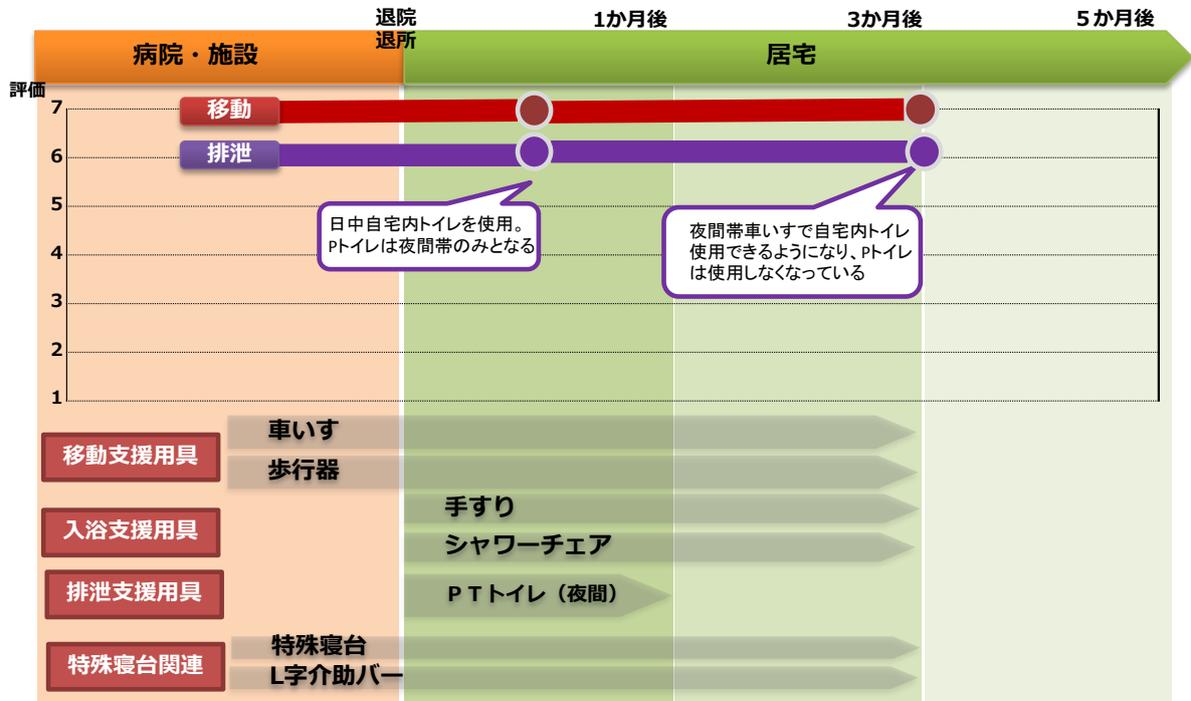
ID: 2-1	事例タイプ: 急性発症	慢性進行性の疾患による生活機能の変化に対して、継続的・段階的に環境整備を行った事例
利用者情報: 80歳 男性 要介護4 多発性関節炎、頸椎後縦靭帯骨化症、 前立腺肥大、緑内障 四肢痙性麻痺		事例概要: 以前より使用していた用具を退所後も混乱なく使用。妻の手を借りずに日中、トイレなどへ移動できる。歩いて移動出来なくなった際の事も考慮し、土台を改修。



退院前訪問		退院時カンファレンス	リハ専門職の関与					
訪問した職種	出席者		2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
OT・MSW 福祉用具事業者 介護支援専門員	OT・看護師、 MSW、 福祉用具事業者 介護支援専門員	福祉用具利用に関する指導回数 指導時間						
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容						
自宅内動作の確認 入浴動作の確認 退所後支援、 環境調整の確認	訪問、通所リハビリ使用の各目的の確認 福祉用具レンタルと住宅改修について	その他の指導内容 ADL、基本動作、服用予防・改善、生活圏拡大						
		連絡調整						

リハビリテーションの方針	
<p>行動: 移動と排泄(管理)の自立度を上げ、在宅復帰に向けて援助する</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 前腕支持型歩行器使用による長距離歩行による体力・下肢筋力の向上 起居動作の自立 杖歩行の能力向上 	<p>体を動かす機会を持ち、身体能力の維持向上を図る。家族と安全に外出することができる。楽しみを持ち、明るく生活することができる</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全に自宅内を移動できる。負担なく安全に立ち上がることができる。住宅改修を行い安全に外出できる <p>福祉用具利用の目標</p> <p>座位において姿勢変換が容易に出来、安全に立ち座り、移動ができる必要がある。自力では不十分なところを電動にて補い、伝い歩きの手すりを着けるなどして、極力地力を引き出し、安全に自宅を過ごすべく</p>

ID : 2-2	事例タイプ : 急性発症	高次脳機能障害者に対し歩行器と車いすを使い分けて自立的な生活を維持することを支援した事例
利用者情報 : 65歳 女性 要介護5 高血圧性左小脳出血、閉塞性水頭症 高次脳機能障害、左不全片麻痺	事例概要 : 車椅子導入後、家事動作が拡大し昼食の準備、片付けができ、ポータブルトイレの使用がなくなった。介護負担量が軽減。通所リハで宝庫期使用のリハビリを継続中。	



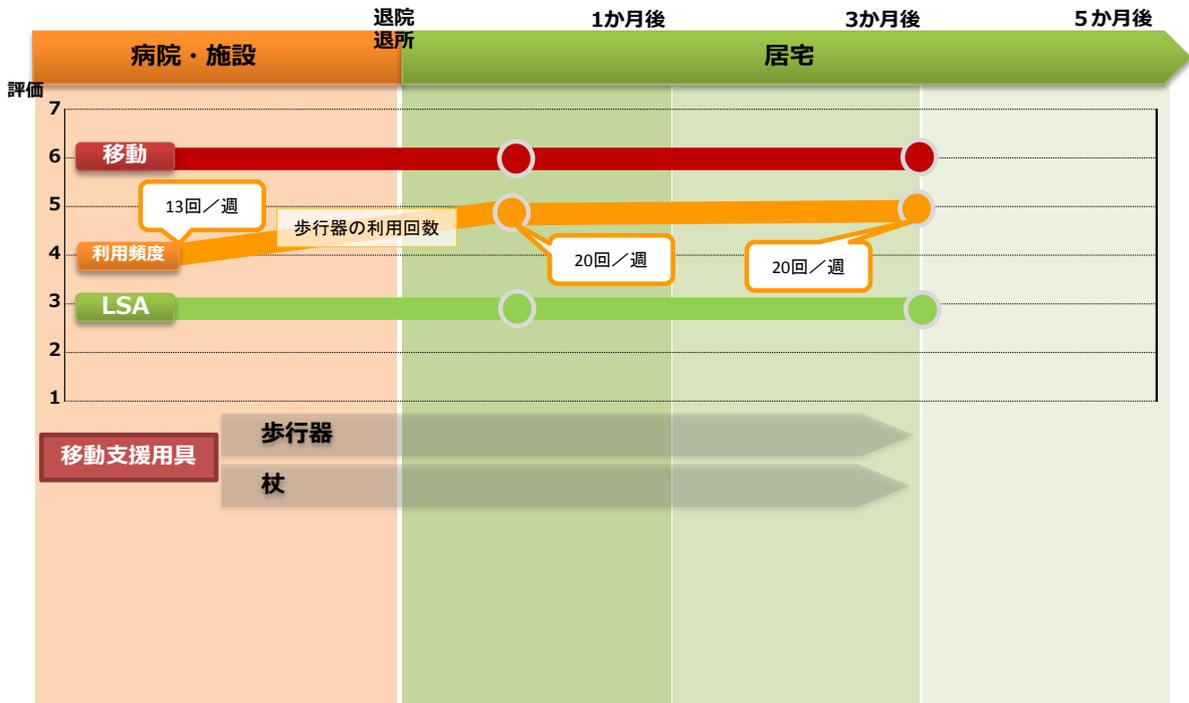
退院前訪問		退院時カンファレンス		リハ専門職の関与					
訪問した職種	出席者	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月		
OT 福祉用具事業者 介護支援専門員	OT 福祉用具事業者 介護支援専門員	福祉用具利用に関する指導回数 2回 60分	3回 120分	3回 120分	3回 120分				
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容 前腕支持型歩行器での歩行。浴室でのシャワーチェアを使用する入浴動作、介助指導		その他の指導内容 ADL、基本動作		ADL、IADL、基本動作、生活圏拡大		IADL、基本動作、生活圏拡大	
退所後のサービス調整 (訪リハ・通所・入浴等) 退所後の福祉用具の決定 退所後の住宅改修の調	訪問リハビリの説明と契約 自宅で使用する歩行器、後日より使用するW/C調整	連絡調整 介護支援専門員		介護支援専門員、福祉用具専門相談員		介護支援専門員、福祉用具専門相談員		介護支援専門員	

リハビリテーションの方針		
<p>自宅ですべての役割を少しでも持つ事で、生活の意欲が向上できるようになる。安全な自宅内の移動動作が出来るようになる</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>車いすを利用する事で施設内、外出時安全に移動できる。歩行器、手すりを使用することで、自宅内を歩行することが出来る。ベッド、L字バーを利用する事で安全に立ち上がり移乗ができる</p>	<p>自宅内で転倒なく安全に移動でき、入浴動作が安全に行う事が出来るようになることで、安心した自宅生活が送れるようになる。また、家事動作を再開でき妻としての役割が持てるようになる</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>自宅での生活動作が安全に行えるよう福祉用具を使用し、生活動作が自立できるようにする</p>	<p>福祉用具利用の目標</p> <p>福祉用具を利用する事で、家事動作の出来る範囲を増やすことができる。車いすでの自宅外への外出のしやすさ、運動量確保 (通所での歩行器訓練)</p>

ID : 3 - 1 **事例タイプ : 急性発症** **腰部椎間板ヘルニアの手術後に、自宅で杖・歩行器を活用することで生活範囲が広がった事例**

利用者情報 : 83歳 女性 要介護1
 腰椎椎間板ヘルニア / H27.7 : L3/4椎弓切除・L5椎体形成・L4/5椎間後方固定術施行

事例概要 : 徐々に歩行車、杖の使用に慣れ、利用回数、利用時間は増加した。屋外の歩行、居室の掃除も可能となった。



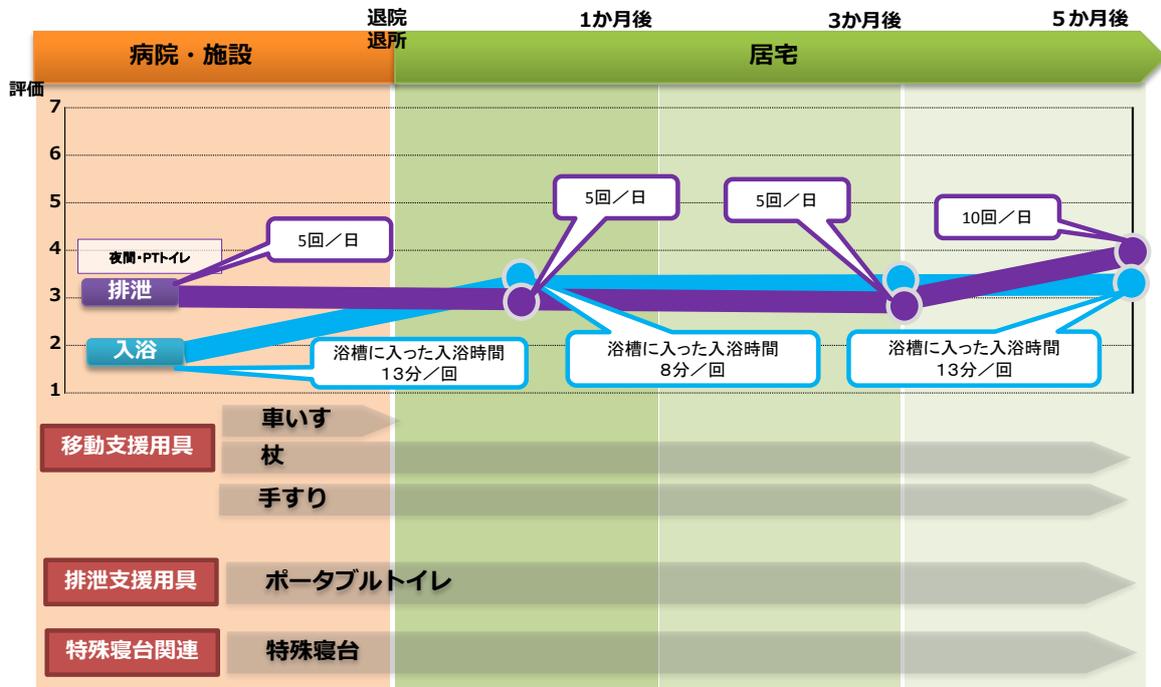
退院前訪問		退院時カンファレンス		リハ専門職の関与					
訪問した職種	出席者	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月		
OT・福祉用具事業者・介護支援専門員	医師、OT、PT、看護師、MSW、介護福祉士・介護スタッフ	福祉用具利用に関する指導回数 4回 60分	4回 60分	8回 120分	8回 80分				
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容	歩行車を使用して狭い場所での扱い方	歩行車を使用して狭い場所での扱い方	歩行車を使用して狭い場所での扱い方	歩行車を使用して狭い場所での扱い方			
・家族、本人指導 (段差昇降の方法) ・住宅改修の提案 ・屋内の移動方法の検討	・移動は基本的に杖、調子が悪い時は、歩行車を使用する ・家事は無理をせず、家族に頼る	その他の指導内容	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大			
		連絡調整	家族	家族	他のサービス事業所、家族	他のサービス事業所、家族			

リハビリテーションの方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・下肢筋力の向上を図り、転倒に注意しながら、安定した杖歩行ができるよう支援する ・在宅で身の回り動作を自力で安全に行う事ができる <p>福祉用具利用の目標</p> <p>歩行を安定させ、転倒を予防する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢筋力の向上を図り、転倒に注意しながら、安定した杖歩行ができるよう支援する ・在宅で安全に身の回り動作が自力で行える <p>福祉用具利用の目標</p> <p>歩行を安定させ、転倒を予防する</p>

ID：4-5 事例タイプ：急性発症 片麻痺と高次脳機能障害に対応し、夜間の排泄を安全に行えるように支援した事例

利用者情報：96歳 女性 要介護3
くも膜下出血
歩行障害、高次脳機能障害

事例概要：高次脳機能障害を有す夫と二人暮らし。不安定であるが、頻尿である為、ベッド+PTトイレを使用。さらにPバーを使用する事で安全な夜間の排泄獲得を図った。PTトイレを安全に使用できている。



リハ専門職の関与

退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
訪問した職種 OT、 介護福祉・介護スタッフ 福祉用具事業者、 介護支援専門員	出席者 医師、OT、看護師 MSW、 福祉用具事業者、 介護支援専門員	福祉用具利用に関する指導回数 2回 10分	2回 10分	5回 5分	5回 5分	4回 5分	4回 5分
実施内容 ・動線の確認（寝室、食卓、トイレ、洗面台） ・ベッド周囲の環境設定 ・情報交換	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容 移乗バーでの立ち上がり	移乗バーでの立ち上がり、移乗（PTイレ？）	座位、立ち上がり、歩行、いざり動作	座位、立ち上がり、歩行、いざり動作	床動作、歩行	床動作、歩行、いざり動作
		その他の指導内容 ADL、基本動作、廃用予防・改善、	ADL、基本動作、基本動作、廃用予防・改善、	基本動作、廃用予防・改善、	基本動作、廃用予防・改善、	基本動作、廃用予防・改善、	基本動作、廃用予防・改善、
		連絡調整		他のサービス事業所			

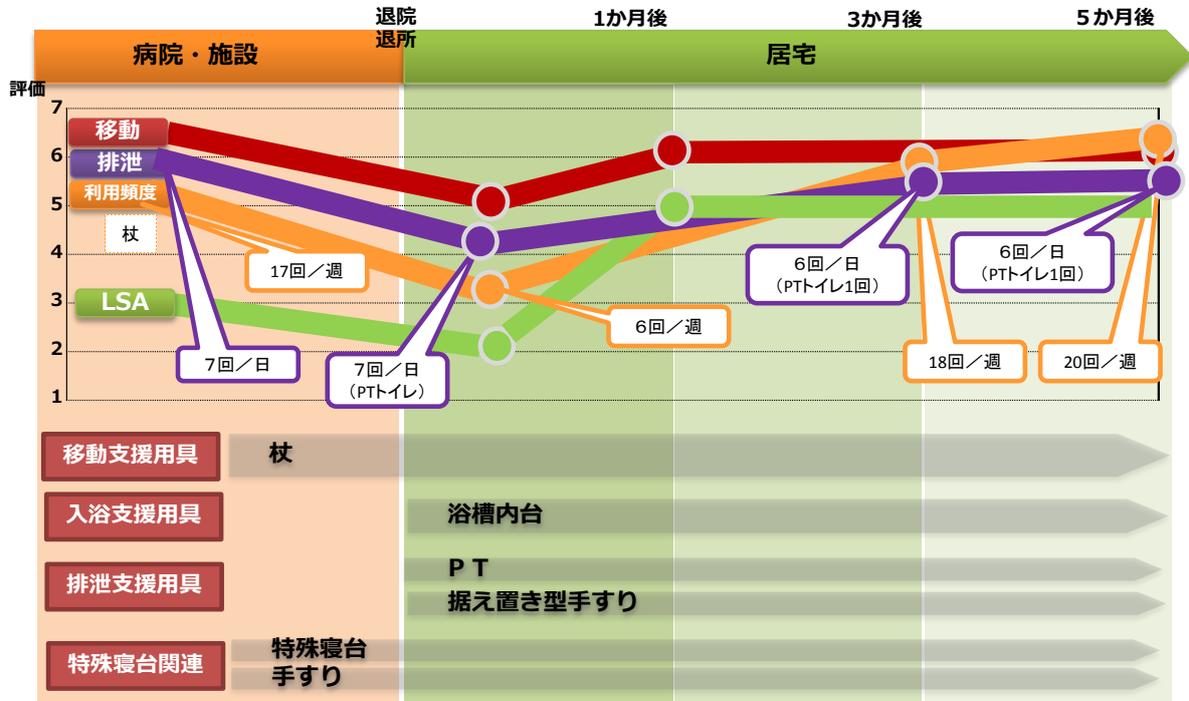
リハビリテーションの方針

<ul style="list-style-type: none"> ポータブルトイレを使用して夜間の排泄が1人で安全に行える 夜間の睡眠がとれ、日中活動的に過ごすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 転倒することなく自宅での生活を安全に送ることができる トイレ移動が1人で手すりなど使用しながら実施できる 家族の介護負担が増えることなく生活できる
<p>福祉用具利用の目標</p> <p>夜間ポータブルトイレ自立</p>	<p>福祉用具利用の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> くも膜下出血で入院していたため、病状変化があればすぐに気付けるようにしながら病状や体調管理をしていきたい 1人で過ごす時間を減らし、自分でできる作業をしたりして自宅で充実した時間を過ごしていきたい

ID : 4-8 事例タイプ : 急性発症 胸椎圧迫骨折後に、適切な福祉用具を用いることにより活動範囲が広がった事例

利用者情報 : 82歳 女性 要支援1
胸椎圧迫骨折
歩行障害

事例概要 : “移動FIM, LSAなど退院直後は低下したがその後回復した。”



リハ専門職の関与		2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
退院前訪問	退院時カンファレンス						
訪問した職種	出席者						
PT、看護師	医師、PT、 看護師、MSW 介護福祉士・ 介護スタッフ						
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容						
実際に自宅での動作を行い退院後の環境設定を検討する。退院後の生活のイメージをつけ、今後の練習に活かす	リハの経過と現状の報告						
福祉用具利用に関する指導回数	指導時間	2回 5分	3回 5分	2回 5分	4回 5分		4回 5分
福祉用具に関する指導内容		物品を使用した動作の確認	物品を使用した動作の確認	物品を使用した動作の確認	物品を使用した動作の確認		物品を使用した動作の確認
その他の指導内容		ADL、IADL、基本動作、 廃用予防・改善、 生活圏拡大	ADL、IADL、基本動作指、 廃用予防・改善、 生活圏拡大	IADL、基本動作、 廃用予防・改善、 生活圏拡大	IADL、基本動作、 廃用予防・改善、 生活圏拡大	ADL、IADL、基本動作、 廃用予防・改善、 生活圏拡大	IADL、基本動作、 廃用予防・改善、 生活圏拡大
連絡調整		介護福祉専門員	介護福祉専門員、 家族		介護福祉専門員、 福祉用具専門相談員		

リハビリテーションの方針

行動：杖を用いて1人で歩く事が出来る
内服：1週間分を自室で管理できる 入浴：自宅環境に合わせて、安全に浴槽の出入りが行える
靴はき：立位で靴の着脱が安定して行える

福祉用具利用の目標

福祉用具を使用し、本人のできる能力を最大限に引き出す。また、家族の介助負担の軽減

定期的な医療機関の受診と各種サービス等を利用して、自宅にて生活するための日常生活動作の機能維持ができるように支援する

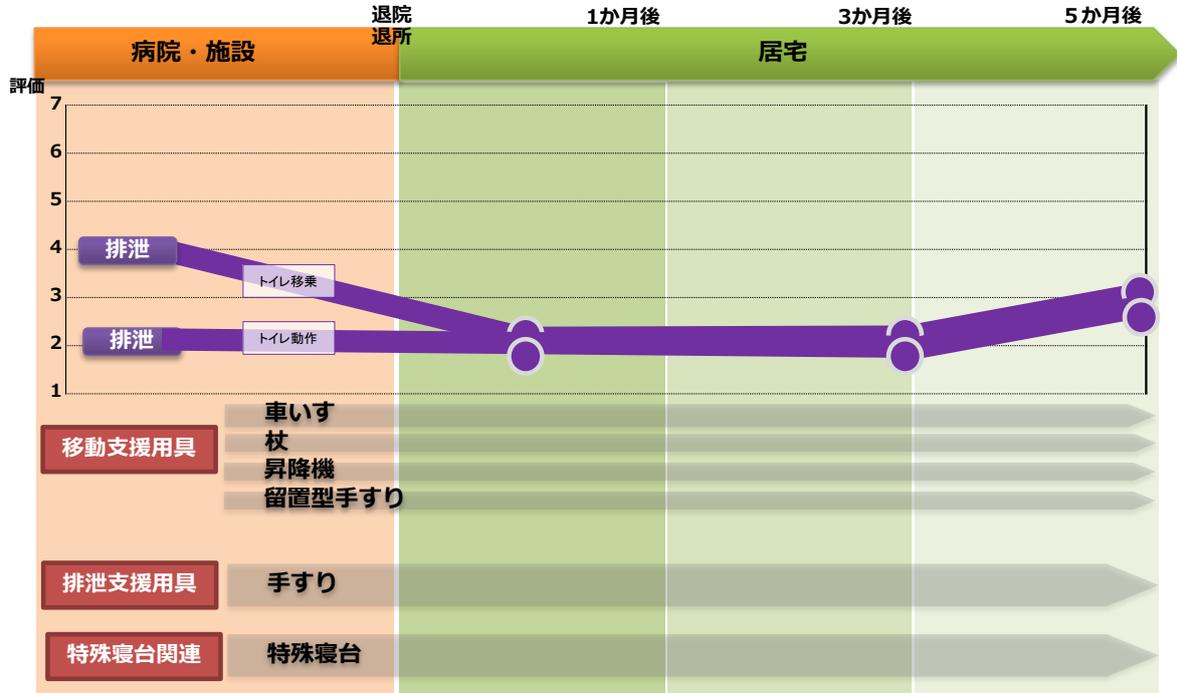
福祉用具利用の目標

- ・ベッド上での寝返りが行える
- ・玄関框を安全に昇降できる。靴の着脱が出来る
- ・入浴時の洗体、洗髪を安楽に行える

ID : 4 - 13 事例タイプ : 急性発症 片麻痺者の生活期に心身機能の低下を防ぐために環境整備を行った事例

利用者情報 : 64歳 男性 要介護4
 脳梗塞
 右片麻痺、失語症、摂食機能障害、高次脳機能障害

事例概要 : トイレでの排泄が安全に行えるように、縦手すりを使用し移乗ができるよう介入した。外出しやすいように昇降機を導入。パディを導入し、家族で自宅での歩行運動を行えるようになった。



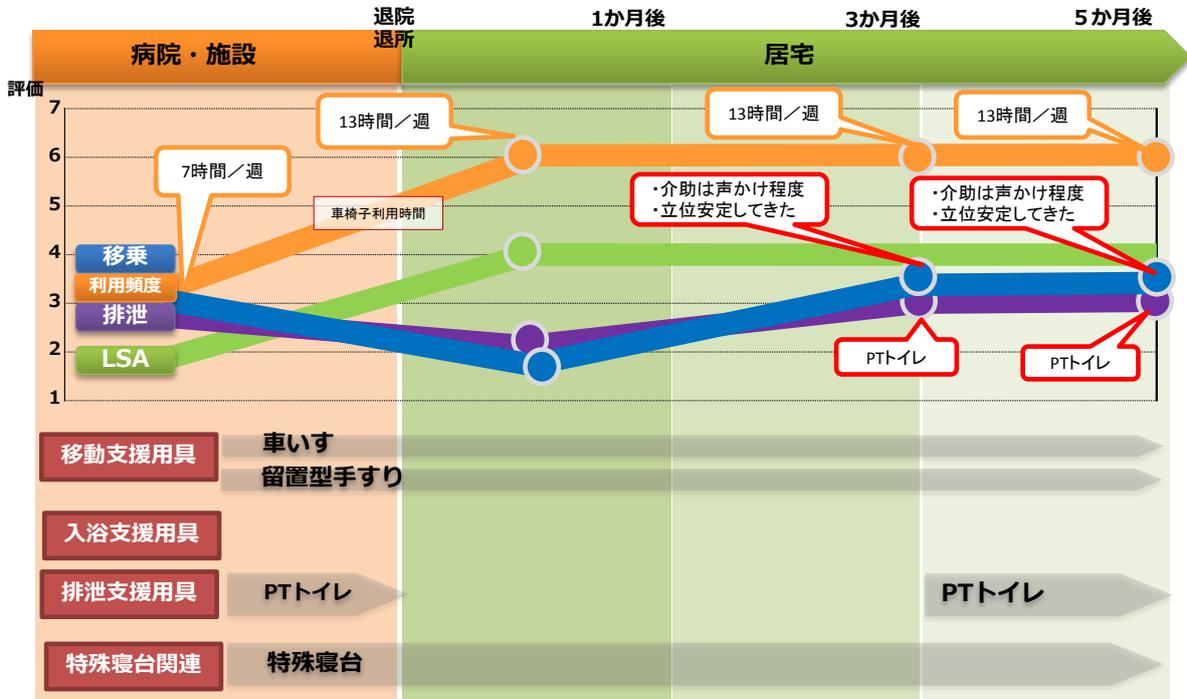
リハ専門職の関与		2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
退院前訪問	退院時カンファレンス						
訪問した職種	出席者						
OT、PT、MSW、福祉用具事業者・介護支援専門員	医師、OT、ST、看護師、MSW、介護福祉士・介護スタッフ 福祉用具事業者、介護支援専門員						
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容						
・住宅改修の検討 ・必要な福祉用具の検討 ・退院後のサービスの検討	住宅改修の進捗状況や退院後のケアプラン（訪問リハ）						
福祉用具利用に関する指導回数	指導時間				回 20分	回 20分	12回 90分
福祉用具に関する指導内容					歩行練習 (家族との)	歩行練習 (家族との)	
その他の指導内容		ADL、IADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、IADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、IADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、IADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、IADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、IADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大
連絡調整		← 介護支援専門員、福祉用具専門相談員、家族 →					

リハビリテーションの方針	
現状として、自宅でのトイレが課題となっている。ベッド周囲の動作は見守りで可能となっているため、トイレ動作が家族の見守りで行えるよう関わる	・トイレ動作（特に方向転換）について、動作ex、介助の方法を確認 ・歩行exを行い、体力up、筋力up
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
退院後に使用予定の車いすや、ベッド環境を想定して練習を行い、自宅でのベッド周囲動作や見守り、トイレ動作が軽介助で行える	車いす⇄ベッド、車いす⇄トイレの移乗が家族の介助で安全に行える。家族の介助で歩行が出来る

ID : 4-14 **事例タイプ：急性発症** 頭部外傷により生活全般に介助を要する方と一緒に暮らしたいという家族を支援した事例

利用者情報：73歳 男性 要介護5
 頭部外傷（右急性硬膜下血腫）
 右片麻痺、高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害

事例概要：施設で生活していたが、発症を機に自宅での生活を妻が決意。自室は狭くベッドからポータブル車椅子移乗をバディーを介して行う設定とし、妻の介助量が軽減。



退院前訪問		退院時カンファレンス		リハ専門職の関与					
訪問した職種	出席者	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月		
P T、MSW、介護福祉士・介護スタッフ、福祉用具事業者	医師、OT、P T、ST、看護師、MSW、介護福祉士・介護スタッフ、福祉用具事業者	福祉用具利用に関する指導回数 指導時間	回 30分	回 30分	回 40分	回 40分	回 40分		
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容	車いすの調整	車いす・クッションの調整	基本動作、廃用予防・改善・その他	車いす・クッションの選定、評価	基本動作、廃用予防・改善・その他		
自宅内を車いすで生活できるように環境設定を行う。移乗動作の確認	座位姿勢、起や移乗の能力の伝達、記憶や注意等高次脳機能障害の説明、退院後のサービス利用情報の共有	その他の指導内容	ADL、基本動作	基本動作	ADL、基本動作	基本動作、廃用予防・改善・その他	基本動作、廃用予防・改善・その他		
		連絡調整	福祉用具専門相談員	福祉用具専門相談員		介護支援専門員、福祉用具専門相談員、他のサービス事業所			

リハビリテーションの方針	
起居・移乗が妻と一緒に安全に行える。コール尿意を知らせることができる	車いすーベッド間を一人で安全に移乗できる
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
本人が行える能力を最大限引き出す。妻の介助量軽減。安全に起居・移乗・排泄が安全に行える。	"起き上がり、立ち上がり、移動動作における安全の確保"

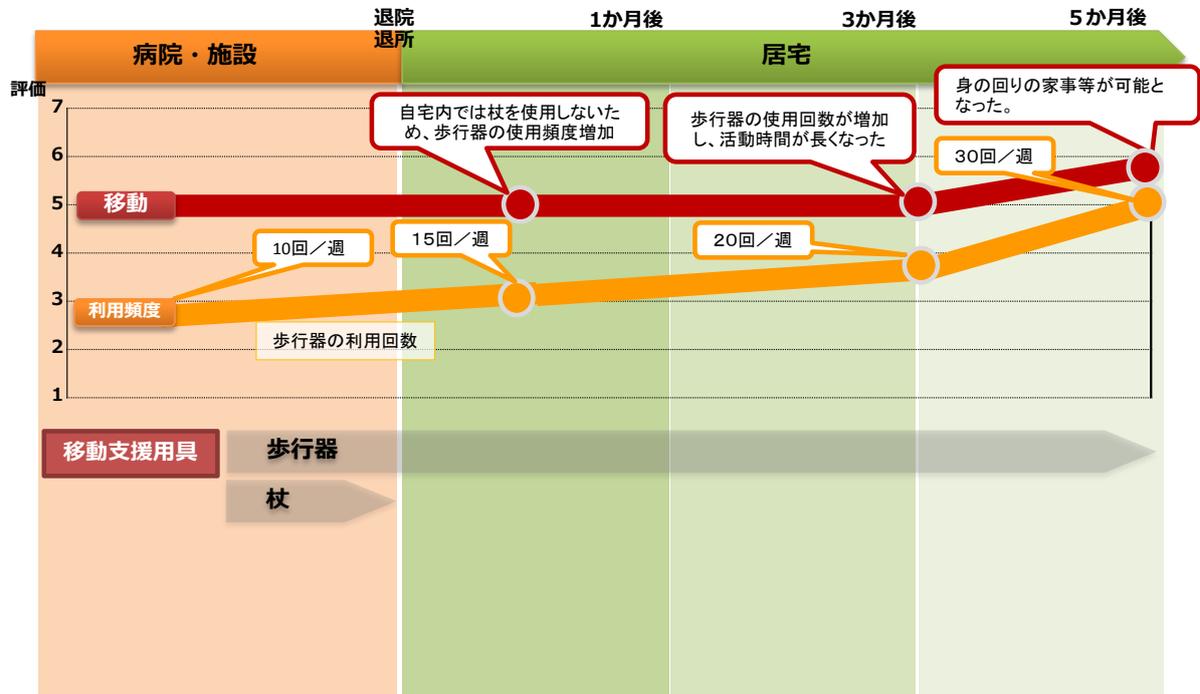
ID : 3 - 12

事例タイプ：廃用症候群

転倒後に適切な歩行補助具を使用することで、生活機能が向上した事例

利用者情報：86歳 男性 要介護2
第6胸椎圧迫骨折、頸椎症 / 背部打撲。杖歩行可能だが不安定。頸椎症、両手運動の拙劣性あり

事例概要：自宅内では杖を使用しないため、3か月で歩行器の使用回数が増え、活動時間が長くなり、5か月ではFIM移動が自立となり身の回りの家事などが可能になった。

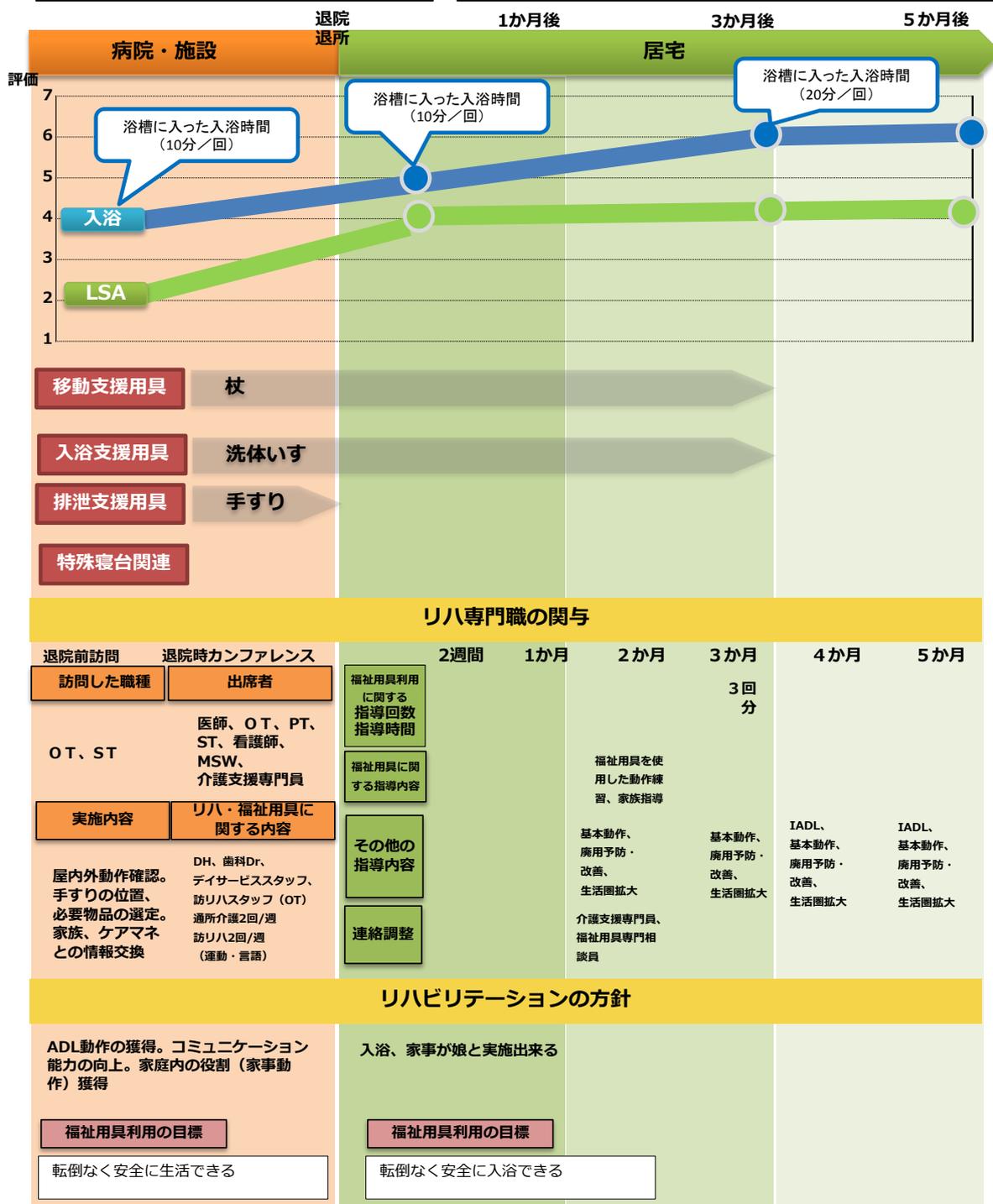


リハビリ専門職の関与		2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
退院前訪問	退院時カンファレンス						
訪問した職種	出席者						
	医師、OT、PT、看護師、MSW、介護スタッフ、介護支援専門員						
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容						
	屋内移動の安定性向上、転倒予防の為、歩行車を導入した						
福祉用具利用に関する指導回数		1回	5回	11回	10回	11回	11回
指導時間		10分	50分	110分	50分	50分	50分
福祉用具に関する指導内容		杖を使用しての歩行練習	杖歩行を安全に行う	杖歩行を安全に行う	杖を使用しての応用歩行	杖を使用しての応用歩行	杖を使用しての応用歩行
その他の指導内容		ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大
連絡調整		介護支援専門員、福祉用具専門相談員	介護支援専門員、福祉用具専門相談員	介護支援専門員		介護支援専門員	介護支援専門員

リハビリテーションの方針			
歩行能力の向上を目指し、下肢筋力の強化や歩行練習を行う。在宅での安定した移動手段の獲得	・自宅入り口に段差があるため、下肢筋力の向上 ・居室内での転倒を予防する為、歩行補助具の使用を促す	・自宅内を転倒なく移動できるように、応用歩行動作練習 ・段差昇降能力の維持の為、下肢筋力練習	
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
歩行を安定させ、転倒を予防する事	歩行の安定を図り、転倒を予防する	歩行の安定を図り、転倒を予防する	歩行の安定を図り、転倒を予防する

3) 介護の不安、負担が軽減された事例

ID : 4-11	事例タイプ : 急性発症	片麻痺者の入浴を娘の介助でできるように支援した事例
利用者情報 : 59歳 女性 要介護3 脳梗塞 右片麻痺、構音障害、失語症		事例概要 : 福祉用具を使用して浴槽に入ることを目標にした。福祉用具と娘の介助で浴槽にはいることができた。



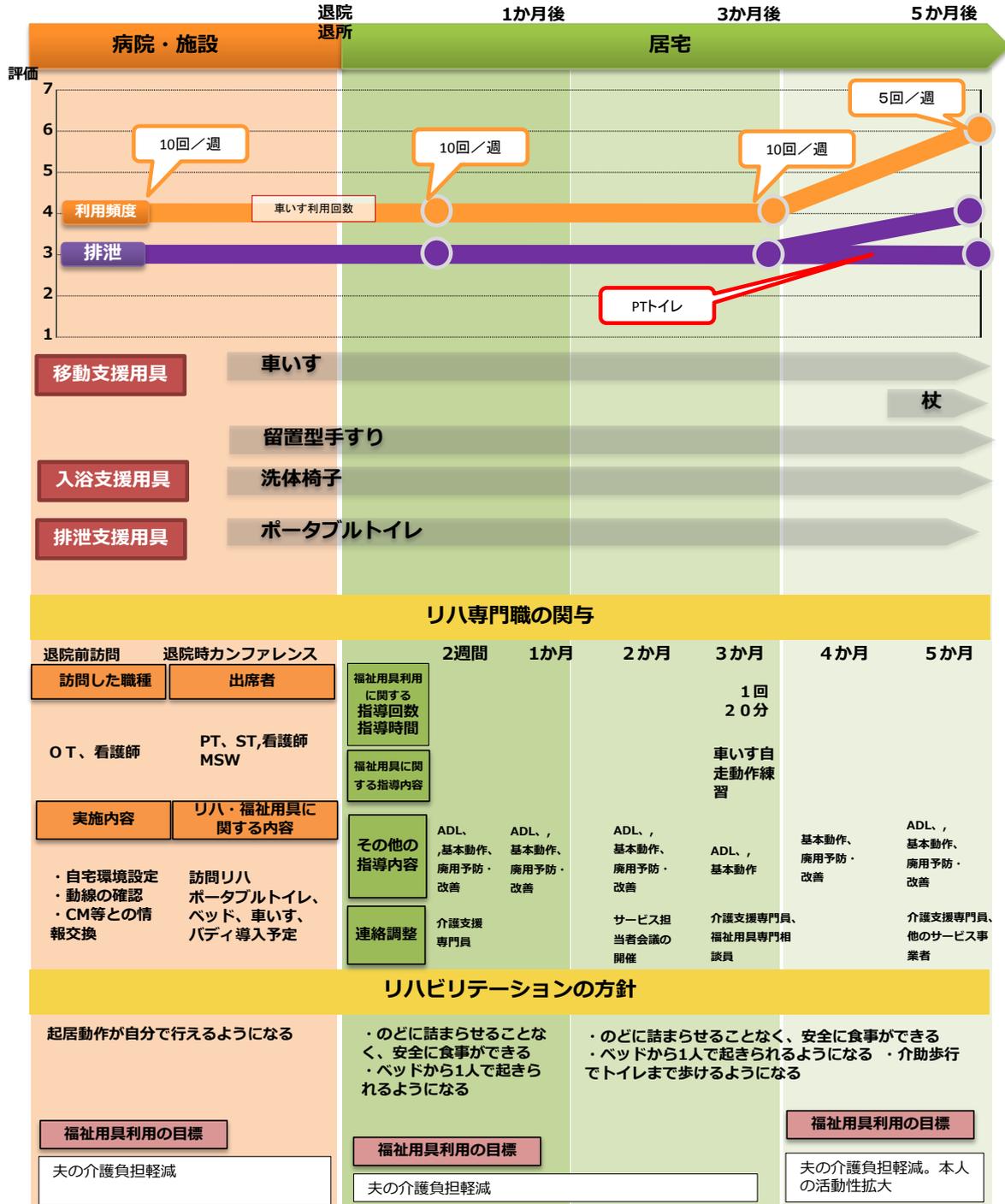
ID : 4 - 17

事例タイプ : 急性発症

重度の障害があるものの多くの介護力を望めない環境で、在宅生活が可能となった事例

利用者情報 : 67歳 女性 要介護5
脳出血
左片麻痺、構音障害、摂食機能障害、高次脳機能障害

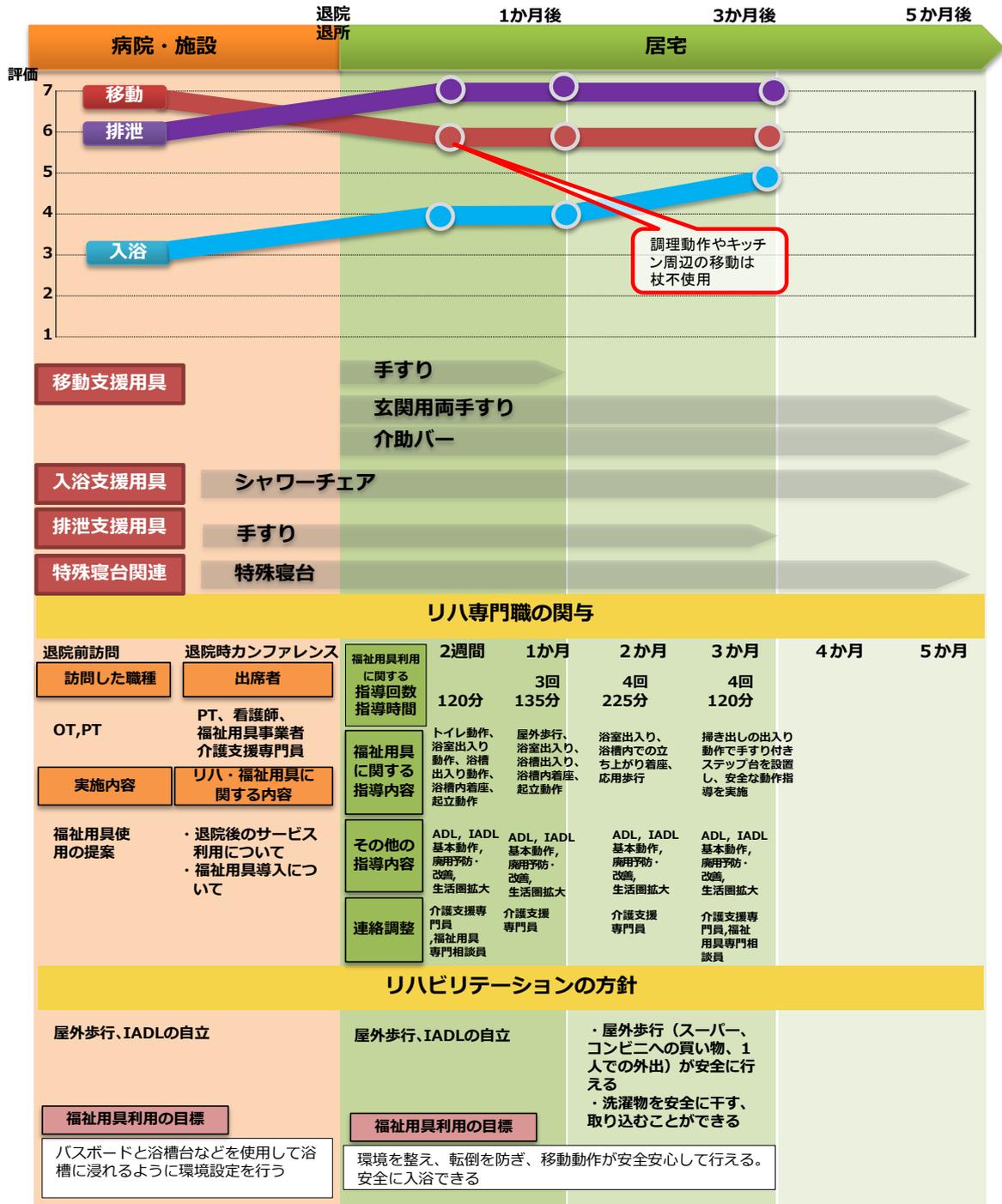
事例概要 : 多くの介護力を望めない家族の介護により、歩きたい希望に沿い、訪問リハ内容を変更。自走型車椅子導入により自らの活動機会を増やした。



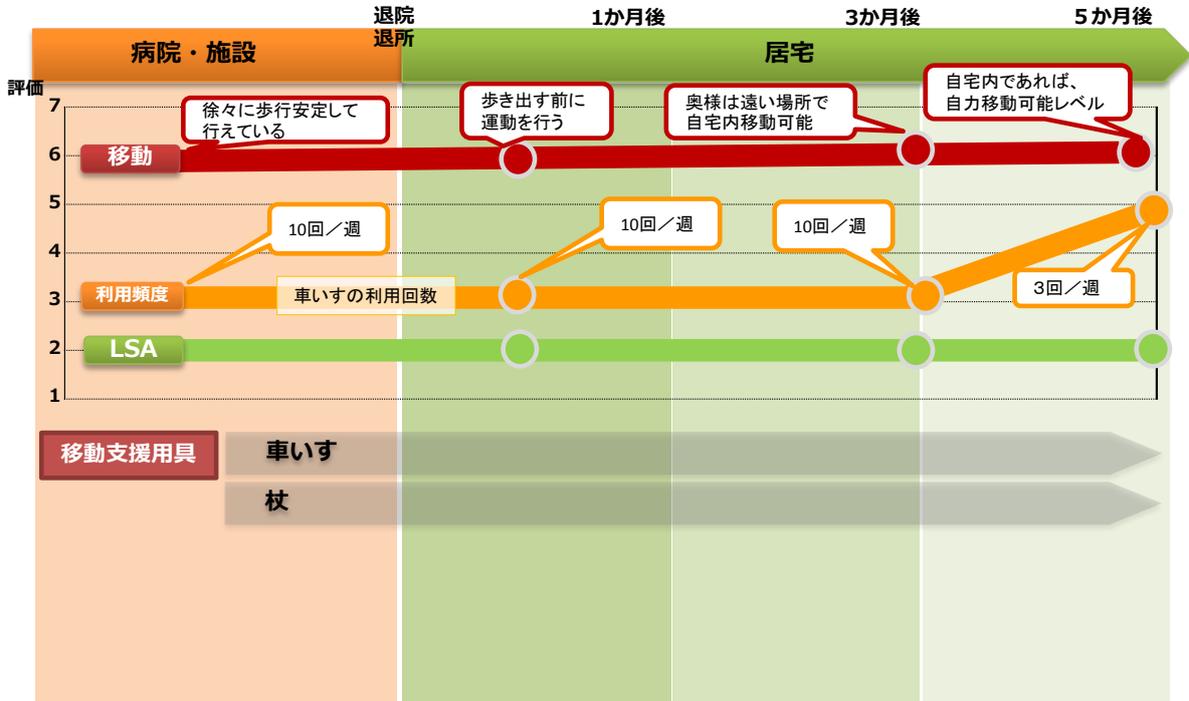
(2) 廃用性症候群対応

1) 機能向上が見られた事例

ID: 1-6	事例タイプ: 廃用性症候群	退院時の適切な起居・移動・入浴用具の使用により、生活機能が維持された事例
利用者情報: 66歳 女性 要介護1 左大腿骨転子部骨折、脳梗塞 左片麻痺		事例概要: 立位の安定性改善により、日中は手すり不使用で動作安定している



ID : 3 - 5	事例タイプ : 廃用症候群	大腿骨頸部骨折後の生活機能の変化に対応した移動用具の導入した事例
利用者情報 : 70歳 男性 要介護2 右大腿骨頸部骨折 /元々、左被殻出血で右片麻痺であり、歩行は杖を使用し見守りレベル	事例概要 : "徐々に安定した歩行が行えるようになり、3か月で家族の遠位監視で自宅内移動可能となった。5か月では、自宅内移動が自立した。"	



リハ専門職の関与

退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
訪問した職種	出席者	福祉用具利用に関する指導回数	福祉用具利用に関する指導時間	福祉用具に関する指導内容	その他の指導内容	連絡調整	
P T、介護福祉士・介護スタッフ、介護支援専門員	P T、看護師、MSW、介護支援専門員	1回 10分	5回 50分	杖を使用しての歩行練習	ADL、基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	福祉用具専門相談員	
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容						
自宅内の移動手段の確認。自宅外の階段昇降の確認	今後は通所リハでリハビリを継続し、歩行能力の維持を図る						

リハビリテーションの方針

<p>下肢筋力の維持向上を図り、杖歩行の安定ができるよう支援する。自宅内のベッドからトイレまでの距離が安定して歩行できる</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>苑内は移動距離が長い為、車いすを使用して頂き、リハビリで杖の練習を行って行く</p>	<p>・自宅内を安全に移動できるよう、杖歩行練習及び下肢筋力増強運動を中心にリハビリを行う</p> <p>・妻の介助量の軽減を図る</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>移動距離が長くなる場合は、車いすを使用し、自宅内などは杖を使用して安全に移動する</p>	<p>・自宅で安全に杖歩行を行えるよう、歩行練習及び指導を行っていく</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>杖を使用して、自宅内を安全に移動する</p>
--	---	--

ID : 3-13 事例タイプ : 廃用症候群 退院時の適切な起居・移動用具の使用により、退院後に起居・移動能力が向上した事例

利用者情報 : 69歳 男性 要介護4
左被殻出血
右不全麻痺、右感覚障害

事例概要 : ベッドからの起き上がりや立ち上がり、移乗、ベッド上での端座位バランスの安定が図られた。施設生活では軽介助であったが、自宅では6ヶ月後には、監視レベルまで改善した。



リハ専門職の関与

退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	
訪問した職種	出席者	福祉用具利用に関する指導回数 2回 60分	3回 120分	3回 120分	3回 120分	2回 60分	2回 60分	
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容	立ち上り移乗練習	立ち上り移乗練習	立ち上り移乗練習	立ち上り移乗練習	立ち上り移乗練習	
初回退所時に実施し、玄関の出入りの方法、W/C操作、移乗動作の指導を行った	ベッドからの立ち上がり、移乗の介助法の指導を妻に行う	その他の指導内容	ADL、基本動作、廃用予防・改善	ADL、基本動作、廃用予防・改善	ADL、基本動作、廃用予防・改善	ADL、基本動作、廃用予防・改善	ADL、基本動作、廃用予防・改善	
		連絡調整	← 介護支援専門員、福祉用具専門、相談員、家族 →					

リハビリテーションの方針

<ul style="list-style-type: none"> 下肢筋力の向上を図る 誤嚥を予防し、安全に食事を摂って頂く 在宅で妻による移乗や起き上がりの介助量を軽減できる 	<ul style="list-style-type: none"> 廃用性変化の予防、改善を図る 住環境の整備。妻の介護指導を通して介護負担軽減を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 廃用性変化の予防、改善を図る 住環境の整備。妻の介護指導を通して介護負担軽減を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 廃用性変化の予防、改善を図る 住環境の整備。妻の介護指導を通して介護負担軽減を目指す
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
起居動作、移乗動作の妻の介助量の軽減を図る	起居動作、移乗動作の安定性の改善 妻の介護負担の軽減		

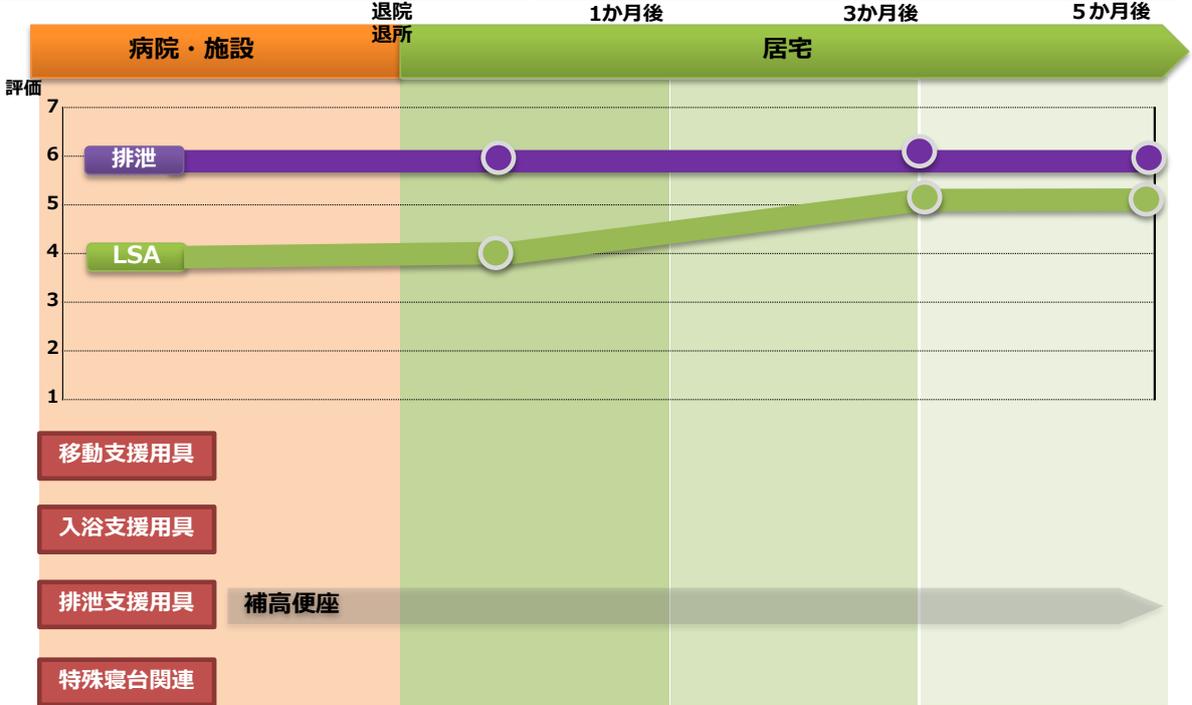
ID : 3-16

事例タイプ : 急性発症

歩行能力の向上を継続的に支援することにより車いすから歩行車に変更した事例

利用者情報 : 88歳 男性 要介護4
脳幹梗塞 / 車いす→歩行器併用へ。後方へのバランス不良。膝折れは軽減。排泄動作も手すり等使用で自力が可能

事例概要 : 移動手段は入所中に車椅子から歩行車へ移行。自宅内のトイレの手すりの高さ変更や補高便座を導入。退所後2ヵ月で立ち上がり安定、4ヵ月で夜間トイレでの自力での排泄が可能に。



リハ専門職の関与

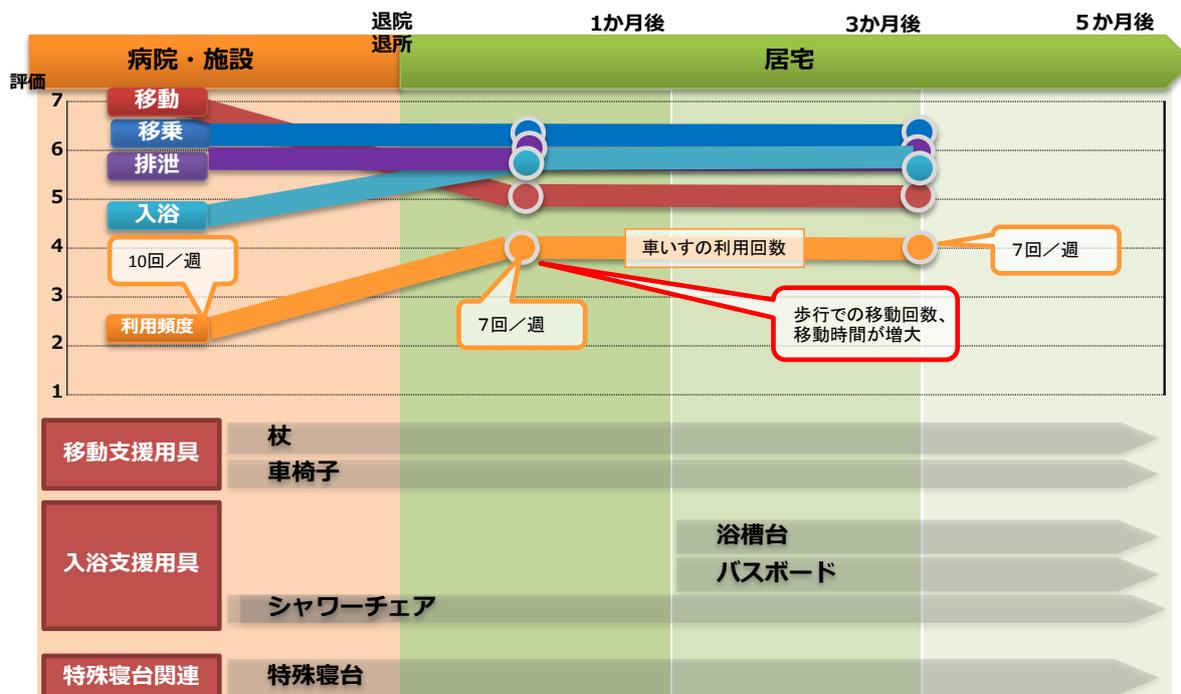
退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
訪問した職種 PT,MSW, 福祉用具事業者	出席者 医師OT,PT,看護師 MSW, 介護支援専門員	福祉用具利用に関する指導回数 5分	1回 5分	11回 30分	11回 30分	11回 20分	11回 20分
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容 トイレからの立ち上がり	福祉用具に関する指導内容 トイレ便座からの立ち上がり	福祉用具に関する指導内容 立ち上がりは安定してこられたので、トイレ内手すりを使用しているスポンの上げ下げ	福祉用具に関する指導内容 トイレ内手すりを使用しているスポンの上げ下げ	福祉用具に関する指導内容 トイレ内手すりを使用しているスポンの上げ下げ	福祉用具に関する指導内容 トイレ内手すりを使用しているスポンの上げ下げ
自宅内移動手段の確認、排泄動作の確認。福祉用具の選定。居室内のレイアウトの提案	自宅内は歩行器を使用し、トイレに手すり、補高便座の設置を行う。今後は通所リハを利用していただき、リハビリを継続させる	その他の指導内容 ADL, 基本動作, 廃用予防・改善・生活圏拡大	その他の指導内容 ADL, 基本動作, 廃用予防・改善・生活圏拡大	その他の指導内容 ADL, 基本動作, 廃用予防・改善・生活圏拡大	その他の指導内容 ADL, 基本動作, 廃用予防・改善・生活圏拡大	その他の指導内容 ADL, 基本動作, 廃用予防・改善・生活圏拡大	その他の指導内容 ADL, 基本動作, 廃用予防・改善・生活圏拡大
連絡調整	連絡調整	介護支援専門員, 福祉用具専門相談員, 他のサービス事業所, 家族	介護支援専門員, 福祉用具専門相談員, 家族	介護支援専門員, 福祉用具専門相談員, 家族	介護支援専門員, 福祉用具専門相談員, 家族	介護支援専門員, 福祉用具専門相談員, 家族	介護支援専門員, 福祉用具専門相談員, 家族

リハビリテーションの方針

<p>下肢筋力、バランス能力の向上を図り、安定した在宅生活を送れるようADL指導、環境調整を行う</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>補高便座で便座高を本人の身体寸法に合う高さにし、安定した立ち上がりを行う</p>	<p>バランス能力、筋力の向上を行い、安定したハッピーやSAWを使用した移動方法で生活を営み、IADL、ADL動作の指導、確認、アドバイスを行う</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>便座高と手すりを本人の身体状況に合わせて、安定した立ち上がり、スポンの上げ下ろし動作を行う</p>	<p>バランス能力、筋力の向上を行い、安定した移動手段（ハッピー or SAW）で家内や外出が出来るようにする。夜間のトイレまでの移動を安</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>補高便座の高さや手すりの設置がしっかり身体状況に合っているか？</p>	<p>バランス能力、筋力、動作指導を行い、ADL、IADL動作の安定を図り、転倒のない生活を安全に行う</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>夜間のトイレ動作も手すりや便座高が合って動作が行えているか</p>
--	---	--	--

2) 生活や活動が向上した事例

ID : 1-7	事例タイプ : 廃用症候群	退院後の生活を開始した後に移動、入浴用具等を導入することで生活機能が維持された事例
利用者情報 : 64歳 女性 要介護2 右大腿骨頸部骨折 右片麻痺、四肢体幹筋力低下、高次脳機能障害(失語)		事例概要 : 退院後、訪問リハによる福祉用具追加。現在までADL/機能レベルともに維持できている。



リハ専門職の関与

退院前訪問	退院時カンファレンス	福祉用具利用に関する指導回数	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
訪問した職種	出席者	福祉用具利用に関する指導回数	90分	2回 90分	5回 225分	3回 135分		
OT,PT, 介護支援専門員	医師、OT,PT, 看護師、MSW	福祉用具に関する指導内容	歩行訓練、立ち座りの際の杖の置き場所などの扱い、床からの立ち座り、不慣れな場所での靴の着脱	車いすを外して杖での歩行や段差昇降、立ち上がりなど	置き型手すりの使用を含む床からの立ち上がり動作訓練、段差スロープ撤去時の段差昇降訓練	床からの立ち上がり、トイレ、またはT-cane歩行での洗面動作、前後の準備や片付けなど、入浴動作の確認		
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	その他の指導内容	ADL, 基本動作, 廃用予防・改善, 福祉用具	ADL, 基本動作, 廃用予防・改善, 生活圏拡大	ADL, IADL, 基本動作, 廃用予防・改善, 生活圏拡大	ADL, 基本動作, 廃用予防・改善, 生活圏拡大		
自宅内でユニボイス杖、装具を使用した歩行での移動、ADL動作の確認、指導、家屋調整案、家族指導の実施	PT: 階段はユニボイス杖使用し見守り、歩行はフリーハンドで見守りレベル、20cm段差は軽介助レベル OT: 入浴は手すり、バスボード使用し見守り、片手動作で自助具の検討	連絡調整	介護支援専門員	介護支援専門員, 家族	介護支援専門員, 福祉用具専門相談員, 家族			

リハビリテーションの方針

7月: 歩行の安定化 8月: 歩行の安定化 9月: 歩行の安定化、歩行距離の延長、自宅での歩行獲得	日中、自宅内でのADLを車いすなしで(杖歩行)で行っていく	福祉用具利用の目標 立位でできる家事を増やすことができる。日中、リビングからトイレや台所への移動を杖歩行できる。転倒なく移動や外出が継続できる。楽に起き上がり、立ち上がりができる。介護者の負担なく入浴できる。
福祉用具利用の目標 受傷前は自宅内終日、車いす移動の生活だったが、杖と装具使用し、自宅内歩行、ADL修正自立、また屋外出入りは軽介助で歩行移動を目標とした	福祉用具利用の目標 転倒なく移動や外出が継続できる。楽に起き上がりや立ち上がりができる。介護者の負担なく入浴できる	

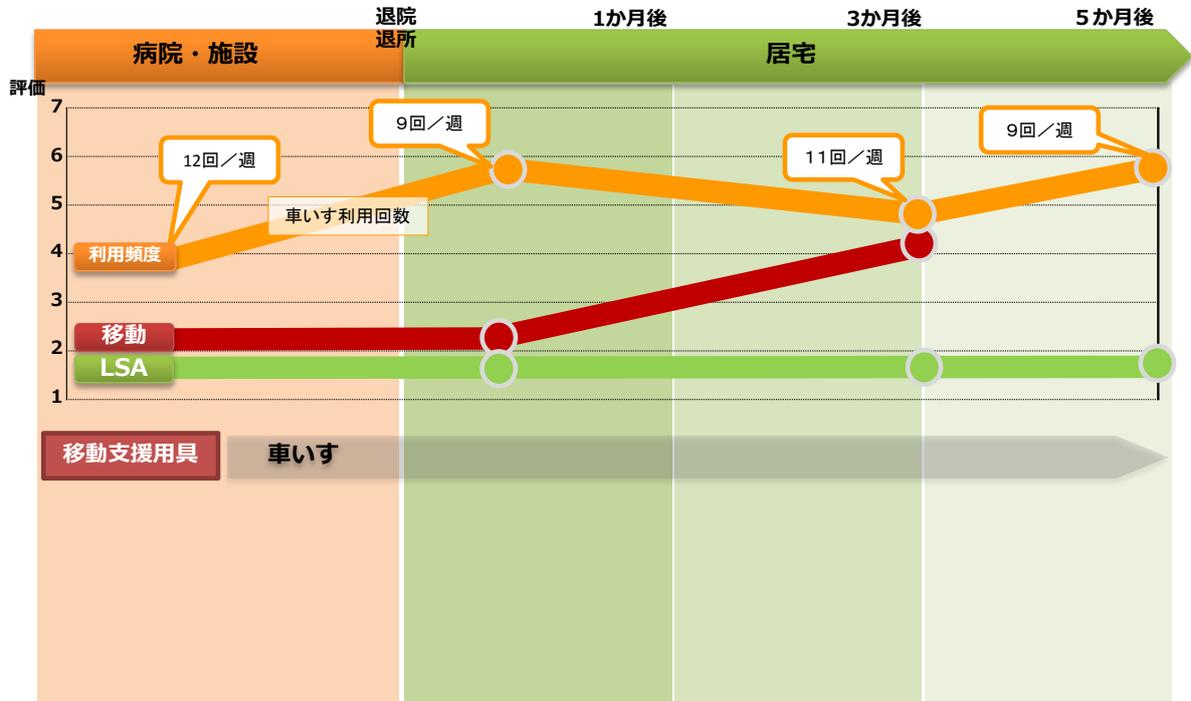
ID : 3 - 6

事例タイプ : 廃用症候群

脳卒中により歩行困難な方に対し、車いすでの生活を支援した事例

利用者情報 : 87歳 女性 要介護2
脳出血 / S62.9月脳出血発症し、病院入院し
リハビリを行い、退院後通所リハビリを利用中

事例概要 : 退所後、車いすの利用時間は増加し、3ヶ月ではFIMの7段階評価で最大介助(2点)から中等度介助(3点)となり、駆動可能距離が拡大した。



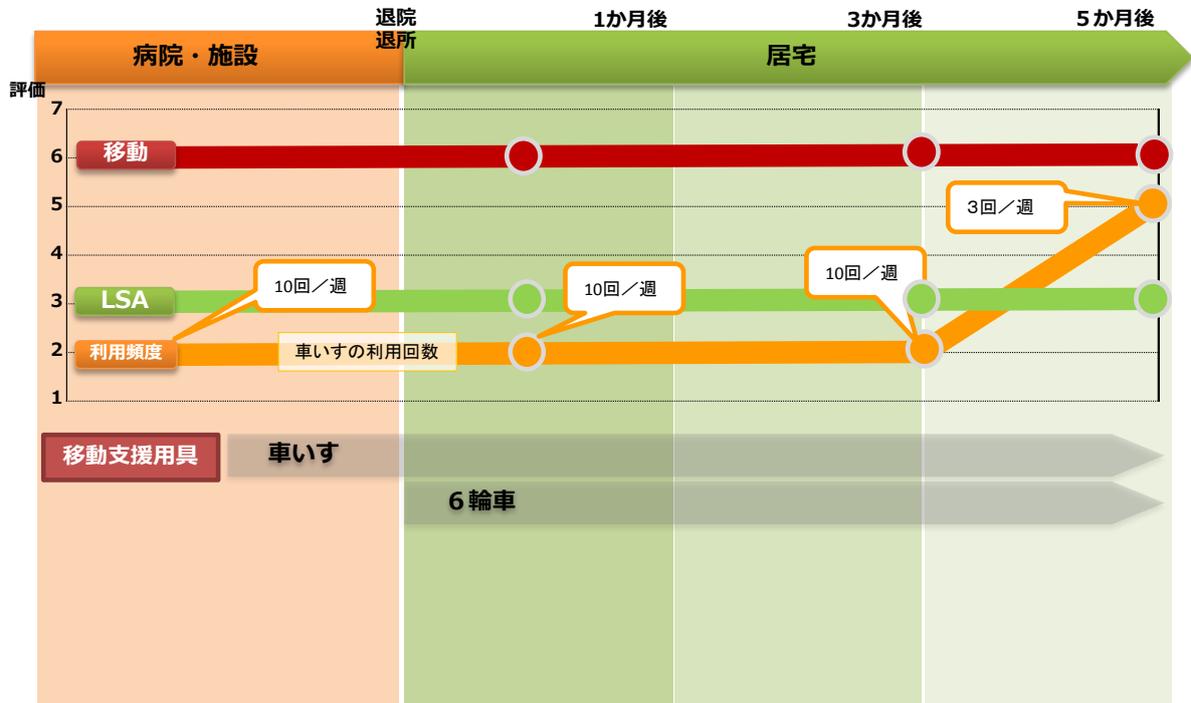
リハ専門職の関与

退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
訪問した職種	出席者	福祉用具利用に関する指導回数	福祉用具利用に関する指導時間	福祉用具に関する指導内容	その他の指導内容	連絡調整	
	医師、OT、PT、看護師、MSW、介護福祉士・介護スタッフ	5回 20分	7回 20分	7回 10分	7回 10分	8回 10分	
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	基本動作	基本動作	基本動作	基本動作	基本動作	基本動作
	・移動は車いすにて行い、出来る限り自走していただく ・介護者の負担軽減のためにも定期的の利用をすすめる						

リハビリテーションの方針

筋力を維持しながら、転倒せず安全に苑生活が送れるよう支援する ・在宅で、これまでのようなADLが維持できるよう支援する	・筋力を維持しながら、現在の在宅生活が送れるよう支援を行う ・在宅生活でADLの維持が図れる
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
安全に移動する為	安全に移動する

ID : 3 - 9	事例タイプ : 廃用症候群	適切な車いすにより姿勢が安定し、セルフケアが自立した事例
利用者情報 : 86歳 女性 要介護2 右大腿骨頸部骨折 / 元々、左被殻出血で右片麻痺、歩行は4点杖を使用し見守りレベル		事例概要 : 身体寸法を測り、足駆動と脊柱の変形を考慮した上で車椅子の選定、シーティングを行った。狭い所での駆動も安定し、異なる環境下でもセルフケアが自立して実施可能となった。



		リハ専門職の関与					
退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
訪問した職種	出席者	福祉用具利用者に関する指導回数 指導時間					
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容					
		その他の指導内容					
		連絡調整					

リハビリテーションの方針			
<ul style="list-style-type: none"> 身体機能の維持を回り、日常生活動作の維持が図れるよう支援する 在宅で安全に身の回り動作が行える 	<ul style="list-style-type: none"> 移乗、移動が安全に出来る 排泄や更衣などの身の回り動作が自力で出来るよう支援する 	<ul style="list-style-type: none"> 移乗、移動が安全に出来る 在宅で安全に身の回り動作が行える 	<ul style="list-style-type: none"> 移乗、移動が安全に出来る 排泄や更衣などの身の回り動作が自力で出来るよう支援する
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
身体寸法に合う車いすを提供し、日常生活に支障をきたさない環境設定を行う	身体に合った車いすの選定	身体に合った車いすの選定	

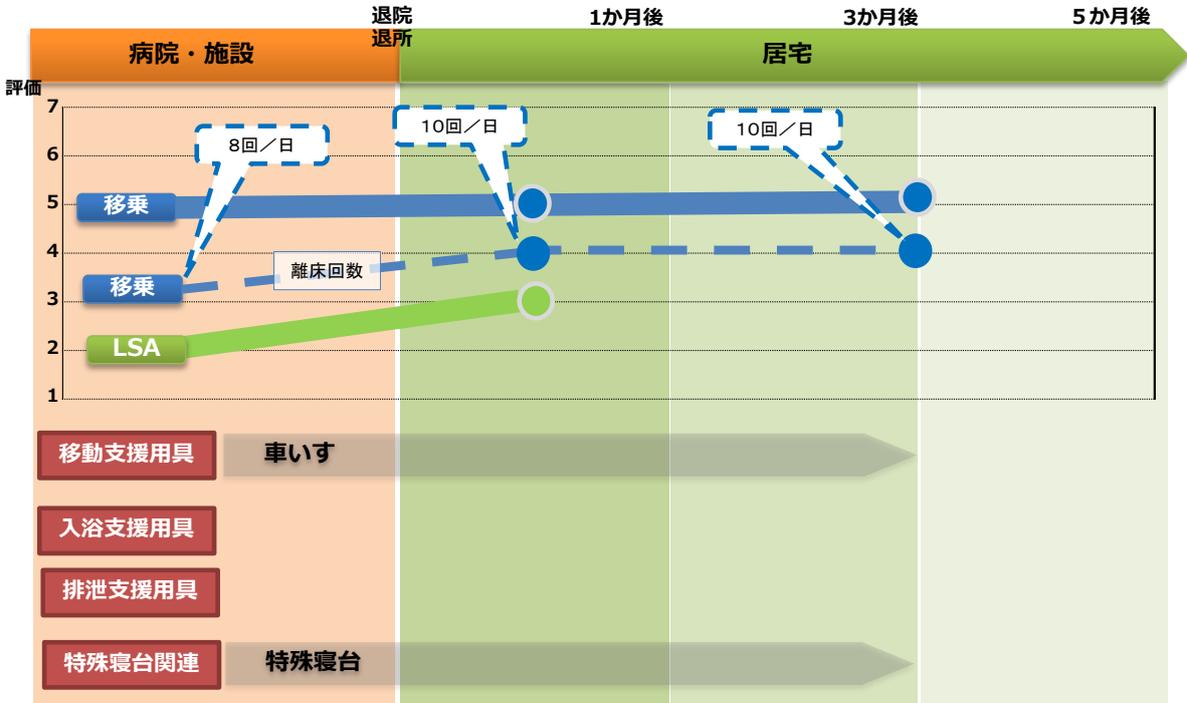
ID : 3-11

事例タイプ：廃用症候群

認知症の方に対して特殊寝台の高さを調整することで起居・移動が改善した事例

利用者情報：92歳 女性 要介護2
 洞機能不全症候群、アルツハイマー型認知症 /車いす。歩行は平行
 枠内で練習のみ。通所リハビリ、ショートステイ、ロングステイ利用。

事例概要：ベッド高さを調整することで安定して立ち上がり、移乗動作が可能となり、介護負担も減った。それにより、離床回数が増加し、ベッド上にいる時間は減り、車椅子上で過ごすことが増えた。



リハビリ専門職の関与		2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
退院前訪問	退院時カンファレンス						
訪問した職種	出席者						
	医師、OT、PT、 看護師、MSW、 介護福祉士・ 介護スタッフ						
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容						
	・起き上がり、立ち上がりを安全に行うため電動ベッドを導入する ・心身機能維持の為、定期的にショートステイを利用する						
		福祉用具利用に関する指導回数 5回 指導時間 2分	福祉用具利用に関する指導回数 11回 指導時間 2分	福祉用具利用に関する指導回数 10回 指導時間 2分			
		福祉用具に関する指導内容 ベッドからの立ち上がり、移乗	福祉用具に関する指導内容 ベッドからの立ち上がり、移乗	福祉用具に関する指導内容 ベッドからの立ち上がり、移乗			
		その他の指導内容 ADL、基本動作、 廃用予防・改善、 生活圏拡大	その他の指導内容 ADL、基本動作、 廃用予防・改善、 生活圏拡大	その他の指導内容 ADL、基本動作、 廃用予防・改善、 生活圏拡大			
		連絡調整 介護支援専門員	連絡調整 介護支援専門員	連絡調整 介護支援専門員			

リハビリテーションの方針	
<ul style="list-style-type: none"> セルフケアを中心に自分でできる部分の機能維持ができるよう支援する 在宅生活で、安全に身の回り動作ができる 	現在の身体機能を維持し、在宅生活を継続するための支援を行う。移乗動作能力を維持し、家族との外出が継続できるようにリハビリを行う
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
<ul style="list-style-type: none"> 安全に離床する為 介護負担軽減の為 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に離床する為 介護負担軽減の為

ID : 3-14	事例タイプ : 廃用症候群	重度の介護を要する左片麻痺者に対し、起居・移動動作を支援した事例
利用者情報 : 67歳 女性 要介護4 心原性脳塞栓 左片麻痺 ・ 感覚障害 (左) あり	事例概要 : ベッドからの起き上がりは自立、移乗動作が転倒無く継続できている。	



退院前訪問		退院時カンファレンス		リハ専門職の関与						
訪問した職種	出席者	福祉用具利用に関する指導回数	指導時間	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	
		5分	5分	5分	5分	11回 22分	11回 22分	11回 22分	10回 20分	
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容		ベッドからの起き上がり		W/C駆動時の姿勢の確認	ベッドとW/C間の移乗動作の確認		W/Cとベッド間の移乗動作の確認	
		その他の指導内容		ADL, 基本動作, 廃用予防・改善	ADL, 基本動作, 廃用予防・改善	ADL, 基本動作	ADL, 基本動作	ADL, 基本動作	ADL, 基本動作	
		連絡調整		介護支援専門員	介護支援専門員		介護支援専門員	介護支援専門員	介護支援専門員	

リハビリテーションの方針	
<ul style="list-style-type: none"> 心身機能の維持を図る 楽しみ活動の提案を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 心身機能の維持を図る 楽しみ活動の提案を行う 在宅での基本動作やADLが軽介助にて行える
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
自力で起き上がり、立ち上がり動作ができ、介助して移乗することができる	自力で起き上がり、立ち上がり動作ができ、介助にて移乗することができる

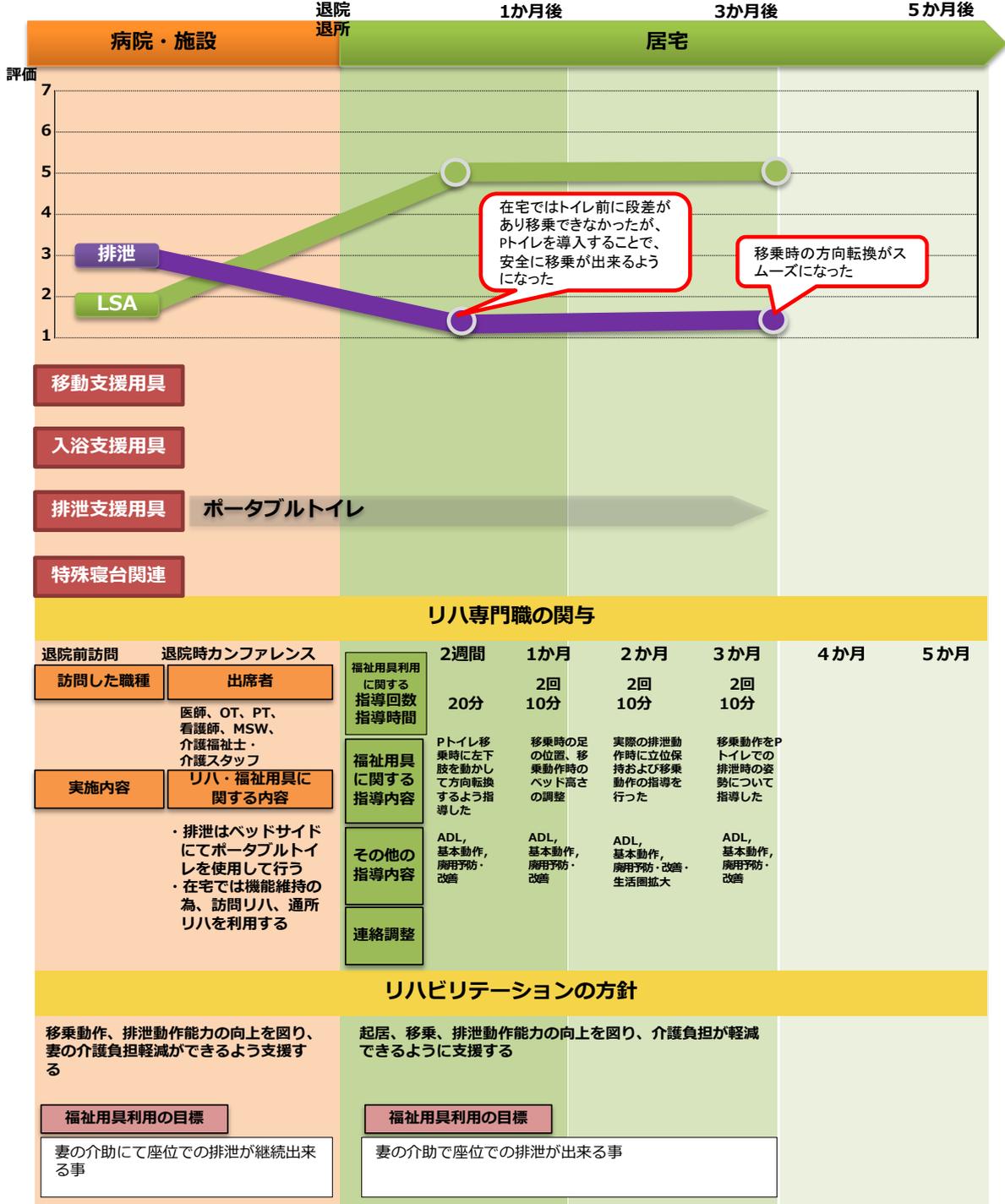
ID : 3-15	事例タイプ：廃用症候群	すくみ足等の移動障害のある方及び家族に対し、安全で介護負担の少ない生活を支援した事例
利用者情報：81歳 女性 要介護2 パーキンソニズム /すくみ足が頻繁。転倒もある。入浴後は特に見られるため車いすを使用		便座前での方向転換が不安定だったが、トイレフレームを導入し、転倒等のリスクが軽減。入所や通所でも自宅を想定した声掛けを行い、介助量の軽減に繋がった。



退院前訪問		退院時カンファレンス		リハ専門職の関与						
訪問した職種	出席者	福祉用具利用に関する指導回数	指導時間	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	
		50分	50分	5回	11回	11回	40分			
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容	歩行車を使用する時に、体幹を歩行車に近づけて歩行する指導	歩行器に、体幹を近づけて歩行する指導	歩行器に、体幹を近づけて歩行する指導	歩行器に、体幹を近づけて歩行する指導	歩行器に、体幹を近づけて歩行する指導			
		その他の指導内容	基本動作 廃用予防・改善	基本動作 廃用予防・改善	基本動作 廃用予防・改善	基本動作 廃用予防・改善	基本動作 廃用予防・改善			
		連絡調整	他のサービス 事業所、家族	他のサービス 事業所、家族	他のサービス 事業所、家族	他のサービス 事業所、家族	他のサービス 事業所、家族			

リハビリテーションの方針		
移動能力が低下することなく、転倒に注意した安全な生活を送れるよう支援する。在宅でも安定した排泄動作ができるよう指導する	移動能力が低下することなく、転倒に注意した安全な生活を送れるよう支援する。在宅でも安定した排泄動作ができるよう指導する	
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
移動は歩行器を使用し、転倒しないよう注意する。日中はトイレ、夜間はポータブルトイレを使用し、介助なしでも安定して排泄できるよう支援する。在宅では自力で行うので、入所中は見守りで行う	移動は歩行器を使用し、転倒しないよう注意する。日中はトイレ、夜間はポータブルトイレを使用し、介助なしでも安定して排泄できるよう支援する。	移動は歩行器を使用し、転倒しないよう注意する

ID : 3-17	事例タイプ：廃用症候群	遷延性の回復を呈した脳卒中者に対して、生活機能の向上を支援した事例
利用者情報：56歳 男性 要介護5 脳皮質下出血、もやもや病、脳出血 脳出血にて開頭血腫除去術施行。脳出血診断にて保存的治療	本人、妻ともに3ヶ月後に、FIMが2から3に改善し、妻の介護負担は軽減した。生活圏も拡大し、車いす介助で近所のコンビニまで外出が可能となった。	



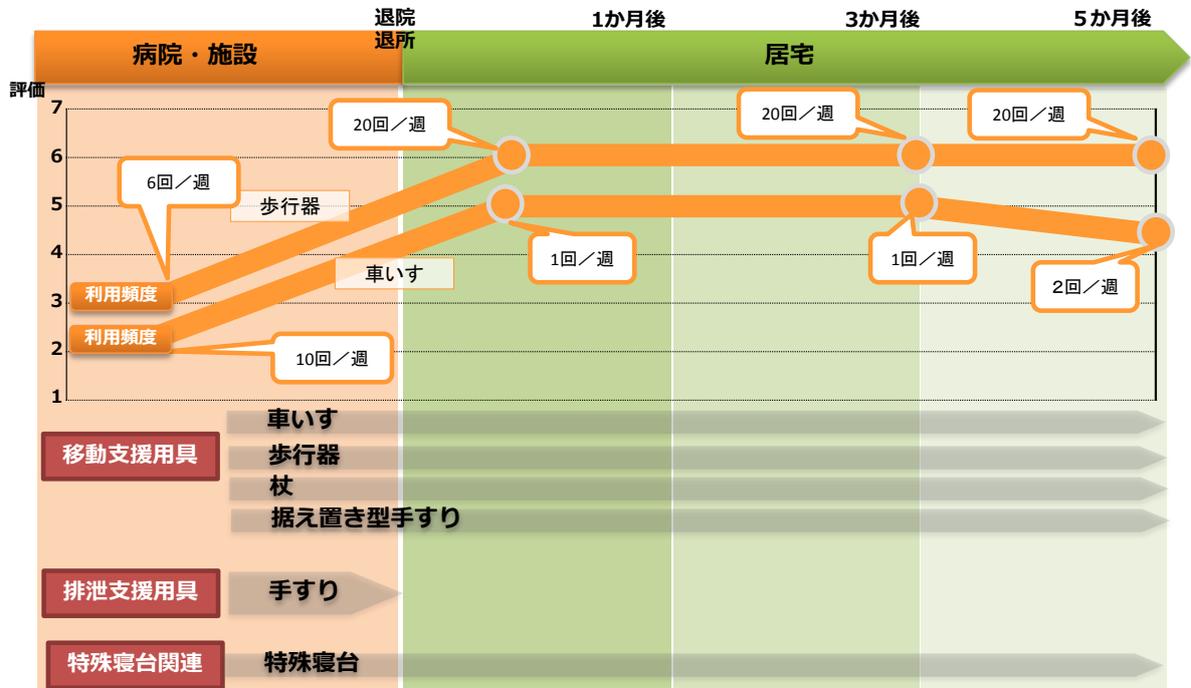
ID : 4 - 15

事例タイプ：廃用症候群

転倒リスクが高い方に対して環境設定により、日中の独居を支援した事例

利用者情報：68歳 女性 要介護3
脳梗塞
左片麻痺、歩行障害、構音障害、高次脳機能障害

事例概要：屋外では、段差を4点杖を2本使用し、段差以外を車イスで対応。自宅の広さに合わせた歩行器を導入し、安全な移動を獲得し独居生活を維持している



リハ専門職の関与

退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
訪問した職種	出席者	福祉用具利用に関する指導回数 2回 40分	2回 30分	4回 80分	5回 60分	4回 40分	4回 80分
P T、看護師	医師、OT、P T、ST、看護師、MSW、介護福祉士・介護スタッフ	福祉用具に関する指導内容 ベッドでの起き上がり、立ち上がり、歩行器歩行、玄関段差移動（四脚杖）	歩行器歩行、玄関段差昇降	歩行器歩行、玄関段差昇降、ハット上起居動作	歩行器歩行、玄関段差	歩行器歩行、ベッドからの立ち上がり	玄関段差、歩行器歩行
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	その他の指導内容 基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大	基本動作、廃用予防・改善、生活圏拡大
自宅環境の変更 本人の移動確認 住宅改修検討	デイケア、訪問リハを4回/週 利用。福祉用具：四脚杖、歩行器、タッチアップ	連絡調整 家族		サービス会議		介護支援相談員	介護支援相談員

リハビリテーションの方針

移動面に関して、夜間、装具を使わずに安全に移動できる。方向転換や物持ち歩行が安全に出来る。動作時、転倒せず過ごすことができる。健康管理面に関して、食事に関する注意点が理解でき、退院の準備が出来る

福祉用具利用の目標

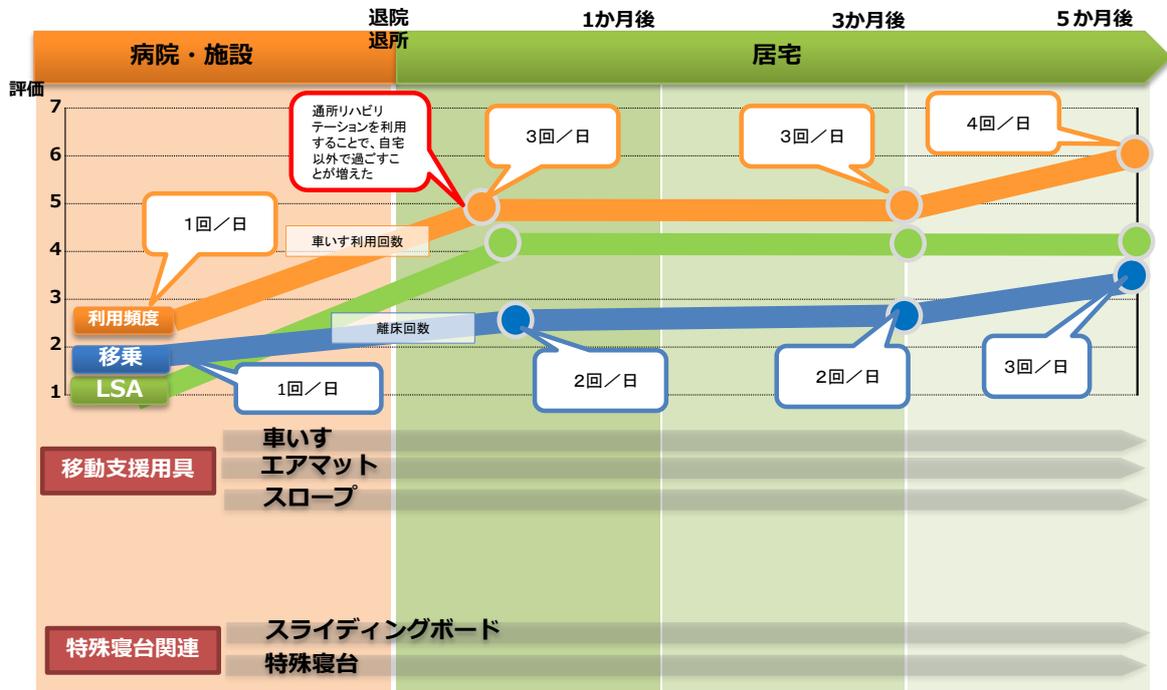
- ・ベッドからの立ち上がりを「たっちあっぷ」を使用し安全に立つことが出来る
- ・移動は小回りがきく、小さめのサイズの歩行器を使用し、移動自立を目指す
- ・屋外（短距離）では、4点杖を2本使用し歩行できる

デイサービスやヘルパーを利用しながら自宅で生活する

福祉用具利用の目標

- ・自宅内ではベッドからの立ち上がりを、たっちあっぷを使用し安全に行える
- ・また、移動は小回りがきく、小さめサイズの歩行器を利用し自立を目指す
- ・屋外（短距離）では、4点杖を2本使用し歩行が出来る

ID : 6 - 1	事例タイプ : 廃用症候群	重度心疾患でも家族が安心して外出介助できるようになった事例
利用者情報 : 84歳 女性 要介護3 脳梗塞 右片麻痺、高次脳機能障害、構音障害	事例概要 : 起立性低血圧。特殊寝台を利用し血圧の状況に合わせてギャジアップが可能。ベッドの高さ調整や、スライディングボードにより本人・家族へ負担なく安全に車椅子へ移乗可能。通所サービスの利用が出来る。	



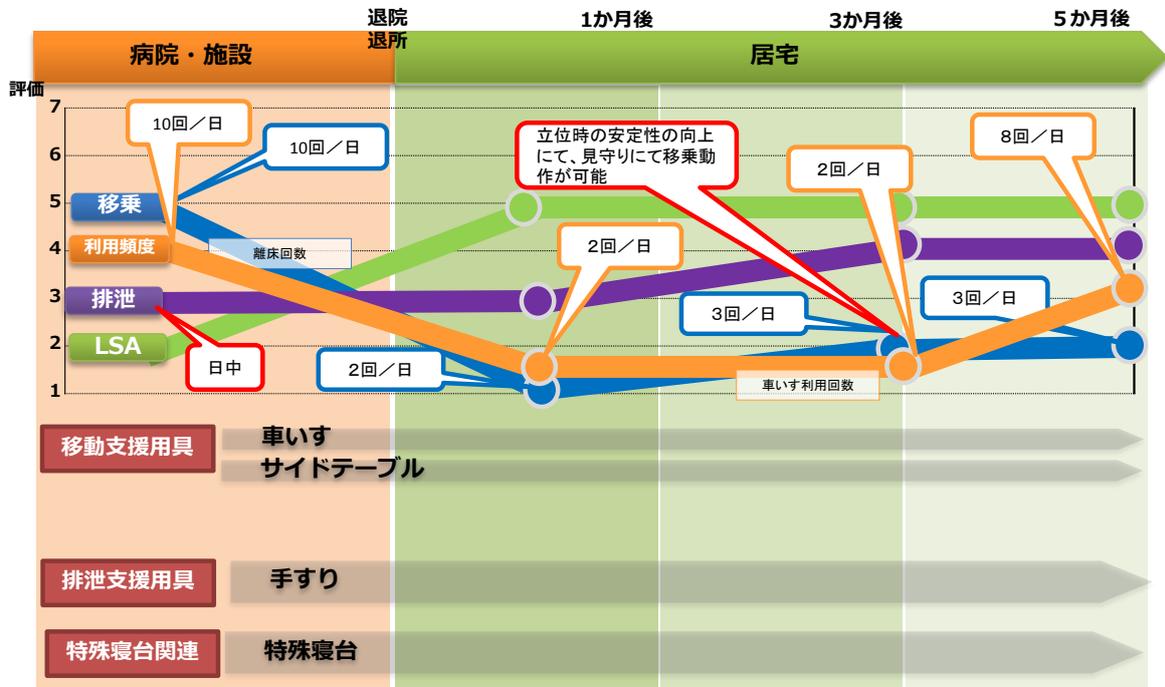
リハ専門職の関与		リハ専門職の関与						
退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	
訪問した職種 OT、MSW、介護支援専門員	出席者 OT、ST、MSW、介護福祉士、介護スタッフ、福祉用具事業者、介護支援専門員、	福祉用具利用に関する指導回数 指導時間	回数					
実施内容 自宅の環境（上り框の高さ、寝室、廊下幅の長さ）を確認	リハ・福祉用具に関する内容 "リハ：車いす乗車の耐久性向上 ・関節可動域の維持 福祉用具：評価中の福祉用具をご家族も安全に使用出来ている為、退院後も使用していく"	福祉用具に関する指導内容	他の指導内容 廃用予防・改善	廃用予防・改善	廃用予防・改善	廃用予防・改善	廃用予防・改善	
		連絡調整	介護支援専門員、他のサービス事業者、家族、福祉用具事業者			家族	家族	

リハビリテーションの方針		
<ul style="list-style-type: none"> 車いすに安全に乗車する事が出来る 家族による移乗動作方法の獲得と福祉用具の手技を獲得する 	<ul style="list-style-type: none"> 車いす乗車の体力の向上を図る 表在感覚の入力を行い、痛みの軽減を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 車いすに安全に乗車する事が出来る 家族による移乗動作方法の獲得と福祉用具の手技を獲得する
福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標	福祉用具利用の目標
<ul style="list-style-type: none"> 車いすに乗車する機会を得る事で、廃用症候群の予防や刺激のある環境で過ごす 移乗の際に、ご本人が安心・安全に、かつ介護者が無理なく行なう事が出来る 褥瘡等の皮膚トラブルなく、ベッドで過ごすことが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ご家族による介護が負担なく行え、在宅介護が継続して行なう事が出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ご家族による介護が負担なく行え、在宅介護が継続して行なう事が出来る

ID: 6-2 事例タイプ: 廃用症候群 介助力が乏しい末期がん患者の進行や痛みに対応し居宅生活維持を支援した事例

利用者情報: 83歳 男性 要介護4
 右慢性硬膜下血腫、肺癌
 下肢筋力低下、歩行障害

事例概要: 下肢筋力低下。車椅子を使用することで安全な移動が可能に。スロープの導入で屋外への移動が容易となり、通所サービスの利用が可能に。生活範囲が広がるとともに介護負担の軽減につながった。



リハ専門職の関与

退院前訪問	退院時カンファレンス	2週間	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月
訪問した職種	出席者	福祉用具利用に関する指導回数 指導時間		10回 50分	1回 10分		
実施内容	リハ・福祉用具に関する内容	福祉用具に関する指導内容	ADL、 廃用予防・改善	ADL、 基本動作、 廃用予防・改善	ADL、 基本動作、 廃用予防・改善	基本動作、 廃用予防・改善	基本動作、 廃用予防・改善
	自宅ですぐに安全に過ごして介護負担を減らすために、ベッド、車いすの導入が必要	その他の指導内容					
		連絡調整	介護支援 専門員	介護支援 専門員、 家族	家族	介護支援 専門員	

リハビリテーションの方針

<p>移乗動作の安定性向上</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>移乗動作時の下肢の踏み返し不十分である為、本人の身体機能に合わせた車いすの選定。起居動作時にベッド柵使用すれば介助なく可能である為、ベッド周囲の環境調整を行い、介助量の軽減を図る</p>	<p>自宅ですぐに転倒なく過ごすことが出来る。全身の筋力低下があるため筋力の向上を図り、移乗動作の安定向上を図る</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>家族の介助の下、転倒なく自宅で安全に生活できるように、身体機能の向上を図り痛みを緩和を図る</p>	<p>下肢・体幹筋力の向上を図り、移乗動作の安定向上を目指す</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>下肢（腰痛）の軽減を図る</p>	<p>移乗動作能力の向上（身体機能面・車いすとのベッドの距離感）</p> <p>福祉用具利用の目標</p> <p>疼痛（大腿部）の軽減</p>
---	--	---	---

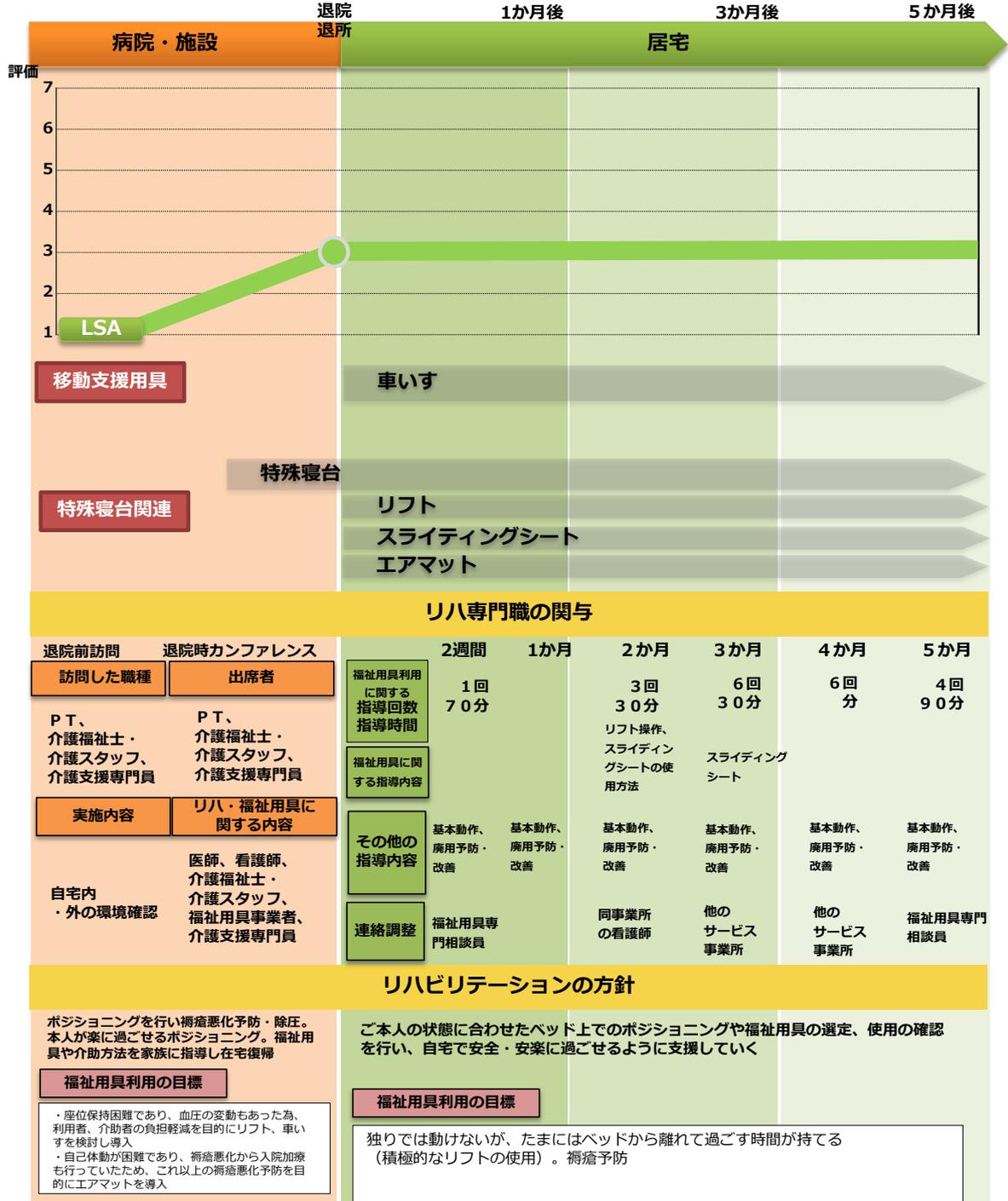
ID : 6 - 3

事例タイプ : 廃用症候群

生活機能の低下に応じて本人、家族への心理的配慮を行いつつ福祉用具の適応を行った事例

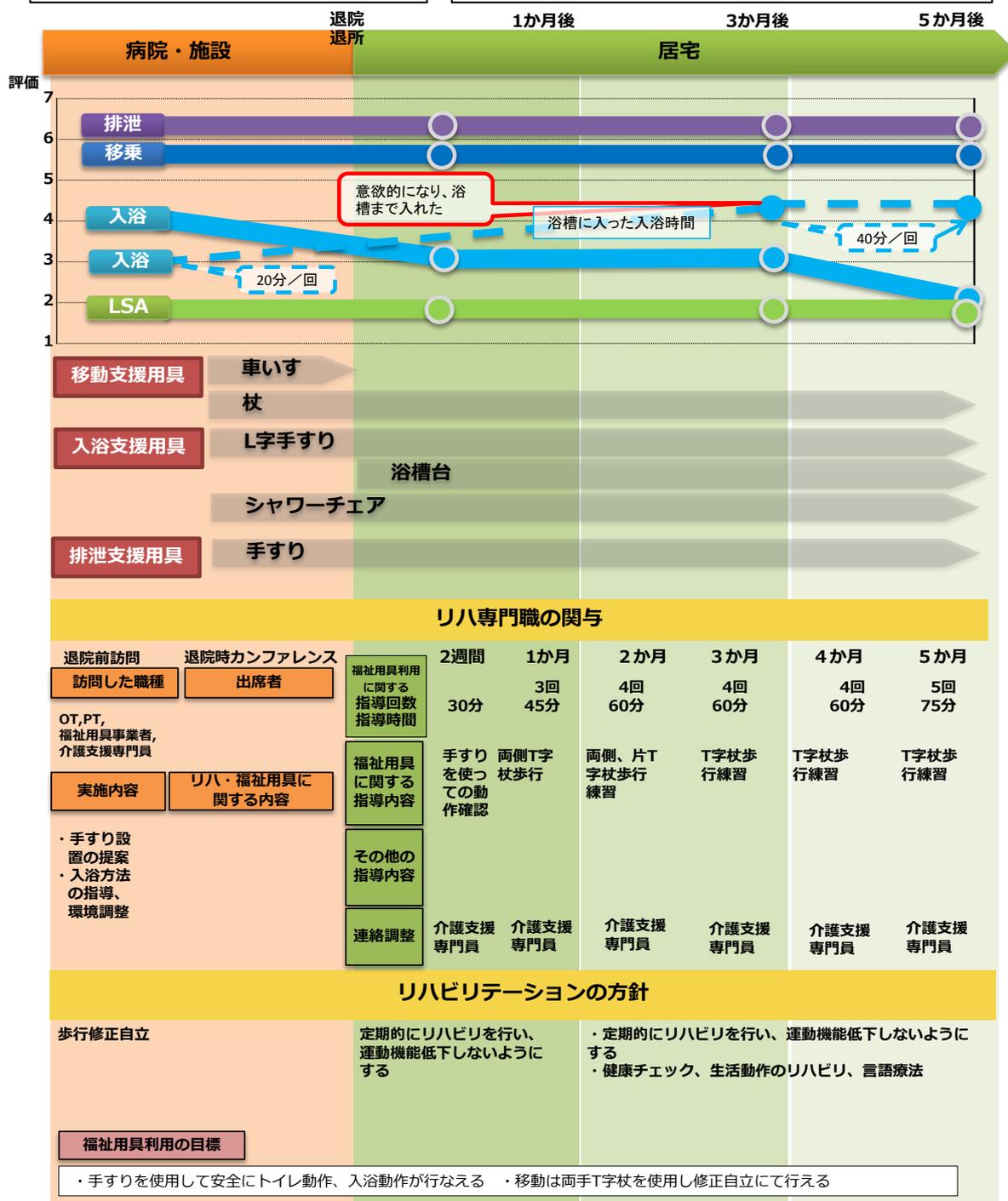
利用者情報 : 76歳 女性 要介護5
H21 多系統委縮症 H25 胃瘻増設、褥瘡
拘縮、筋力低下、失調、摂食嚥下障害、排尿障害

事例概要 : "家族のリフトに対する抵抗感がなくなり、経管栄養時、余暇時に車椅子移乗することが可能となり、活気があがり発語も増えている。離床したい時に離床でき、QOLの向上に繋がった。



3) 介護の不安、負担が軽減された事例

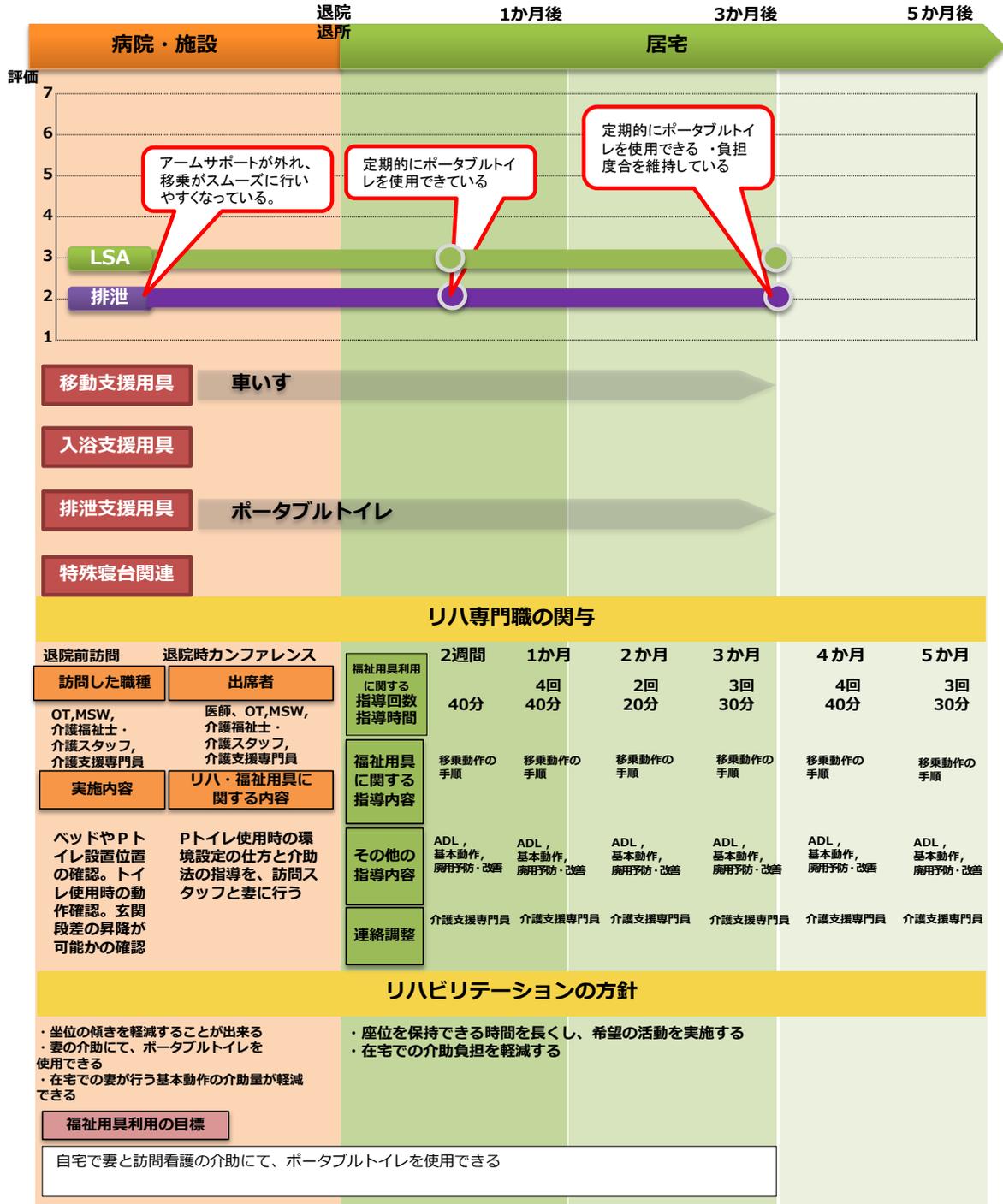
ID: 1-5	事例タイプ: 廃用症候群	大腿骨骨折後の生活機能低下に応じて、用具を活用した事例
利用者情報: 61歳 女性 要介護2 右大腿骨頸部骨折 右下肢筋力低下		事例概要: ADL自立度は変化ないが、入院時よりも活動量の低下が見られる。



ID : 3-18 事例タイプ : 廃用症候群 平衡機能障害、四肢の拘縮変形のある重度要介護者の妻に対して、介助負担の軽減を支援した事例

利用者情報 : 82歳 男性 要介護5
パーキンソン病 姿勢のバランス障害・
四肢の拘縮・著明なジスキネジア

事例概要 : ベッド臥床時からの排便に訪問看護を利用し、妻の介護負担軽減を図るとともに、Pトイレを使用し歩行介助を不要とすることでさらに妻の介護負担の軽減を図った。



4. シームレス利用モデルをより効果的なものとする方策の検討

収集した事例を総括し、シームレス利用モデル事例の活用について考え方をまとめた。あわせて、シームレス利用モデルをより有効に機能させる方策について検討した。

4-1. 収集事例のまとめ

今回整理した 37 事例のうち半数以上は何らかの機能向上が確認されている。また、機能向上が確認できなかった事例においてもほとんどの事例で生活や活動の自立、活動範囲の拡大が把握されている。福祉用具のシームレスな利用により得られる効果の大きさを示す事例が集められたと考えられる。

また、個々の事例情報を見ると、リハ専門職が個別の状況を把握しつつ支援の目標設定を行い、それに応じた継続的な支援を行っている状況も把握できる。こうした専門職による知識とノウハウの提供がこうした成果につながっていることも確認しておきたい。

今回収集した事例はいずれも、医療機関、介護施設、居宅の間での利用者の移動をフォローし、リハビリテーションの観点から日常生活の自立に向けた支援を継続的に行っている施設グループでの対応事例であり、一般的な医療機関、高齢者施設よりも施設から居宅への環境変化に際してもサービス連携は取りやすく、福祉用具のシームレスな利用も実施しやすい環境であったと考えられる。その意味では、福祉用具の継続的な利用に関して最適な条件が整った場合に、どこまでの効果が得られるのかを示す事例集になっており、福祉用具を用いた支援を考える際の目標設定の参考、あるいは支援体制整備の参考としても活用されることを期待するものである。

4-2. シームレス利用モデルに関する検討

今回収集された事例から、福祉用具のシームレスな利用を円滑に進めるための留意ポイントを整理しておく。

<留意ポイント>

- ・リハ専門職主導によりシームレス利用を担保する仕組み、体制

利用事例のそれぞれの状況をリハ専門職が継続的に把握し、状態、状況の変化があれば適切に対応できる体制を整えておくことが重要となる。福祉用具の交換なども視野に入れて柔軟に対応できるよう、日頃からのサービス連携のネットワークづくりがポイントとなる。

- ・利用効果を確認し次の利用場面に継承する仕組み、体制

環境が変わることによって担当するリハ専門職が交代することも想定される。それを前提に、引き継ぐべき情報を整理することが重要である。これに関してはリハビリテーション計画書あるいはリハビリテーションの訪問記録などを有効に活用することがポイントとなる。定型的な記録項目だけでなく、利用者の生活状態全体に関する情報の共有が重要である。

- ・リハ専門職と介護支援専門員の連携と調整のあり方

居宅に戻った利用者の介護全般に目配りし、必要な介護サービスを組み立てるのが介護支援専門員であることから、福祉用具のシームレスな利用についても、介護支援専門員の理解を得ることがポイントとなる。継続的なコミュニケーションを維持しておくことで、利用者のケアの目標など基本的な方針と福祉用具利用の意義、目的の理解を得ておくことが重要である。

- ・関係機関、関与する職種間での効率的な情報共有システム

多職種連携で対応する体制では、職種間での情報共有が不可欠である。今日ではネットワークシステムの利用が一般的になっており、それを活用した情報共有システムも一般化しつつある。福祉用具利用に関してもそうした情報システムに乗せて、効率的な情報共有システムを活用することがポイントとなる。

参考資料

<調査票>

- ・利用者状態調査票（初回記録分まで）
- ・リハ専門職調査票（退院、退所後1ヶ月の記録分まで）

利用者状態調査票

利用者 ID :

【利用者基本情報】 ※2 回目以降の記録では省略可

利用者の基本情報				
フリガナ		性別	生年月日	年齢
ご本人氏名	様	男・女	M・T・S 年 月 日	歳
入院・入所日	西暦 年 月 日	退院・退所日	西暦 年 月 日	
疾患名				
障害の状態				
入院前の住居	1. 自宅 2. 施設（介護老人福祉施設・認知症対応型グループホーム・有料老人ホーム・その他） 3. 病院（急性期・亜急性期・回復期・慢性期）			
入院歴	1. 初回 2. 入院歴あり()回め			

退院前の記録	作成者	
	作成日	月 日
	退院(予定)日	月 日

1. 身体状況								
身長	cm		体重	kg		握力	kg	
寝返り	<input type="checkbox"/>	つかまらないでできる	<input type="checkbox"/>	何かにつかまればできる	<input type="checkbox"/>	できない		
起き上がり	<input type="checkbox"/>	つかまらないでできる	<input type="checkbox"/>	何かにつかまればできる	<input type="checkbox"/>	できない		
立ち上がり	<input type="checkbox"/>	つかまらないでできる	<input type="checkbox"/>	何かにつかまればできる	<input type="checkbox"/>	できない		
座位	<input type="checkbox"/>	できる	<input type="checkbox"/>	自分の手で支えればできる	<input type="checkbox"/>	支えてもらえればできる	<input type="checkbox"/>	できない
排泄	<input type="checkbox"/>	自立(介助なし)	<input type="checkbox"/>	見守り等	<input type="checkbox"/>	一部介助	<input type="checkbox"/>	全介助
入浴	<input type="checkbox"/>	自立(介助なし)	<input type="checkbox"/>	見守り等	<input type="checkbox"/>	一部介助	<input type="checkbox"/>	全介助
要介護度	区分変更申請中 要支援1 要支援2 要介護1 要介護2 要介護3 要介護4 要介護5							
障害日常生活自立度	J. A. B. C. 特記事項あれば()							
認知症の日常生活自立度	I. II. III. IV. M.							

2. 援助方針	
リハビリテーションの方針 (総合リハ計画から)	
総合的な援助方針	
生活全般の解決すべき課題 (ニーズ)	
福祉用具利用の目標	
留意すべき 変化のポイント	

3. 利用している福祉用具			
用具の種類		選定理由(○はいくつでも)	
機種モデル名も記入		適合視点だけでなく、メンテナンス性、扱い易さ等も留意	
1.		1. 利用者への適合 2. 調整のしやすさ 3. 取扱いのし易さ	4. メンテナンスのし易さ 5. 価格の安さ 6. その他
2.		1. 利用者への適合 2. 調整のしやすさ 3. 取扱いのし易さ	4. メンテナンスのし易さ 5. 価格の安さ 6. その他
3.		1. 利用者への適合 2. 調整のしやすさ 3. 取扱いのし易さ	4. メンテナンスのし易さ 5. 価格の安さ 6. その他
4.		1. 利用者への適合 2. 調整のしやすさ 3. 取扱いのし易さ	4. メンテナンスのし易さ 5. 価格の安さ 6. その他
5.		1. 利用者への適合 2. 調整のしやすさ 3. 取扱いのし易さ	4. メンテナンスのし易さ 5. 価格の安さ 6. その他



3-1. 利用指導のポイント(3. で記入した用具について)			
3. で記入した用具の番号	生活動作の目標 福祉用具利用で実現しようとする生活動作について具体的に記入	適合・利用指導のポイント	
		各ケースでの適合判断のポイントを選択して具体的に記入(○は複数可)	各ケースでの動作指導、操作指導のポイントを具体的に記入
1.		1. 身体的適合 2. 環境的適合 3. 目的的適合 4. 社会的適合 5. その他	
2.		1. 身体的適合 2. 環境的適合 3. 目的的適合 4. 社会的適合 5. その他	
3.		1. 身体的適合 2. 環境的適合 3. 目的的適合 4. 社会的適合 5. その他	
4.		1. 身体的適合 2. 環境的適合 3. 目的的適合 4. 社会的適合 5. その他	
5.		1. 身体的適合 2. 環境的適合 3. 目的的適合 4. 社会的適合 5. その他	

4. 生活行動機能の状況

【総合的な身体能力:いずれか測定可能な指標を用いて記録する】

TUG (Time up to go)	タイム	秒	評価		使用した用具
10m 歩行	タイム	秒	評価		使用した用具
FRT (Functional reach test)	到達距離	cm	評価		使用した用具
LSA (Life Space Asesment)	レベル0 レベル1 レベル2 レベル3 レベル4 レベル5				使用した用具

移動支援機器(杖・歩行器・手すり、車いす・付属品等)

評価ポイント	7	6	5	4	3	2	1	使用した用具など 環境因子を記録
FIM(移動)	7. 50%以上可能 自立	6. 50%以上可能 介助なし 要補助具	5. 50%以上可能 見守り必要	4. 50%以上可能 介助量 25%以下	3. 50%以上可能 介助量 25%以上	2. 15%以上可能 介助量 75%未満	1. 15%以上可能 介助量 76%以上	
利用頻度 (1日あたり)	車いす	利用回数		回	合計時間		時間	
	歩行器	利用回数		回	合計時間		時間	
	杖	利用回数		回	合計時間		時間	
変化の把握 (変化のあった項目に○) ※初回は記入しない	1. 用具の使用条件の変化 2. 指導ポイントの変化 3. 介護負担の変化 4. 目標達成度の変化 5. その他			変化の状況とそれに対する評価を具体的に記入				

※頻度の項目について

病院は退院前の最大能力を記録、老健は記録時点での平均的な能力を想定して記録する。他の項目も同様とする。

特殊寝台・付属品

評価ポイント	7	6	5	4	3	2	1	使用した用具など 環境因子を記録
FIM(移乗)	自立 (介助・補助 用具なし)	手すりなど 補助用具 必要	見守りで移 乗可能	万々に備え 手添え必要	軽く引き上 げる	しっかり引 き上げる	全介助 二人介助	
動作の質の評価 (評価できる項目 に○)	1. 起上り、立ち上がりの安定性 2. 起上り、立ち上がりのスムーズさ 3. 起上り、立ち上がりの信頼感 4. その他			評価した項目の状況を具体的に記入				
頻度 (1日あたり)	操作 回数	回	離床 回数	回	ベッド上にいた時間		時間	
変化の把握 (変化のあった項目に○) ※初回は記入しない	1. 用具の使用条件の変化 2. 指導ポイントの変化 3. 介護負担の変化 4. 目標達成度の変化 5. その他			変化の状況とそれに対する評価を具体的に記入				

入浴関連(すのこ、いす、手すり)								
評価ポイント	7	6	5	4	3	2	1	使用した用具など 環境因子を記録
FIM(浴槽移乗)	自立 (介助・補助 用具なし)	手すりなど 補助用具 必要	見守りで移 乗可能	万ーに備え 手添え必要	軽く引き上 げる	しっかり引 き上げる	全介助 二人介助	
動作の質の評価 (評価できる項目 に○)	1. 浴槽移乗の安定性 2. 浴槽移乗のスムーズさ 3. 浴槽移乗の信頼感 4. その他			評価した項目の状況を具体的に記入				
頻度	浴槽に入っ た入浴	回(1週間合計) 分(1回あたり)			シャワー 浴	回(一週間合計) 分(1回あたり)		
変化の把握 (変化のあった項 目に○) ※初回は記入しない	1. 用具の使用条件の変化 2. 指導ポイントの変化 3. 介護負担の変化 4. 目標達成度の変化 5. その他			変化の状況とそれに対する評価を具体的に記入				

排泄(ポータブルトイレ、補高便座、昇降便座、手すり)								
評価ポイント	7	6	5	4	3	2	1	使用した用具など 環境因子を記録
日中の排泄 FIM (トイレ移乗)	トイレ	自立 (介助・補助 用具なし)	手すりなど 補助用具 必要	見守りで移 乗可能	万ーに備え 手添え必要	軽く引き上 げる	しっかり引 き上げる	全介助 二人介助
	PT	自立 (介助・補助 用具なし)	手すりなど 補助用具 必要	見守りで移 乗可能	万ーに備え 手添え必要	軽く引き上 げる	しっかり引 き上げる	全介助 二人介助
日中の排泄 FIM (トイレ動作)	トイレ	自立 (介助・補助 用具なし)	手すりなど 補助用具 必要	見守りで移 乗可能	万ーに備え 手添え必要	軽く引き上 げる	しっかり引 き上げる	全介助 二人介助
	PT	自立 (介助・補助 用具なし)	手すりなど 補助用具 必要	見守りで移 乗可能	万ーに備え 手添え必要	軽く引き上 げる	しっかり引 き上げる	全介助 二人介助
夜間の排泄 FIM (トイレ移乗)	トイレ	自立 (介助・補助 用具なし)	手すりなど 補助用具 必要	見守りで移 乗可能	万ーに備え 手添え必要	軽く引き上 げる	しっかり引 き上げる	全介助 二人介助
	PT	自立 (介助・補助 用具なし)	手すりなど 補助用具 必要	見守りで移 乗可能	万ーに備え 手添え必要	軽く引き上 げる	しっかり引 き上げる	全介助 二人介助
夜間の排泄 FIM (トイレ動作)	トイレ	自立 (介助・補助 用具なし)	手すりなど 補助用具 必要	見守りで移 乗可能	万ーに備え 手添え必要	軽く引き上 げる	しっかり引 き上げる	全介助 二人介助
	PT	自立 (介助・補助 用具なし)	手すりなど 補助用具 必要	見守りで移 乗可能	万ーに備え 手添え必要	軽く引き上 げる	しっかり引 き上げる	全介助 二人介助
動作の質の評価 (評価できる項目 に○)	1. トイレ移乗・動作の安定性 2. トイレ移乗・動作のスムーズさ 3. トイレ移乗・動作の信頼感 4. その他			評価した項目の状況を具体的に記入				
頻度 (1日あたり)	トイレ	回	ポータ ブル トイレ	回	その他	回		
変化の把握 (変化のあった項 目に○) ※初回は記入しない	1. 用具の使用条件の変化 2. 指導ポイントの変化 3. 介護負担の変化 4. 目標達成度の変化 5. その他			変化の状況とそれに対する評価を具体的に記入				

※「トイレ」「PT(ポータブルトイレ)」はどちらかあてはまる方を記録

5. 利用している福祉用具利用の心理的な評価について

以下の各項目について、現在利用している福祉用具を使うことによって、あなたの気持ちやどの程度変化したか、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、ますの中に✓などの印をお書きください。

例えば、「1)能力」について、(つえ、手すり、歩行器)のない時を「0」とし、それに比べて「能力」が著しく増加したと感じられる場合には「3」に印をつけて下さい。26項目すべてにご回答ください。ただし、どうしてもわからない場合は「0」に印をつけて下さい。

	減少したと感じる			⇔	増加したと感じる		
	-3	-2	-1	0	1	2	3
1) 能力 (生活の大切なことをうまくできる)	<input type="checkbox"/>						
2) 生活の満足度(幸福感)	<input type="checkbox"/>						
3) 自立度	<input type="checkbox"/>						
4) 様々な生活場面もどうにか対処できる	<input type="checkbox"/>						
5) とまどい(困ること)	<input type="checkbox"/>						
6) 日課を処理する効率	<input type="checkbox"/>						
7) 自分を好ましく感じる(自尊心)	<input type="checkbox"/>						
8) 生産性 (たくさんのできる)	<input type="checkbox"/>						
9) 安心感	<input type="checkbox"/>						
10) 欲求不満 (フラストレーション)	<input type="checkbox"/>						
11) 自分が世の中の役に立つ (有用性)	<input type="checkbox"/>						
12) 自身	<input type="checkbox"/>						
13) 知識を得ることができる	<input type="checkbox"/>						
14) 仕事や作業がうまくできる	<input type="checkbox"/>						
15) 生活がとてもうまくいっている	<input type="checkbox"/>						
16) もっといろいろなことができる(有用性)	<input type="checkbox"/>						
17) QOL(生活の質)	<input type="checkbox"/>						
18) 自分の能力を示すことができる(パフォーマンス)	<input type="checkbox"/>						
19) 活力 (パワー)	<input type="checkbox"/>						
20) したいことが思い通りにできる	<input type="checkbox"/>						
21) 恥ずかしさ	<input type="checkbox"/>						
22) チャレンジしたくなる	<input type="checkbox"/>						
23) 活動に参加できる	<input type="checkbox"/>						
24) 新しいことがしたくなる	<input type="checkbox"/>						
25) 日常の生活行動の変化に適応できる	<input type="checkbox"/>						
26) チャンスを活かせる	<input type="checkbox"/>						

リハ専門職票

利用者 ID :

【利用者基本情報】 ※2回目以降の記録では省略可

利用者の基本情報				
フリガナ		性別	生年月日	年齢
ご本人氏名	様	男・女	M・T・S 年 月 日	歳
入院・入所日	西暦 年 月 日	退院・退所日	西暦 年 月 日	

【記入経過の記録】

記入時点	記入日	記入者お名前	資格	所属
退院・退所前			1. OT 2. PT 3. その他()	
退院・退所直後			1. OT 2. PT 3. その他()	
退院・退所1か月後			1. OT 2. PT 3. その他()	
退院・退所2か月後			1. OT 2. PT 3. その他()	
退院・退所3か月後			1. OT 2. PT 3. その他()	
退院・退所4か月後			1. OT 2. PT 3. その他()	
退院・退所5か月後			1. OT 2. PT 3. その他()	
退院・退所6か月後			1. OT 2. PT 3. その他()	

資料3-2

退院・退所前の記録 (入院中から退院に向けての関わり)		作成者		
		作成日		
		退院(予定)日		
		年	月	日
退院前訪問	1. 実施した 2. 実施していない	訪問日		
		訪問した職種	1. 医師 2. 作業療法士 3. 理学療法士 4. 言語聴覚士 5. 看護師 6. MSW 7. エンジニア 8. 介護福祉士・介護スタッフ 9. 福祉用具事業者 10. 介護支援専門員 11. その他(各時点のその他欄に記入)	
		実施内容		
退院時 カンファレンス	1. 実施した 2. 実施していない	開催日		
		出席者(職種)	1. 医師 2. 作業療法士 3. 理学療法士 4. 言語聴覚士 5. 看護師 6. MSW 7. エンジニア 8. 介護福祉士・介護スタッフ 9. 福祉用具事業者 10. 介護支援専門員 11. その他(各時点のその他欄に記入)	
		リハおよび 福祉用具に 関する内容		
退院後に使用する 用具の選定	1. 実施した 2. 実施していない	検討メンバー	1. 医師 2. 作業療法士 3. 理学療法士 4. 言語聴覚士 5. 看護師 6. MSW 7. エンジニア 8. 介護福祉士・介護スタッフ 9. 福祉用具事業者 10. 介護支援専門員 11. その他(各時点のその他欄に記入)	
		検討内容		
住宅改修の 提案	1. 実施した 2. 実施していない	検討メンバー	1. 医師 2. 作業療法士 3. 理学療法士 4. 言語聴覚士 5. 看護師 6. MSW 7. エンジニア 8. 介護福祉士・介護スタッフ 9. 福祉用具事業者 10. 介護支援専門員 11. その他(各時点のその他欄に記入)	
		検討内容		
退院後の生活に 向けた指導	1. 実施した 2. 実施していない	指導内容		
その他				

退院・退所後の記録 (退院・退所後2週間までの関わりの記録) (○はいくつでも)		作成者		
		作成日(訪問日)	月	日
		退院日	月	日
訪問職種 (通所の場合はカンファレンス参加など)	1. 医師 2. 作業療法士 3. 理学療法士 4. 言語聴覚士 5. 看護師 6. MSW 7. エンジニア 8. 介護福祉士・介護スタッフ 9. 福祉用具事業者 10. 介護支援専門員 11. その他()			
ADL 指導	1. 食事動作 2. 排泄動作 3. 入浴動作 4. 着衣動作 5. 整容動作 6. 移乗動作 7. その他()		【特記事項・内容等】	
IADL 指導	1. 調理 2. 掃除 3. 洗濯 4. 買い物 5. その他(QOL向上に資することなど)			
基本動作指導	1. 寝返り 2. 起き上がり 3. いざり 4. 四つ這い 5. 床からの立ち上がり 6. 椅子からの立ち上がり 7. ベッドからの立ち上がり 8. 座位訓練 9. 立位訓練 10. 方向転換訓練 11. バランス訓練 12. 歩行訓練(屋内) 13. 段昇降 14. 階段昇降訓練 15. 車いす駆動訓練 16. その他()			
廃用予防・改善・その他の指導	1. 可動域訓練 2. 筋力増強 3. 体操指導(全身調整) 4. 呼吸訓練 5. 摂食・嚥下訓練 6. 言語訓練 7. 転倒予防体操 8. 転倒予防のための動作指導等 9. 姿勢矯正・アライメント改善 10. その他()			
生活圏拡大	1. 歩行訓練(屋外) 2. 玄関段昇降 3. 外出訓練 4. 車への移乗訓練 5. 公共交通機関の利用 6. その他()			
福祉用具 (利用指導を除く)	1. 福祉用具紹介・提案 2. 福祉用具デモ 3. 使用方法の説明 4. 適合調整 5. 日常点検 6. 作製 7. 用具の制度説明 8. その他()			
福祉用具利用の指導時間※	退院後2週間における訪問指導(または通所指導)の回数()回 福祉用具の指導時間() / 全体の指導時間()分 = ()% 主な指導内容:			
住宅改修・整備	1. 改造案説明 2. 改造事例の紹介 3. 住改の制度説明 4. 簡易な改修 5. 家具等の配置変更などの簡易な環境整備 6. 改修後の動作確認 7. その他()			
心理的サポート	1. 心理的サポート(本人) 2. 心理的サポート(家族)			
家族指導	1. 食事動作 2. 排泄動作 3. 入浴動作 4. 整容動作 5. 着衣動作 6. 移乗動作 7. 歩行介助 8. 車いす介助 9. 寝返り起き上がり 10. ポジショニング 11. その他()			
他機関・家族との連絡調整	1. 介護支援専門員との連絡調整 2. 福祉用具専門相談員との連絡 3. 他のサービス事業所との連絡調整 4. 各種サービス紹介 5. 家族との連絡調整 6. その他()			
その他				

※指導のために必要と判断されれば、見守り、訓練の時間も含めていただいて結構です。

退院・退所後の記録 (退院・退所後1ヶ月での関わりの記録) (〇はいくつでも)		作成者	
		作成日(訪問日)	月 日
		退院日	月 日
ADL 指導	1. 食事動作 2. 排泄動作 3. 入浴動作 4. 着衣動作 5. 整容動作 6. 移乗動作 7. その他()	【特記事項・内容等】	
IADL 指導	1. 調理 2. 掃除 3. 洗濯 4. 買い物 5. その他(QOL向上に資することなど)		
基本動作指導	1. 寝返り 2. 起き上がり 3. いざり 4. 四つ這い 5. 床からの立ち上がり 6. 椅子からの立ち上がり 7. ベッドからの立ち上がり 8. 座位訓練 9. 立位訓練 10. 方向転換訓練 11. バランス訓練 12. 歩行訓練(屋内) 13. 段差昇降 14. 階段昇降訓練 15. 車いす駆動訓練 16. その他()		
廃用予防・改善・ その他の指導	1. 可動域訓練 2. 筋力増強 3. 体操指導(全身調整) 4. 呼吸訓練 5. 摂食・嚥下訓練 6. 言語訓練 7. 転倒予防体操 8. 転倒予防のための動作指導等 9. 姿勢矯正・アライメント改善 10. その他()		
生活圏拡大	1. 歩行訓練(屋外) 2. 玄関段差昇降 3. 外出訓練 4. 車への移乗訓練 5. 公共交通機関の利用 6. その他()		
福祉用具 (利用指導を除く)	1. 福祉用具紹介・提案 2. 福祉用具デモ 3. 使用方法の指導 4. 適合調整 5. 日常点検 6. 作製 7. 用具の制度説明 8. その他() 前回記録後、退院後1ヶ月までの利用指導以外の訪問・通所の回数()回		
福祉用具利用の 指導時間※	前回記録後、退院後1ヶ月までの訪問・通所指導の回数()回 福祉用具の指導時間() / 全体の指導時間()分 = ()% 主な指導内容: ()		
住宅改修・整備	1. 改修案説明 2. 改修事例の紹介 3. 住改の制度説明 4. 簡易な改修 5. 家具等の配置変更などの簡易な環境整備 6. 改修後の動作確認 7. その他()		
心理的サポート	1. 心理的サポート(本人) 2. 心理的サポート(家族)		
家族指導	1. 食事動作 2. 排泄動作 3. 入浴動作 4. 整容動作 5. 着衣動作 6. 移乗動作 7. 歩行介助 8. 車いす介助 9. 寝返り起き上がり 10. ポジショニング 11. その他()		
他機関・家族との 連絡調整	1. 介護支援専門員との連絡調整 2. 福祉用具専門相談員との連絡 3. 他のサービス事業所との連絡調整 4. 各種サービス紹介 5. 家族との連絡調整 6. その他()		
その他			

※指導のために必要と判断されれば、見守り、訓練の時間も含めていただいて結構です。

介護保険における福祉用具サービスをシームレスに提供するために
必要な方策に関する調査研究事業

報告書

平成28年3月発行

発行者一般社団法人日本作業療法士協会
〒111-0042 東京都台東区寿一丁目5番9号
TEL 03-5826-7871
FAX 03-5826-7872

本事業は、平成27年度老人保健事業推進費等補助金の助成を受け、行ったものです。